



2007年度入学者用

履修ガイド

(リベラルアーツ学群改訂版)

この「履修ガイド (リベラルアーツ学群改訂版)」は、
2007年度に配布した「履修ガイド」の一部を改訂し、抜粋したものです。

桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群

目次

この「履修ガイド（リベラルアーツ学群改訂版）」は、
2007年度に配布した「履修ガイド」の一部を改訂し、抜粋したものです。
卒業するまで使用しますので、「履修ガイド」と併せて大切に保管し、
十分活用してください。

◆変更になった箇所は以下のページとなっています。

◆以下のページ以外は、2007年度に配布した「履修ガイド」を参照してください。

Ⅲ 授業科目と履修方法 13

1. 基盤教育院	13
1. 基盤教育院について	13
2. 基盤教育 Departメントの科目	14
3. フィールド教育 Departメントの科目	15
4. 外国語教育 Departメントの科目	16
2. リベラルアーツ学群	19
1. リベラルアーツ学群について	19
2. 学習区分と卒業要件	21
3. 専攻プログラム案内	22
4. 専攻科目と諸注意	90

Ⅵ 諸資格 170

1. 教職課程	170
(1) 教育職員免許状の取得について	170
(2) 本学の教職課程と取得できる免許状の種類と教科	171
(3) 教職課程履修上の注意事項	172
(4) 教職課程の構成	173
(5) 教職課程の履修方法	175
(6) 教育職員免許状の申請	197
(7) 各種証明書	197
2. 学校図書館司書教諭	198

Ⅲ 授業科目と履修方法

1. 基盤教育院

1. 基盤教育院について

基盤教育院は大学全体としての教育を行います。それぞれの学群は、学問領域や教育目標に従って専門教育を行う組織ですが、基盤教育院は大学での学びの基盤となるような教育を行う組織です。みなさんがそれぞれの学群で学習を行っていくための基礎基盤となる知識や技芸、体験・経験等を基盤教育院のプログラムでしっかり身につけることとなります。従って、入学後最初の1年から1年半の間に基盤教育院の科目を集中的に履修します。

基盤教育院には4つのデパートメント（教育部）があります。桜美林大学が全学教育としてももっとも重要だと考える教育領域です。（1）基盤教育デパートメント、（2）コミュニケーション教育デパートメント、（3）フィールド教育デパートメント、（4）外国語教育デパートメントです。基盤教育デパートメントには「キリスト教理解」「アカデミックガイダンス」「学問基礎」「専攻入門」などの科目区分があります。コミュニケーション教育デパートメントには「口語表現」「文章表現」「コンピュータリテラシー」「文章構成法」「日本語専門基礎」などの科目があります。フィールド教育デパートメントには「語学研修」「国際協力研修」「海外企業研修」「国際理解教育」「自主研究」「地域社会参加」などの科目があります。外国語教育デパートメントには「日本語」「英語」「中国語」「韓国語」「フランス語」「スペイン語」「ロシア語」等、数多くの外国語科目があります。

基盤教育院にはこの他に、複数の学習支援センターがあります。英語学習を中心とするセルフアクセスセンター、留学生の日本語学習のための日本語学習リソースセンター、ひとりひとりの学生の学修を総合的にサポートするコーナーストーンセンターです。学修アドバイザーやチューター等、様々なサポーターがみなさんの学習を支えてくれますので、積極的に活用してください。

2. 基盤教育院科目の履修について

基盤教育院の科目は、それぞれの学群の必修科目として指定されているものが多くあります。全学群共通に指定されている科目は、コア科目と呼ばれています。学群を問わず、全員必修です。その他に、選択必修科目や自由選択科目があります。学群が指定する科目数や単位数は学群によって異なりますので、各学群の卒業要件を必ず確認してください。

13-18ページの全内容差し替え

3. 基盤教育デパートメントの科目

科目区分	授 業 科 目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
キリスト教理解	キリスト教入門	2	1	○	
	聖書	2	1		
	キリスト教と他宗教	2	1		
	キリスト教と社会	2	1		
	キリスト教と芸術	2	1		
アカデミックガイダンス	自己実現とキャリアデザイン	2	1		
	リベラルアーツセミナー	2	1		リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修
	大学での学びと経験	2	1		
	キャリアデザインⅠ	2	3		「S」または「U」で成績評価
	キャリアデザインⅡ	2	3		「S」または「U」で成績評価
学問基礎	人文科学基礎	2	1		リベラルアーツ学群生は必修 ※
	社会科学基礎	2	1		リベラルアーツ学群生は必修 ※
	自然科学基礎	2	1		リベラルアーツ学群生は必修 ※
	学際・統合科学基礎	2	1		リベラルアーツ学群生は必修 ※
専攻入門	専攻入門	2	1		リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修 ※

※「人文科学基礎」「社会科学基礎」「自然科学基礎」「学際・統合科学基礎」「専攻入門」には（ ）内でサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

4. コミュニケーション教育デパートメントの科目

科目区分	授 業 科 目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
コミュニケーションスキルズ	口語表現Ⅰ	2	1	○	
	文章表現Ⅰ	2	1	○	
	コンピュータリテラシーⅠ	2	1	○	履修免除の場合有り
	コンピュータリテラシーⅡ	2	1		コンピュータリテラシーⅠ (履修免除者を含む)
	口語表現Ⅱ	2	1		口語表現Ⅰ
	文章表現Ⅱ	2	1		文章表現Ⅰ
	日本語専門基礎AⅠ	2	1	△	外国人留学生等のみ履修可(P.18参照)
	日本語専門基礎AⅡ	2	1	△	外国人留学生等のみ履修可(P.18参照)
	日本語専門基礎B	1	1	△	外国人留学生等のみ履修可(P.18参照)
	文章構成法	2	2		

13-18ページの全内容差し替え

5. フィールド教育部門の科目

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
フィールド スタディーズ	語学研修	2	1		「S」または「U」で成績評価
	国際協力研修	2	1		「S」または「U」で成績評価
	海外企業研修	2	1		「S」または「U」で成績評価
	国際理解教育	2	1		「S」または「U」で成績評価
	自主研究	2	1		「S」または「U」で成績評価
	地域社会参加	2	1		「S」または「U」で成績評価

注意：フィールドスタディーズ科目区分の履修は、GPAに基づく履修登録単位数の上限には含まれません。

6. 外国語教育部門の科目

授業科目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
英語コアⅠA	2	1	○	履修免除の場合有り
英語コアⅠB	2	1	○	履修免除の場合有り
英語コアⅡA	2	1	○	英語コアⅠA 履修免除の場合有り
英語コアⅡB	2	1	○	英語コアⅠB 履修免除の場合有り
英語エクステンションA	2	1		
英語エクステンションB	1	1		
日本語Ⅰ	2	1		短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅱ	2	1		短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅲ	2	1		短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅳ	2	1		短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅴ	1	1		短期留学生等のみ履修可
日本語Ⅵ	1	1		短期留学生等のみ履修可
日本語演習	1	1		(初級) 短期留学生等のみ履修可 (中級) 担当教員の許可を得て履修可
アラビア語Ⅰ	2	1		
アラビア語Ⅱ	2	1		
アラビア語Ⅲ	2	2		
アラビア語Ⅳ	2	2		
イタリア語Ⅰ	2	1		
イタリア語Ⅱ	2	1		
イタリア語Ⅲ	2	2		
イタリア語Ⅳ	2	2		
イタリア語Ⅴ	2	3		
イタリア語Ⅵ	2	3		
インドネシア語Ⅰ	2	1		
インドネシア語Ⅱ	2	1		

(次のページに続く)

13-18ページの全内容差し替え

授 業 科 目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
インドネシア語Ⅲ	2	2		
インドネシア語Ⅳ	2	2		
カンボジア語Ⅰ	2	1		
カンボジア語Ⅱ	2	1		
カンボジア語Ⅲ	2	2		
カンボジア語Ⅳ	2	2		
ギリシア語Ⅰ	2	1		
ギリシア語Ⅱ	2	1		
ギリシア語Ⅲ	2	2		
ギリシア語Ⅳ	2	2		
コリア語Ⅰ	2	1		
コリア語Ⅱ	2	1		
コリア語Ⅲ	2	2		
コリア語Ⅳ	2	2		
コリア語Ⅴ	2	3		
コリア語Ⅵ	2	3		
スペイン語Ⅰ	2	1		
スペイン語Ⅱ	2	1		
スペイン語Ⅲ	2	2		
スペイン語Ⅳ	2	2		
スペイン語Ⅴ	2	3		
スペイン語Ⅵ	2	3		
タイ語Ⅰ	2	1		
タイ語Ⅱ	2	1		
タイ語Ⅲ	2	2		
タイ語Ⅳ	2	2		
ドイツ語Ⅰ	2	1		
ドイツ語Ⅱ	2	1		
ドイツ語Ⅲ	2	2		
ドイツ語Ⅳ	2	2		
ドイツ語Ⅴ	2	3		
ドイツ語Ⅵ	2	3		
ビルマ語Ⅰ	2	1		
ビルマ語Ⅱ	2	1		
ビルマ語Ⅲ	2	2		
ビルマ語Ⅳ	2	2		
フランス語Ⅰ	2	1		

(次のページに続く)

13-18ページの全内容差し替え

授 業 科 目	単位数	履修年次	コア科目	先修条件ほか
フランス語Ⅱ	2	1		
フランス語Ⅲ	2	2		
フランス語Ⅳ	2	2		
フランス語Ⅴ	2	3		
フランス語Ⅵ	2	3		
ベトナム語Ⅰ	2	1		
ベトナム語Ⅱ	2	1		
ベトナム語Ⅲ	2	2		
ベトナム語Ⅳ	2	2		
ポルトガル語Ⅰ	2	1		
ポルトガル語Ⅱ	2	1		
ポルトガル語Ⅲ	2	2		
ポルトガル語Ⅳ	2	2		
ラテン語Ⅰ	2	1		
ラテン語Ⅱ	2	1		
ラテン語Ⅲ	2	2		
ラテン語Ⅳ	2	2		
ロシア語Ⅰ	2	1		
ロシア語Ⅱ	2	1		
ロシア語Ⅲ	2	2		
ロシア語Ⅳ	2	2		
中国語Ⅰ	2	1		
中国語Ⅱ	2	1		
中国語Ⅲ	2	2		
中国語Ⅳ	2	2		
中国語Ⅴ	2	3		
中国語Ⅵ	2	3		

注意

履修方法

① 原則として英語以外の外国語はⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴ→Ⅵの順で履修しなければなりません。

② リベラルアーツ学群

日本語以外の同一言語 8 単位または同一言語 4 単位を 2 言語 8 単位必修。

〔(○の例) コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、スペイン語Ⅰ②、スペイン語Ⅱ② 計 8 単位〕
 〔(×の例) コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、コリア語Ⅲ②、スペイン語Ⅰ② 計 8 単位〕

<外国人留学生等>

「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語」合計10単位を必修

13-18ページの全内容差し替え

18 Ⅲ 授業科目と履修方法／基盤教育院

とします。

ただし、「日本語」は一定のレベルに達していると認められる場合、履修を免除することがあります。

※「外国人留学生等」とは、日本語を母語としない学生のことです。

2. リベラルアーツ学群

1. リベラルアーツ学群について

リベラルアーツ学群は、大学の教育課程として身につけておくべき基礎学術としての学問分野を広く用意し、これらの中から幅広くかつ専門的に学ぶことを通して、社会のさまざまな分野で活躍するための総合的な知識を身につけ、かつ主体的に行動できる人材育成を目指しています。用意されているカリキュラムは、「幅広さ」と「高さ」に特徴があり、またこの中で学ぶ学生は「自立した学習者：Independent Learner」として位置づけられ、自由に自ら学ぶものを選択して学習するという特徴を持っています。

ここには人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学という全ての学問分野からなる「幅広い」領域の科目が用意されています。具体的には言語学・外国語、文学、哲学・思想、歴史・人類学、法・政治学、社会学、心理・教育、経済学、基礎数理、情報・環境の各分野の学習に必要な科目が網羅されております。さらに「高い専門性」を身につけることができるようになるために、必要な科目を抽出して設計された30の「専攻プログラム」が用意されています。

リベラルアーツ学群の学生は、まず基礎学習の「コア科目」、「外国語科目」、「基盤教育科目」を重点的に学びます。特に基盤教育の「学問基礎」で4分野の学問領域の基礎知識を学ぶとともに、「専攻入門」や「専攻科目」の履修を通して、各自の専門（メジャー）を何にするのかを選択してください。従って初めから自分の専門を決めておく必要はなく、さまざまな分野を学ぶことを通して、学問のおもしろさや新しい発見を行いながら自分で本当に学びたい専門を選択・決定することができます。4セメスター目には選択した専攻プログラムを登録し、自らの専門を高める学びを深めていくこととなります。なお、専攻プログラムの登録は、学生の自由な意志が尊重され人数制限等はありません。

学生の学びをサポートするために用意されているのがアカデミック・アドバイザー制度です。リベラルアーツ学群の学生に対するアドバイザーは、専門を宣言するまではリベラルアーツ学群の様々な分野の教員が担当します。リベラルアーツセミナーや履修相談等を通して、この学群で学ぶことの意義や目標、必要な学習方法等を指導し、専攻の選択をサポートします。~~専攻プログラムを選択・決定した後は、それぞれの専門分野の教員がアドバイザーとして専門的な知識の育成や研究の指導に対応します。~~
~~専攻プログラムの選択や科目履修上の相談については、各専攻毎に決められた専攻プログラム相談員の教員がサポートします。~~

専攻プログラム選択を行った後は、専攻プログラムの履修方法に基づき専門的な知識の習得や学問としての探求方法を本格的に学びます。ここでは履修モデルも数多く用意され、容易に履修計画が立案できるようになっております。また、専攻演習（ゼミ）は専門的な知識の育成のみならず、研究方法や調査方法などを担当教員から直接学びますので、専門の完成に重要な学びを行うことができます。メジャーは専攻プログラムそれぞれで指定された条件を満たして修得すれば卒業時に認定されます。また、専攻プログラムごとにマイナーも用意されていますので、1つのメジャーと他のマイナー、あるいは2つのメジャー（ダブルメジャー）等の組合せも可能です。すべて学生自らの選択にまかされていますので、アドバイザーや教員と十分相談しながら決めることが大切になります。

また、リベラルアーツ学群での学びには、広い国際的な視野を養うためにも外国語の修得のみならず海外体験も重要になっています。リベラルアーツ学群のために用意された海外研修プログラムや、本学で用意されているさまざまな留学プログラムに少なくとも1回参加することが強く勧めら

れています。

リベラルアーツ学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎学習：コア科目16単位、外国語科目 8 単位、基盤教育科目のキリスト教理解科目区分より 2 単位、アカデミックガイダンス科目区分より「リベラルアーツセミナー」 2 単位、学問基礎科目区分より「人文科学基礎」 2 単位、「社会科学基礎」 2 単位、「自然科学基礎」 2 単位、「学際・統合科学基礎」 2 単位、専攻入門科目区分より「専攻入門」 2 単位選択必修。その他、基盤教育科目より 4 単位選択必修。合計 42単位

専攻学習：各自が選択したプログラムで指定されている科目及び単位 合計40～44単位（専攻プログラムにより単位数は異なる）

自由学習：38～42単位

合計124単位（G P Aが入学時から通算1.5以上）

2. 学習区分と卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

所 属 区 分		リベラルアーツ学群		
基礎 学 習	コア科目 (注1)	キリスト教入門② 口語表現Ⅰ② 文章表現Ⅰ② 英語コアⅠA② 英語コアⅠB② 英語コアⅡA② 英語コアⅡB② コンピュータリテラシーⅠ② 16単位	「法」を削除 口語表現法 口語表現 文章表現法 文章表現	
	外国語教育 (P.15~18参照)	外国語(同一言語8単位または同一言語4単位を2言語8単位) 8単位(注2)		
	キリスト教 理 解	聖書② キリスト教と社会② キリスト教理解科目区分から2単位選択必修	キリスト教と他宗教② キリスト教と芸術②	左記で修得した 必修科目・選択 必修科目の他 に、基盤教育区 分の中から4単 位選択必修 (注3)
	コミュニケー ションスキルズ	コンピュータリテラシーⅡ② 文章表現Ⅱ②	口語表現Ⅱ② 文章構成法②	
	アカデミック ガイダンス	リベラルアーツセミナー② 自己実現とキャリアデザイン② 大学での学びと経験② リベラルアーツセミナー2単位必修		
	フィールド スタディーズ	語学研修② 海外企業研修② 自主研究②	国際協力研修② 国際理解教育② 地域社会参加②	
	学 問 基 礎	人文科学基礎② 自然科学基礎②	社会科学基礎② 学際・統合科学基礎② 8単位必修(各2単位×4)	
	専 攻 入 門	専攻入門② 2単位必修		
	基礎学習単位数	18単位 42(注4)		
	専攻学 習	専 攻 科 目	各自が選択した専攻プログラムで指定されている科目および単位	
	専攻学習単位数	40~44(専攻プログラムにより単位数は異なる)		
自由学 習	自学群専攻科目、他学群専攻科目、全学共通科目(教職に関する科目等を含む) 他大学等(短期大学・海外留学の科目を含む)、各種技能審査による認定単位			
	自由学習単位数	38~42(注5)		
卒業要件単位合計		124(GPAが入学時から通算1.5以上)		
その 他 の 要 件		専攻プログラムを1つ選び、メジャーとして必ず修了すること		

(注1) 外国人留学生等(日本語を母語としない者をいう。以下同じ。)及び一定以上の能力を有すると認定された者については、別に定めるところによります。

(注2) G Oプログラム終了者は、審査の上、外国語8単位の履修が免除されます。

(注3) アカデミックガイダンス区分の「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」はこの4単位選択必修に含まれません。学問基礎科目区分および専攻入門科目区分の科目は、それぞれ()内にサブタイトルが記載され、数種類の科目が開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。また、同じ科目名で異なるサブタイトルを2科目以上修得した場合は、2科目めからの単位を基礎教育科目のその他4単位必修の単位数として繰り入れることができます。

(注4) G Oプログラム修了者は、外国語8単位が免除される為、基礎学習単位数は34単位となります。

(注5) G Oプログラム修了者の自由学習単位数は46~50単位となります。

(注3) に追加

3. 専攻プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻プログラムが置かれています。リベラルアーツ学群の専攻科目で構成される専攻プログラムを登録すると、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たし、卒業時のメジャーおよびマイナー申請により、学業成績単位修得証明書にメジャーまたはマイナーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、リベラルアーツ学群以外の学群の専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、リベラルアーツ学群の専攻プログラムからだけでなく、他学群の専攻コースをマイナーとして登録することもできます。

メジャーおよびマイナーの登録は、4セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、メジャーおよびマイナーの変更もできます。

専攻プログラムの種類は、次ページのとおりです。

リベラルアーツ学群

専攻プログラム	メジャー	マイナー
英語	○	○
中国語	○	○
日本語日本文学	○	○
日本語教育	○	○
言語学	○	○
コミュニケーション学	○	○
英米文学	○	○
中国文学	○	○
現代・世界文学	○	○
キリスト教学	○	○
宗教学	○	○
哲学	○	○
倫理学	○	○
文化人類学	○	○
アメリカ地域研究	○	○
アジア地域研究	○	○
日本地域研究 (J)	○	○
歴史学	○	○
国際関係	○	○
国際協力	○	○
社会学	○	○
心理学	○	○
教育学 (教職教育)	○	○
国際経済	○	○
ビジネスエコノミクス	○	○
総合政策	○	○
基礎数理	○	○
情報科学	○	○
環境学	○	○
メディア (ジャーナリズム)	○	○
博物館学		○
日本地域研究 (E)		○
日本地域研究 (C)		○

英語専攻プログラム

1. 教育目的

現代社会において英語は、政治、ビジネス、メディア、インターネット等のあらゆる分野における主要な言語として位置づけられ、世界の英語話者は5億人から10億人もいるとされています。つまり英語を身につけることは、新たな可能性や出会いを生み出す契機となるわけです。

英語専攻プログラムでは、1年次より英語の4技能（話す・読む・書く・聴く）を最大限に高めていきます。また2年次以降は、「英語」を英語学、英語教育の観点から具体的かつ実践的に学習し、更に英語の背景にある文化的な事柄やコミュニケーション法に関して理解を深めることによって、真に「使える英語」を習得することを目指します。

英語専攻プログラムでは、「使える英語」はもちろんのこと、英語を通して英語圏社会や文化に関する知識を深めることで、グローバルな視点から世界を理解して自ら行動することができる「英語を武器に国内外で活躍できる国際人の育成」を目的としています。

2. カリキュラムの特徴

英語を専攻する学生は、ELP (English Language Program) で4技能の基礎を固め、さらに4つのカテゴリーから科目を選択、履修していくことになります。その4カテゴリーは、(1) 英語の基礎力を鍛える〈入門基礎〉、(2) 英語を研究対象とする〈英語学〉、(3) 英語を英語教育の観点から学ぶ〈英語教育〉、(4) 英語の背景にある文化やコミュニケーションについて学ぶ〈文化とコミュニケーション〉から構成されています。学生の皆さんはアカデミック・アドバイザーと相談の上、自分のニーズや興味にあった独自の英語専攻プログラムを作って学んでいくことになります。

具体的な科目を一部紹介すると、〈入門基礎〉は「英語文献講読」、「英語の音声」、「資格英語」など、〈英語学〉は「英語学講読」、「英語の歴史」、「英語統語論」、「応用言語学」など、〈英語教育〉は「早期英語教育」、「TEFL」など、〈文化とコミュニケーション〉は「映画と英語圏文化」、「アメリカ文化」、「イギリス文化」、「コモンウェルスの文化」、「異文化コミュニケーション」、「翻訳」、「通訳」などの科目から構成されています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入門基礎	英語文献講読 I a	2	1	100		2 単位 選択必修	
	英語文献講読 I b	2	1	100			
	英語文献講読 II a	2	2	200	英語文献講読 Ia 又は Ib	2 単位 選択必修	
	英語文献講読 II b	2	2	200	英語文献講読 Ia 又は Ib		
	英語の音声	4	2	200			
	英語学入門	4	2	200			
	資格英語 I (TOEIC)	2	2	200	重複履修可		
	資格英語 II	2	2	200	重複履修可		
時事英語講読	4	2	300				
英語学	英語学講読(現代英語の語法)	4	2	200	重複履修可	8 単位 選択必修	12単位 選択必修
	英語の歴史	4	2	200			
	社会言語学	4	2	200			
	コーパス言語学	4	2	300			
	英語語彙論	4	2	300			
	英語統語論	4	2	300			
	英語意味論	4	2	300			
	応用言語学	4	2	300			
テキスト言語学	4	2	300				
英語教育	英語教育学講読 (概説)	4	2	100		8 単位 選択必修	8 単位 選択必修
	早期英語教育	4	2	200			
	CALL	4	2	200			
	英文法指導法	4	2	200			
	英作文指導法	4	2	200			
	第二言語習得法	4	2	300			
	TEFL	4	2	300			
	言語テストと評価	4	2	300			
	英語教材開発	4	2	300			
言語と心理	4	2	300				
文化とコミュニケーション	英米文化講読(日米間コミュニケーション)	4	2	200	重複履修可	8 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	アメリカ文化(メディアと民族)	4	2	300	重複履修可		
	イギリス文化(現代イギリスの社会と文化)	4	2	300	重複履修可		
	コモンウェルスの文化(オーストラリア)	4	2	300	重複履修可		
	異文化コミュニケーション	4	2	200	現代コミュニケーション理論		
	カルチュラル・スタディーズ	4	2	300			
	映画と英語圏文化(米文化)	4	2	300	重複履修可		
	映画と英語圏文化(英文化)	4	2	300			
	翻訳(英→日)	4	2	300			
	翻訳(日→英)	4	2	300			
	通訳 I	4	2	300			
	通訳 II	4	2	300			
	英語コミュニケーション A	4	2	300			
英語コミュニケーション B	4	2	300				
英語コミュニケーション C	4	2	300				
英語コミュニケーション D	4	2	300				
上記選択必修科目を含め、計 40単位						計 24単位	

一行削除

中国語専攻プログラム

1. 教育目的

中国語専攻プログラムは、「聞く・話す・読む・書く」という4技能を最大限に高めることにより、「使える中国語」を身に付けると共に、中国の文化・社会・経済・日中文化の違いを学び、国際感覚を持つ、時代に求められている人材の育成を目的とします。

「世界の工場」から「世界の市場」に変貌した中国は、ますます世界に注目されています。2005年、日中間の貿易額はついに日米間の額を超え、中国は日本の最大貿易国となりました。

このような時代に最先端で活躍できる人材を育てることは中国語専攻プログラムの使命だと我々は思っています。

グローバル化時代であるからこそ、「あなたは他人とどう違うのか」が求められます。中国語専攻プログラムはあなたの価値を最大限に引き出すことを最大目標としています。

2. カリキュラムの特徴

中国語専攻プログラムは、〈中国語入門〉・〈中国語技能〉・〈中国言語学〉・〈中国学〉4つのカテゴリーから44単位を修得することを修了要件としています。ただし、ぜひ理解していただきたいのは、この44単位は専攻修了の最低条件であることです。

中国語専攻カリキュラムの特徴は、(1)中国語技能科目の充実。「聞く・話す・読む・書く」4技能の養成の内在的な要求に従って科目が編成されています。(2)カリキュラム編成の国際化。最低半年間中国語圏への留学をカリキュラムの一環と位置づけ、極力推奨します。(3)孔子学院「中国語特別課程」との連動。中国語を専攻とする学生は、半年間若しくは1年間中国語技能を本格的に集中訓練する本学孔子学院の「中国語特別課程」の科目を履修することができます。修得した単位はそのまま中国語専攻の単位となります。(4)中国文化・社会・歴史・経済、幅広い中国教養科目の提供。中国と付き合うための「今日に必要な知識」と「明日に必要な知識」は専攻プログラムの一部としてカリキュラムに編成されています。(5)日本での学習も留学先での学習も常に国際感覚が身につくことを重視しています。「国際人になる難しさ」から「国際人になる楽しさ」・「国際人になる充実感」まで体験してもらうことがカリキュラムの1つの狙いです。

3. 修了要件

メジャー：合計44単位以上

マイナー：合計24単位以上

次ページ中国語専攻プログラム表中の注意

- ①中国言語学カテゴリー、中国学カテゴリーにおけるレベル200の科目を履修するには、レベル100の科目を1科目以上修得していることが望まれます。また、レベル300の科目を履修するには、レベル200の科目を1科目以上修得していることが望まれます。
- ②中国語母語話者若しくは既習者と認められた者に対し、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「中国語会話Ⅰ」「中国語会話Ⅱ」の必要単位数の全部若しくは一部を免除することがあります。免除された場合は、メジャーの修了要件単位数が変動します。
- ③中国語母語話者若しくは既習者と認められた者は、先修条件を免除されることがあります。

(注1) 中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位

(注2) 中国語Ⅲ、中国語Ⅳ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bから4単位

学科	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
中国語入門	中国語Ⅰ	2	1	100		4単位 選択必修	
	中国語Ⅱ	2	1	100			
	中国語会話Ⅰ	2	1	100			
	中国語会話Ⅱ	2	1	100			
中国語技能	中国語発音トレーニング	1	1	100		24単位 選択必修	16単位 選択必修
	中国語リスニングⅠ	1	1	200	(注1)		
	中国語リスニングⅡ	2	2	300	(注2)		
	中国語リスニングⅢ	2	2	300	(注2)		
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	(注1)		
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	(注1)		
	中国語会話Ⅴ	2	2	300	(注2)		
	中国語会話Ⅵ	2	2	300	(注2)		
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	(注1)		
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	(注2)		
	ビジネス中国語Ⅰ	2	1	200	(注1)		
	ビジネス中国語Ⅱ	2	2	300	(注2)		
	ビジネス中国語Ⅲ	2	2	300	(注2)		
	時事中国語	2	2	300	(注2)		
	日中翻訳技法	2	2	300	(注2)		
	日中通訳技法	2	2	300	(注2)		
	検定・資格中国語A	2	2	200	(注1)		
	検定・資格中国語B	2	2	200	(注1)		
中国語作文Ⅰ	2	2	300	(注2)			
中国語作文Ⅱ	2	2	300	(注2)			
中国言語学	中国語学概論	2	1	100		8単位 選択必修	
	中国語音声学	4	1	200			
	中国語文法	4	1	200			
	中国語教育研究	4	2	300			
	中国文字学研究	4	2	300			
	日中対照言語研究	4	2	300			
中国学	中国文学概論	4	1	100		8単位 選択必修	8単位 選択必修
	中国古典文学史	4	1	200			
	中国近現代文学史	4	2	200			
	中国思想史	4	1	200			
	現代中国文化論	4	2	200			
	中国地域研究	4	2	300			
	日中比較文化	4	2	200			
	中国文化史	4	2	200			
	日中跨文化交際	4	2	200			
	中国の芸術	4	2	300			
	中国のマスコミ	4	2	300			
中国経済論	4	3	300				
						計 44単位	計 24単位

日本語日本文学専攻プログラム

1. 教育目的

日本語日本文学専攻プログラムは、日本語や日本文学についての知識・教養や専門的な研究方法を身に付けるとともに、日本語を通じた理解力・表現力・思考力を磨くことを目的としています。

国際化、情報化、価値観の多様化の進展する今日、しっかりとした自己を確立し、様々な価値観を持つ人々や異文化を背景とする人々と柔軟にコミュニケーションを図りながら活躍できる人材が求められます。我が国の言語や文化に対する造詣を持ち、日本語の優れた使い手であることは、これからの時代を生きる教養ある国際人に必要な条件と言ってよいでしょう。日本語や日本文学を深く学ぶことは、自己理解・自己確立のための大きな力となります。もちろん、それらの素養を活かして、国語の教員となったり、報道や出版の分野などに進んだりすることも考えられるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは〈言語〉〈文学〉〈技能〉の3カテゴリーから成っています。

〈言語〉は、日本語を中心とした言語に関する知識と研究方法に関するカテゴリーです。これらを学んで日本語を多面的に理解し、言語一般への目も広げることができます。

〈文学〉は、古代から現代に至る日本文学と、日本語・日本文学に大きな影響を与えてきた中国古典文学（漢文）に関するカテゴリーです。日本人の心性や教養の原点とも言える古典や、近現代の人間・社会を映した文学を、深く読み込み、学んでいきます。

〈技能〉は、文字言語・音声言語にわたる日本語の表現力を養うことを中心としたカテゴリーです。書道や朗読、コンピュータによる言語分析、漢字検定対応の科目もあります。

教職課程を履修し、上記科目群から指定された科目を履修することにより、中学・高校の「国語」教員免許状を取得することも可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

日本語教育専攻プログラム

1. 教育目的

日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるに連れ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースはことばです。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学習目的に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の学習と教育、コミュニケーション能力、異文化理解などについて学びます。

将来、国の内外で日本語教育およびその関連の仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を専門として研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。また、国際的な機関で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。

2. カリキュラムの特徴

本プログラムは理解と実践的学習を支える4つのカテゴリーから成っています。

〈言語知識〉文字、音声、語彙、文法など、さまざまな側面から、日本語の仕組みを客観的に捉えなおします。また、社会生活の中での言語現象、言語運用を認識し、多角的な視野から人間と言語を把握します。

〈教育・習得〉言語・日本語を、学ぶ立場と教える立場から考察し、実践的な知識を獲得します。また、日本語の指導法を学び、留学生を対象に教壇実習を行ないます。

〈スキル〉人間関係の基本であるコミュニケーション能力を養うとともに、書写・漢字・表現・作品鑑賞など種々の側面から日本語の運用力を高めます。コンピュータを用いて言語を分析する手法を学ぶ科目もあります。

〈文化・共生〉多様な文化を学ぶことにより、自文化・他文化に対する意識を高め、相互理解の手だてを身につけます。海外での活動を内容とする「国際理解教育(海外協働学習体験)」も用意されています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学び	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
言語知識	日本語学概論	2	1	100		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本語の表現	4	1	100			
	日本語の文字・表記	2	1	100			
	日本語の音声	2	1	200			
	日本語の語彙・意味	4	1	100			
	日本語の文法	4	1	200			
	言語と文化	4	2	200			
	社会言語学	4	2	200			
	ことばの比較	2	1	100			
	日中対照言語学	2	2	300			
	応用言語学	4	2	300			
	プラグマティックス	4	3	300			
	言語人類学	4	2	200			
	談話分析	4	2	200			
日本語史	2	4	400				
テキスト言語学	4	2	300				
教育・習得	言語習得法	2	1	100		18単位 選択必修	12単位 選択必修
	日本語教育学A	2	1	100	必修		
	日本語教育学B	2	1	100	必修		
	日本語教育文法	2	2	200			
	日本語教授法	4	2	200	必修		
	言語と心理	4	2	300			
	年少者教育・バイリンガル教育	2	3	300			
	日本語教育実習	4	3	300	日本語教授法 必修		
	日本語教材開発	2	2	300			
	マルチメディア日本語教育	2	2	300			
	日本語の評価法	2	2	400			
カリキュラムデザイン	2	2	400				
スキル	書写	2	1	100		4単位 選択必修	
	国語・漢字検定Ⅰ	2	1	100			
	国語・漢字検定Ⅱ	2	1	100			
	オーラルコミュニケーション(きく)	2	1	100			
	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100			
	言語表現A	2	1	200			
	言語表現B	2	1	200			
	対人コミュニケーション	4	2	200	現代コミュニケーション理論		
言語データ分析	2	2	300				
文化共生	若者の文化	2	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること	6単位 選択必修	2単位 選択必修
	多言語交流演習	2	1	100			
	国際理解教育(海外協働学習体験・韓国)	2	1	100	[S]または[U]で成績評価		
	朗読	2	1	100			
	日本文学講読B	2	1	200			
	文化人類学	4	1	100			
	世界史における日本	4	2	200			
	韓国文化論	4	2	200			
	現代中国文化論	4	2	200			
	異文化理解教育	4	3	300			
現代文学の世界	4	2	300				
						計 40単位	計 24単位

言語学専攻プログラム

1. 教育目的

ことばは様々な側面を持つ多面体です。最初は動物学や論理学などできるだけ離れた専攻プログラムと言語学を組み合わせ、5セメスター目以降は興味を一つに集中させてください。しかし、最も効き目のある強い薬は一年間海外に出かけ、身をもって「外国人」になることの意味を知ることです。こうした経験を経た後に、ことばは以前とはまったく違った問題として意識されるようになります。地球上にことばは7000近く現存するといわれます。ことばに関わる職業もまた人間が活動するあらゆる分野に広がっています。四年間を通して、最低母国語で書いて思考することの意義と技術の体得を目標にしてください。

2. カリキュラムの特徴

一つのことばは移住によって広がりますが、その広がりには戦争によって分断されるかもしれません。こうした問題に興味がある人には歴史、地理、法律、国際関係についての知識が必要です。一方、せまい局面でもことばの実相をとらえることに興味がある人もいるでしょう。対極する例も挙げておきます。私たちはことばを使うと同時に、身体動作もそれに附随させます。この種の問題には人類学、プラグマティクス、コミュニケーション理論、心理学などが不可欠な知識を提供してくれるはずです。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学 年	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導 入	現代コミュニケーション理論	4	1	100		12単位 選択必修	24単位 選択必修	
	数学概論	2	1	100				
	応用言語学	4	2	300				
	言語習得法	2	1	100				必修
	データベース入門	4	2	200	コンピュータリテラシーⅡ			
	社会調査法	4	2	200				
	動物学	4	2	200				
	日本語の音声	2	1	200				必修
	英語の音声	4	2	200				
	中国語音声学	4	1	200				
歴 史	言語政策論	4	3	200		4単位 選択必修	24単位 選択必修	
	言語とジェンダー	4	3	300	異文化コミュニケーション			
	レトリックの歴史	2	2	300				
	世界史における日本	4	2	200				
理 論	日本語の表現	4	1	100		24単位 選択必修	24単位 選択必修	
	社会言語学	4	2	200				
	言語と心理	4	2	300				
	談話分析	4	2	200				必修
	対照言語学	4	2	300				必修
	認知の科学	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ			
	論理学	4	3	200				
	言語人類学	4	2	200				
	プラグマティックス	4	3	300				
	テキスト研究理論	4	2	300				
日本語の語彙・意味	4	1	100					
						計 40単位	計 24単位	

注意

- ①メジャーを修了するには、レベル300の科目を16単位以上修得すること。
 ②マイナーを修了するには、レベル300の科目を8単位以上修得すること。

コミュニケーション学専攻プログラム

1. 教育目的

21世紀を生き抜く現代の若者は、国際化が進み、多様化し複雑化する社会の中で、自分のもっている能力を十分に発揮して、これからの社会に貢献することが強く期待されています。そのためには、円滑な人間関係が築くことのできるコミュニケーション能力が、今まで以上に、ますます求められる時代になってきました。コミュニケーション学専攻プログラムの教育目的は、このような社会の中で、物事を深く理論的に捉えることができる知識を身につけ、その考えを自分の言葉で豊かに表現できる人材、そして日本人だけではなく、文化背景の異なる人でも、人と人とのつながりを大切にしながら、共感力あふれるコミュニケーション能力を身につけたリーダーシップの発揮できる人材の育成をめざしています。そのためには、思考力育成のための知識である「表現内容」と同時に「表現（コミュニケーション）方法」の実践教育が不可欠です。コミュニケーション・コースでは「内容表現」だけではなく「表現方法」にも重点をおいた教育を行います。

2. カリキュラムの特徴

コミュニケーション学専攻プログラムでは、総合的な人間力を兼ね備えたコミュニケーション能力のある優れた人材育成のために、多岐にわたる科目が用意されています。コミュニケーションの基礎概念を学ぶ「現代コミュニケーション理論」から、「対人コミュニケーション」「集団コミュニケーション」「組織コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」の分野まで、将来自分が就きたい職業も視野に入れて、幅広い科目の中からコミュニケーションを学ぶことができます。

例えば、コミュニケーション教育や企業研修に携わる人には、集団でのリーダーシップのとり方、組織内での円滑なコミュニケーションのとり方を学び、国際的な場で活躍したい人には、国際的な視野に立って物事を考え、文化背景の異なる人とのよりよい人間関係の築くことのできる異文化コミュニケーション能力の養成や、実践を通してオーラル・コミュニケーション能力の養成を目指すなど、学んだ理論や知識を実践力として身につけることができるように、多彩なカリキュラムが組まれています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
コミュニケーション理論	現代コミュニケーション理論	4	1	100		必修	必修
	対人コミュニケーション	4	2	200	現代コミュニケーション理論	必修	必修
	異文化コミュニケーション	4	2	200	現代コミュニケーション理論		
	集団コミュニケーション	2	1	200		必修	必修
	言語とジェンダー	4	3	300	異文化コミュニケーション		
	異文化理解教育	4	3	300			
	組織コミュニケーション	4	2	200	集団コミュニケーション	必修	
	国際コミュニケーション	4	3	300	現代コミュニケーション理論		
言語・レトリック	メディアコミュニケーション	2	3	300			
	談話分析	4	2	200			
	テキスト研究理論	4	2	300			
	現代レトリック論	4	3	300			
心理	プラグマティックス	4	3	300			
	人間関係論入門	2	1	100		40単位 選択必修	24単位 選択必修
	心理学	4	1	100			
社会心理学	4	2	200				
情報・メディア	メディア -きのう 今日 明日-	2	1	100			
	認知の科学	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200			
	マルチメディア表現Ⅱ	4	3	300	コンピュータリテラシーⅠ、マルチメディア表現Ⅰ		
	Web ページプログラミング	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報ネットワーク入門	2	3	300	コンピュータリテラシーⅠ、情報システム論		
実習・演習	情報と職業	2	3	300	情報システム論		
	オーラルコミュニケーション(きく)	2	1	100		必修	必修
	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100		必修	必修
	文章表現の技術	2	2	300	文章表現法Ⅱ		
	プレゼンテーション演習	2	2	100			
	コミュニケーション学特論(非言語)	4	2	200			
コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	2	200				
						計 40単位	計 24単位

法を削除 文章表現

英米文学専攻プログラム

1. 教育目的

優れた文学作品は、他者の人生に触れ人間について考えさせてくれると共に、そこに映しだされている地域とその時代の歴史、文化について知るためのまたとない材料です。英米文学専攻プログラムでは、文学作品を読む楽しみを知ることと、英語圏文化について学ぶことを2本の柱にしています。ここでは、文学作品の理解を深めるために、作品と分かちがたく結びついている文化を学ぶということも可能ですし、文化について深く学ぶためにその地域、時代を文学作品という切り口から眺めることも可能です。そしてこれらの学びを支えるために必要なのが、作品を読みこなすための英語運用能力です。英米文学専攻プログラムは、英米の文学・文化を学ぶことで培われた異文化理解と人間に対する豊かな洞察力、文学作品を読むことで獲得したしっかりとした語学力を兼ね備え、バランスの取れた、広く社会で活躍できる人材を育てることを目指しています。

2. カリキュラムの特徴

英米文学専攻プログラムは①〈入門・基礎〉、②〈文学〉、③〈文化〉の3つのカテゴリーから成っています。

①〈入門・基礎〉は、文学作品の読み方を学ぶための演習科目や、専攻分野を学ぶための基礎となる科目をはじめ、英米文学と関係の深いキリスト教や、地域の文化、歴史に関する科目、いわば専攻分野の学びを支え、広がりを持たせるための科目で構成されています。②〈文学〉は作品を通して文学史の概要を理解するための科目、分野やテーマ別に作品を精読して、解釈、分析を行う科目などから、③〈文化〉は、英米の文化を知るための素材となる作品を扱う科目や、映画なども用いてさまざまな角度から英語圏の文化について理解を深めるための科目で構成されています。

2年次から本格的に専攻科目の履修が始まりますが、英米文学専攻プログラムの科目だけにとどまらず、他の専攻プログラムの科目も自由に履修し、またはマイナーとして組みあわせることで、個々の興味にあわせた、幅広い学習が可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計44単位以上

マイナー：合計24単位以上

学 年	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入 門 ・ 基 礎	英語文献講読Ⅰ a	2	1	100		} 2単位 選択必修	} 12単位 選択必修
	英語文献講読Ⅰ b	2	1	100			
	英語文献講読Ⅱ a	2	2	200	英語文献講読Ⅰ a又はⅠ b	} 2単位 選択必修	
	英語文献講読Ⅱ b	2	2	200	英語文献講読Ⅰ a又はⅠ b		
	英米文学入門	4	2	200		必修	
	英語学入門	4	2	200			
	英語の歴史	4	2	200			
	キリスト教と芸術	2	1	100			
	アメリカ研究概論	4	2	200			
	カナダの社会と文化	4	2	200			
	アメリカの文化	4	2	200			
	アメリカの歴史	4	2	200			
	アメリカ思想史	4	2	200			
アメリカ社会史	4	2	200				
文 学	英米文学講読 (英米小説)	4	2	200	重複履修可	} 12単位 選択必修	} 16単位 選択必修
	英米文学講読 (英米演劇)	4	2	200	← 一行削除		
	19世紀のイギリス文学	4	2	200			
	20世紀のイギリス文学	4	2	200			
	19世紀のアメリカ文学	4	2	200			
	20世紀のアメリカ文学	4	2	200			
	批評理論入門	4	2	200			
	英米児童文学	4	2	300			
	英米文学と宗教	4	2	300			
	コモンウェルスの文学	4	2	300			
	英米演劇文学	4	2	300			
テーマで読む文学	4	2	300				
翻訳 (英→日)	4	2	300				
文 化	英米文化講読 (日米間コミュニケーション)	4	2	200	重複履修可	} 8単位 選択必修	
	イギリス文化 (現代イギリスの社会と文化)	4	2	300	重複履修可		
	アメリカ文化 (メディアと民族)	4	2	300	重複履修可		
	コモンウェルスの文化 (オーストラリア)	4	2	300	重複履修可		
	映画と英語圏文化 (米文化)	4	2	300	重複履修可		
	映画と英語圏文化 (英文化)	4	2	300	← 一行削除		
	ポップ・カルチャー	4	2	300			
	カルチュラル・スタディーズ	4	2	300			
人種と民族	4	2	300				
						上記選択必修科目を 含め、計 44単位	上記選択必修科目を 含め、計 24単位

中国文学専攻プログラム

1. 教育目的

中国の文学・思想は、近代以前には、中国はもちろん日本においても、学問的枠組みから人々の思考様式までを幅広く規定する文化の骨格的要素を担っていました。このプログラムは、中国文学・思想を学び基本的な知識を習得するとともに、その学びを通じて、中国・日本の文化・思考様式に対してより深く理解することを目的とするものです。西洋的価値観では捕えきれない巨大かつ体系的な世界観に触れることとなりますので、このプログラムを学習していくことで、モノゴトを複眼的に見るための新しい視点を得られるでしょう。また、みなさんが人生をより豊かに送るために必要な広く見て深く考える力を会得することも可能となるでしょう。もちろん、漢詩や三国志演義(いわゆる三国志)、あるいは魯迅の文学など、中国文学には非常に興味深い作品がたくさん含まれています。そのような作品そのもののおもしろさにもぜひ触れてみてください。

2. カリキュラムの特徴

中国文学専攻プログラムは、中国語の能力を無理なく高め、同時にそれと並行して中国知識人の教養の基礎となっている（また東アジアの伝統的な枠組みにおける学問的基礎でもある）中国の文学・思想について順を追って理解を深めていくことができるよう、「中国語→文学概論・講読→文学史・思想史・文化史→文学研究・思想研究・文字学研究」という順番で段階的に少しずつ学習を進めていけるようなカリキュラム構成になっています。中国語・中国文学・中国思想に関する科目はもちろん、「中国文字学研究」や「中国の芸術」など豊富な科目がプログラムに組み込まれていますので、みなさんの興味に沿って履修する科目を選択してってください。また、さらに深く専門的に研究を進めたいという人たちのために、「専攻演習」（ゼミ）や「卒業論文」等の科目も開講されています。これらの科目を継続して履修することで、「中国学」の第一線の現場に触れることも可能です。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
語 学	中国語Ⅰ	2	1	100		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	中国語Ⅱ	2	1	100			
	中国語会話Ⅰ	2	1	100			
	中国語会話Ⅱ	2	1	100			
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	(注1)		
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	(注1)		
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	(注1)		
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	(注2)		
文 学	中国文学概論	4	1	100		40単位 選択必修	24単位 選択必修
	中国文言文講読	2	2	100			
	中国近現代文学史	4	2	200			
	中国古典文学史	4	1	200			
	中国思想史	4	1	200			
	現代中国文化論	4	2	200			
	日中比較文化	4	2	200			
	中国文化史	4	2	200			
	中国近現代文学研究	4	2	300			
	中国古典文学研究	4	2	300			
	中国の芸術	4	2	300			
	中国文字学研究	4	2	300			
	中国古代思想研究	4	2	300			
	中国近現代思想研究	4	2	300			
	中国のマスコミ	4	2	300			
中国地域研究	4	2	300				
						計 40単位	計 24単位

注意

- ①文学カテゴリーにおけるレベル200の科目を履修するには、レベル100の科目を1科目以上修得していることが望まれます。また、レベル300の科目を履修するには、レベル200の科目を1科目以上修得していることが望まれます。
- ②中国語母語話者もしくは既習者は、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「中国語会話Ⅰ」「中国語会話Ⅱ」の全部もしくは一部の履修を免除されることがあります。その場合は、他の科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。

(注1) 中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位

(注2) 中国語Ⅲ、中国語Ⅳ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、中国語講読Ⅰ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語A、検定・資格中国語Bから4単位

現代・世界文学専攻プログラム

1. 教育目的

19世紀初め、ドイツの文豪ゲーテは、世界各国の国民文学が成立し、各国間の通信連絡手段の発達した段階で、世界各国文学を人類共有の精神的財貨として、積極的に相互交流するの必要を感じて、「世界文学の時代を招致すべく急がねばならぬ」と主張しました。現代は、インターネットなどの普及によって、ゲーテの時代とは比べようもないほど諸国民間のコミュニケーションの機会が飛躍的に高まり、まさに文字通り「世界文学の時代」がやってきたと言ってよいでしょう。イラクやパレスチナなど世界各地で生じている敵意に満ちた民族間対立、宗派間対立を見るにつけ、文明間の対話、異文化交流の必要を感じます。文学こそは国民性を理解するもっとも有力な手段です。なぜなら優れた文学は作家の良心の結晶であり、国民大衆の生活のこだまとなって、鏡のようにその国の現実と国民性を反映しているからです。日本と諸外国の優れた文学を学ぶことによって、自己のみならず他者をも認識することが条件とされる国際人として、必須の教養を身につけることが本専攻の目的です。

2. カリキュラムの特徴

1年次では、「専攻入門」で世界文学史の概観をつかみ、主として日本の近現代文学を世界文学の中に位置づけて学びます。2年次以降は「批評理論入門」、「比較文学」などの理論科目と並行して、日本のほかイギリス、アメリカ、ロシア、韓国、中国、フランス、7ヶ国の文学科目が置かれています。本専攻の名称が「現代・世界文学」となっているのは、現代に力点が置かれているということであって、世界文学の古典的名作が度外視されているわけでは決してありません。したがって、20世紀文学が重視されていますが、それ以前の古典的名作も対象としており、「近代文学の世界」と「現代文学の世界」は日本文学を中心とした講義となります。現代の社会・文化全般との関わりも重視していますので、「現代中国文化論」、「現代資本主義論」、「中国近現代思想研究」、「ポップ・カルチャー」などの科目も置かれています。「比較文学」という科目もあるので、2カ国文学の比較研究も可能です。優秀な卒業論文は、年1回発行の雑誌「桜美林世界文学」に掲載することと致します。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

名 義	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	批評理論入門	4	2	200		必修	必修
歴 史	ロシアの社会と文化	4	2	100		16単位 選択必修	12単位 選択必修
	20世紀のイギリス文学	4	2	200			
	20世紀のアメリカ文学	4	2	200			
	20世紀のロシア文学	4	2	200			
	韓国文化論	4	2	200			
	中国近現代文学史	4	2	200			
	近代文学の世界	4	2	300			
理 論	現代中国文化論	4	2	200		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	現代資本主義論	4	3	300			
	比較文学	4	2	300			
	中国近現代思想研究	4	2	300			
ト ピ ク ス	日本文学講読A	2	1	200		8単位 選択必修	
	日本文学講読B	2	1	200			
	日本文学講読C	2	1	200			
	日本文学講読D	2	1	200			
	日本文学講読E	2	1	200			
	フランス文学	4	2	200			
ポップ・カルチャー	4	2	300				
						上記選択必修科目を 含め、計 40単位	上記選択必修科目を 含め、計 24単位

キリスト教学専攻プログラム

1. 教育目的

日本におけるキリスト教徒の数は総人口の1%にも達しません。しかしキリスト教主義の学校は大学・短大だけで130校以上あり、小学・中学・高校の数は390校にもなります。本学もキリスト教を建学の精神として設立された大学です。日本は近代化への道を歩み始めたころからキリスト教文化圏の国々との交流を重んじてきました。それ以来、教育と文化の面でキリスト教は日本に少なからぬ影響を与えてきました。世界を見渡すと、世界総人口のうち三分の一がキリスト教徒です。特に近年はアフリカ各地で急速にキリスト教人口が増えつつあります。

キリスト教学専攻プログラムは、世界を見る目、歴史を見る目を養い、諸文化の価値観・世界観を吟味することのできる知性と感性を養うことがその目的です。人権尊重の感性や国際的な視野を必要とする分野で働きたいと考えている人にお奨めします。どのような宗教上の立場の学生でも専攻することができます。

2. カリキュラムの特徴

歴史と文化に関する学習や、哲学・倫理学に関する学習と重ねながら、広い視野のもとでキリスト教固有の思想と歴史を研究します。そのために「聖書」をはじめとして、キリスト教自体を理解するための専門科目がまずあります。また、「キリスト教入門」等、基盤教育のキリスト教関係科目のほとんどが必修となります。

他方、政治や経済、文学、芸術さらには人権、平和、環境等に関する科目（他の専攻プログラム科目も可）を選択的に履修し、そのような分野とキリスト教を関連付けて学ぶことができます。少人数のクラスでは、講義の場合でも演習的な要素を取り入れることがあります。

差別、紛争、貧困、環境破壊等、現代世界が抱えている諸問題の解決のためにキリスト教はどのような貢献ができるかをみずから探求することもできます。キリスト教学専攻の最良の意義と特徴は、このように問題解決を研究課題にするという点にあるとも言えるでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計42単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導入	聖書	2	1	100		必修	必修		
	キリスト教と他宗教	2	1	100					
	倫理学概論	4	2	200				6単位 選択必修	6単位 選択必修
	宗教学概論	4	2	200					
	哲学概論	4	2	200					
	人間関係論入門	2	1	100					
歴史	キリスト教と芸術	2	1	100		必修	必修		
	ユーラシア文化交流史	4	2	200				16単位 選択必修	6単位 選択必修
	世界史における日本	4	2	200					
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200					
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200					
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200					
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200					
	アメリカの歴史	4	2	200					
	アメリカ社会史	4	2	200					
	国際関係史Ⅰ	4	2	200					
	国際関係史Ⅱ	4	2	200					
	社会思想史	4	3	300					
経済学史	4	2	200						
理論	キリスト教と社会	2	1	100		必修	必修		
	キリスト教と教育	2	1	100				10単位 選択必修	6単位 選択必修
	ロシアの社会と文化	4	2	100					
	イギリス文化(現代イギリスの社会と文化)	4	2	300	重複履修可				
	アメリカの文化	4	2	200					
	アメリカの政治	4	2	200					
	西アジア研究	4	2	200					
	ヨーロッパ統合論	4	2	300					
	アジア女性論	4	2	200					
	アメリカ女性論	4	2	200					
キリスト教と女性問題	2	2	300						
トピックス	キリスト教学研究特論	2	2	200	基礎教育「キリスト教理解」の中から4単位以上	10単位 選択必修	6単位 選択必修		
	キリスト教文化論	4	2	200					
	イスラム文化論	4	2	200					
	文化人類学	4	1	100					
	宗教人類学	4	2	200					
	平和論	4	2	300					
	紛争論	4	2	200					
	宗教心理学	2	2	300					
	環境と文明	4	1	200					
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300					
メディアと人権	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること					
						計 42単位	計 24単位		

宗教学専攻プログラム

1. 教育目的

人は誰でも、自己を根底から支える何か大いなるものとの関連において自己を位置づけようとして願っていますが、それは人間存在のはかなさと同時にこのままでは終わらない永遠性をどこかで意識しているからでしょう。そこで、「宗教的生のダイナミズム」は、自己の限界性と現実を見据えながらもなお可能性と理想に向かって邁進する人間の姿の中に、また、捉えたと思った途端に指の間をすり抜けてゆく「究極的なもの」に魅了されつつ追求して止まない真摯な姿の中に、見ることが出来ます。世界中に見られる「宗教」といういとなみを人間の生活現象の一局面として捉え、それがどのように生起し人間生活の中でどのような位置にあり、役割を演じているのかを、事実にあて即して客観的に整理し体系的にまとめることが宗教学の課題です。そのことが、自分を理解し他者を理解することになり、風土・歴史・文化を越えた相互理解の基本形を産み出すことになるのです。

2. カリキュラムの特徴

宗教学は、それぞれの宗教の優劣を論じるのでもないし、ある特定の宗教の正当性を論じるのでもありません。世界の諸宗教をあるがままに受け止め、比較し整理する客観的な作業が基本にあります。世界の諸宗教を学ぶための基本的な理論はこの専攻プログラムに入れてありますが、各自関心のある宗教を産み出した具体的な地域に関する学びについては、各自が当学群の他分野から積極的に見つけ学習するように勧めます。また、生涯にわたり関心を持ち続けるであろう「すぐにはまとまらないような、生命や人間存在の神秘に関するような大きなテーマを見つける」のもこの時期です。人間を根底から支え究極へと誘う「大いなるもの（法）」との関わりで、人間を見る目を養うことが肝要になります。ここでは特に、先ず日本を宗教学の対象とすることから始めます。これは同時に、「日本人論の学び」へと発展させることも出来るように考えてあります。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

名目	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー	
導 入	宗教学概論	4	2	200		必修	必修	
	ヒトと自然環境	4	2	200				
	日本の宗教	4	2	200				
思 想 ・ 文 化 論	社会思想史	4	3	300		20単位 選択必修	12単位 選択必修	
	韓国文化論	4	2	200				
	儒教文化論	4	2	200				
	キリスト教文化論	4	2	200				
	イスラム文化論	4	2	200				
	アジアの思想と宗教	4	2	200				
	日本思想史	4	2	200				
	中国思想史	4	1	200				
	アメリカ思想史	4	2	200				
仏教文化論	4	2	200					
理 論	環境・生命・人権の哲学	2	3	300		6単位 選択必修	2単位 選択必修	
	文化地理学	4	1	100				
	宗教人類学	4	2	200				
	宗教心理学	2	2	300				
ト ピ ク ス	宗教学研究特論	2	2	200		10単位 選択必修	必修	
	倫理学研究特論	2	2	200				
	哲学研究特論	2	2	300				
	宗教学の諸問題	4	2	200				必修
	倫理学の諸問題	4	3	300				
	哲学の諸問題	4	2	200				
						計 40単位	計 24単位	

哲学専攻プログラム

1. 教育目的

哲学とは、人間の在り方とそれを取り巻く世界の在り方について、人間だけがもつ理性によって、理論的に考察する学問のことです。したがって、「哲学専攻プログラム」の教育目的は、人間の精神的世界に分け入って、人間性についての深い洞察力を培うとともに、文明や文化に関する幅広い教養を身につけ、それを的確に表現することのできる人間を育成することにあります。

このような思索と教養は、職業の違いを問わず、あらゆる人間に必要なものであることは言うまでもありませんが、混迷をつづける現代社会においては、特に、世論を導く役割を担う文筆業者、ジャーナリスト、出版業者、教員などに、最も強く求められているものですので、このような分野で活躍できる人材の育成にも力を注ぎます。

2. カリキュラムの特徴

哲学的思考を確立するには、古代ギリシャ哲学、キリスト教哲学、近世哲学などを修得することは不可欠ですが、それを修得するために、必修科目（「哲学概論」、「哲学の諸問題」、「哲学研究特論」、「キリスト教文化論」、「倫理学概論」、「論理学」）が用意されています。

ほかに多彩な科目が選択科目として用意されています。世界の思想、宗教、文化を知るための科目として、「宗教学概論」、「イスラム文化論」、「仏教文化論」、「儒教文化論」、「日本の宗教」、「中国思想史」、「日本思想史」、「アメリカ思想史」などが配置され、社会と人間の関わりを考えるために、「倫理学概論」、「社会思想史」、「環境倫理学」などが用意され、また自分の思考を的確に表現するために、「文章表現の技術」などが用意されています。

さらに哲学的思索を深めたい人のためには、少人数で指導を受けることのできる「専攻演習」と「卒業論文」が用意されています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学習	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入	出版の世界	2	1	100			
	新聞の世界	2	1	100			
	ジャーナリストへの道	2	1	100			
	新聞社説を読む	2	2	200			
	文章表現の技術	2	2	300	文章表現法Ⅱ		
歴 史	社会思想史	4	3	300		法を削除	文章表現
	日本思想史	4	2	200			
	アメリカ思想史	4	2	200			
	中国思想史	4	1	200			
理 論	キリスト教と教育	2	1	100			
	教育思想	2	3	300			
	人間関係論	4	2	200			
	国際関係思想	4	2	300			
	世界史概論	4	1	100			
	社会学概論	4	1	100			
	心理学概論	4	1	100			
	哲学概論	4	2	200		必修	※
	倫理学概論	4	2	200		必修	※
	宗教学概論	4	2	200			
	論理学	4	3	200		必修	※
	キリスト教文化論	4	2	200		必修	※
	イスラム文化論	4	2	200			
	儒教文化論	4	2	200			
	仏教文化論	4	2	200			
	中国古代思想研究	4	2	300			
	中国近現代思想研究	4	2	300			
	宗教心理学	2	2	300			
	心理学	4	1	100			
	哲学の諸問題	4	2	200		必修	※
哲学研究特論	2	2	300		必修	※	
倫理学の諸問題	4	3	300				
倫理学研究特論	2	2	200				
宗教学の諸問題	4	2	200				
宗教学研究特論	2	2	200				
ト ピ ク ス	日本の宗教	4	2	200			
	アジアの思想と宗教	4	2	200			
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300			
	宗教と教育	2	2	200			
	キリスト教と女性問題	2	2	300			
	環境倫理学	2	2	200			
	英米文学と宗教	4	2	300			
比較文化特論(西洋文明と思想)	4	2	200				
						計 40単位	上記選択必修科目を含め、計 24単位

必修科目
22単位を
含む40単
位選択必
修

左記※の
中から16
単位選択
必修

倫理学専攻プログラム

1. 教育目的

倫理学専攻プログラムでは、人類社会の根源にある倫理や道徳の世界から広く深く学びながら、私たちが人生や社会をより善く生き抜くための実践知を身につけていきます。そのためには、はじめに倫理学の考え方を学問の基礎として学習します。また同時に、倫理や道徳の世界を様々な思想史や文化論の見地から幅広く多角的に学びながら、ゆたかでバランスのとれた知識を習得していきます。そして今日の世界が強く求めている現実社会の切実な問題群にとりくむ現代倫理学を学習します。

このように今日の世界や社会にあって私たちが倫理学を学ぶのは、現実の社会問題を的確に分析し正しい解決へと導く力量が鋭く問われているからです。この倫理学専攻は、正義、公正、幸福、生命、人権、善などの人間社会を支える基本的な諸価値をしっかりと理解した成熟社会にふさわしい市民的リーダーの育成をめざしています。卒業後は、有為な人材として各界での活躍が期待されます。

2. カリキュラムの特徴

倫理学専攻プログラムの第一の特徴は、倫理学だけではなく、隣接する他の3専攻と密接に補い合いながら学習計画を立てられる点にあります。また、この間、哲学・思想系の学習にとって大切な言語（外国語）の学習にも積極的に取り組みます。

倫理学専攻の第二の特徴は、リベラルアーツ学群の人文系・社会系・自然系・学際系の諸科学が提供する多彩な専攻プログラムを活用しながら、倫理学を基礎にして人権や生命・福祉(生老病死)、平和、開発、環境、歴史、政治、経済、社会、文化などのテーマ群をも学習できる点にあります。この世界は実践倫理学の領域であり、今日、世界的に注目されています。倫理学専攻では、古典倫理学から現代倫理学まで（例えば規範倫理学やメタ倫理学など）を視野に入れた基礎学習のうえに、主に生命倫理学や社会倫理学、環境倫理学、社会哲学、人権思想などの現代倫理学の応用領域を学びます。またこれらの学習と関連する各国の思想史や平和論、国際人権法などの学びも広く用意されています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学 年	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導 入	倫理学概論	4	2	200		必修	必修		
	哲学概論	4	2	200					
	宗教学概論	4	2	200					
文 化 ・ 思 想 史	中国思想史	4	1	200		16単位 選択必修	4単位 選択必修		
	アジアの思想と宗教	4	2	200					
	日本文化論	4	2	300					
	日本思想史	4	2	200					
	韓国文化論	4	2	200					
	アメリカ思想史	4	2	200					
	アメリカ社会史	4	2	200					
	イスラム文化論	4	2	200					
	キリスト教文化論	4	2	200					
	儒教文化論	4	2	200					
	日本の政治	4	2	200					
	仏教文化論	4	2	200					
社会思想史	4	3	300						
理 論	物理学概論	2	1	100		12単位 選択必修	10単位 選択必修		
	生物学概論	2	1	100					
	環境倫理学	2	2	200					
	国際関係思想	4	2	300					
	平和論	4	2	300					
	日本研究概論	4	2	200					
	言語と文化	4	2	200					
	国際人権法	4	2	300					
	国際関係特論(人間の安全保障)	4	2	200					
	地球物理学	4	2	300	物理学概論				
	精神医学	4	2	200					
	倫理学研究特論	2	2	200				必修	必修
	哲学研究特論	2	2	300					
	宗教学研究特論	2	2	200					
環境・生命・人権の哲学	2	3	300						
論理学	4	3	200						
ト ピ ッ ク ス	情報と倫理	2	1	100		8単位 選択必修	6単位 選択必修		
	環境と文明	4	1	200					
	エネルギー・環境・生命	4	2	200					
	哲学の諸問題	4	2	200					
	宗教学の諸問題	4	2	200					
倫理学の諸問題	4	3	300		必修	必修			
						計 40単位	計 24単位		

文化人類学専攻プログラム

1. 教育目的

文化人類学の専攻プログラムでは、地球上のさまざまな異文化について学ぶことを通して自文化をも相対化して捉える鍛錬をし、より広い視野で人間社会や文化の諸現象への洞察力と理解力を深めることを目標とします。すなわち、異文化理解力をもった人材の育成を目指しますが、こうした人材は、特にグローバル化時代とよばれる現在、文化交流、教育分野、開発援助、ジャーナリズム、観光産業など、国際的な業務と関わる分野でますます必要とされています。また一人の地球市民として現代社会で生きていくうえでも、重要な基本的価値と意味をもつものです。

2. カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは、学習の系統としては、1年次の導入的な「文化人類学」の科目を履修し、続いて2年次から4年次までは、より専門的な理論・方法論の科目と具体的な地域や研究テーマの科目とを交差させ組み合わせて学習していき、かつそれらを現地で調査する「比較文化フィールドワーク」などの実習科目が準備されている点が、カリキュラムの特徴と言えます。専門的な理論や方法論は、文化人類学の専門講義や「比較文化方法論」、「比較社会学」、「民族研究」などの科目を通して、また具体的地域としてはアジア、アメリカ、日本を対象とする「地域研究」科目や、「宗教研究」や「国際交流」の関連科目、トピックの科目などを、それぞれの学生の関心に合わせて履修し、体系的に学習していきます。さらに実践的な現地調査などの実習も行い、それらの成果は演習の授業などでより深められ、最終学年において卒業論文として集大成されていくことが目標となります。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

多 コ リ	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	文化人類学	4	1	100		20単位 選択必修	12単位 選択必修
	宗教人類学	4	2	200			
	心理人類学	4	2	200			
	言語人類学	4	2	200			
	比較文化方法論Ⅰ	4	2	200			
	比較文化方法論Ⅱ	4	2	200			
	比較文化特論(性の人類学)	4	2	200			
	比較文化特論(西洋文明と思想)	4	2	200			
	比較文化特論(キャリアとしての国際交流)	4	2	200			
	社会学概論	4	1	100			
	比較社会学	4	2	200			
	民族研究	4	2	200			
	人種と民族	4	2	300			
	社会調査法	4	2	200			
理論・ 方法論	比較文化フィールドワーク	4	2	300	文化人類学		
	国際協力フィールドワーク	1～4	2	300			
	国際学インターンⅠ	2	2	200			
	国際学インターンⅡ	2	2	200			
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200			
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200			
地域社会・ 歴史文化・ 交流論	アジアの社会	4	2	200			
	東アジア研究	4	2	200			
	東アジアの現代社会	4	2	200			
	東南アジア研究	4	2	200			
	東南アジアの現代社会	4	2	200			
	東北アジア研究	4	2	200			
	南アジア研究	4	2	200			
	西アジア研究	4	2	200			
	アジア研究特論(南アジアの国際関係)	4	2	200	重複履修可		
	アジア女性論	4	2	200			
	韓国文化論	4	2	200			
	日韓交流史	4	2	200			
	現代中国文化論	4	2	200			
	ユーラシア文化交流史	4	2	200			
	アメリカの歴史	4	2	200			
	アメリカの文化	4	2	200			
	アメリカ思想史	4	2	200			
	アメリカ社会史	4	2	200			
	アメリカ民族論	4	2	200			
	現代アメリカ論	4	2	200			
	アメリカ女性論	4	2	200			
	日米交流史	4	2	300			
	カナダの社会と文化	4	2	200			
	ロシアの社会と文化	4	2	100			
	日露文化交流史	4	2	300			
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200			
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200			
	日本文化論	4	2	300			
	日本思想史	4	2	200			
	沖縄研究	4	2	200			
	世界史における日本	4	2	200			
	地理学概論	4	1	100			
宗教 研究	宗教学概論	4	2	200			
	イスラム文化論	4	2	200			
	キリスト教文化論	4	2	200			
	儒教文化論	4	2	200			
	仏教文化論	4	2	200			
	日本の宗教	4	2	200			
計						40単位	計 24単位

アメリカ地域研究専攻プログラム

1. 教育目的

アメリカ合衆国を主な対象として、多民族多文化社会アメリカの成立とその歴史的展開を跡付け、いまやグローバリゼーションの核として存在している現代アメリカ社会の諸相を分析します。私たちが身近な文化を通して日常的に接しているアメリカと、軍事的・経済的覇権を通して日本にも大きな影響を及ぼしているアメリカという存在を、立体的かつ統合的にとらえることが、アメリカ地域研究の目的です。

アメリカという「地域」についてさまざまな知識を得るだけでなく、ものごとを歴史的に、そしてさまざまな関係性の中でとらえること。自分なりのアメリカ理解を通して、それを世界への認識にひろげ、同時に自らの生まれ育った社会を相対化してとらえること。そのような力をもって、人々とつながり、変化し続ける現実の世界に関与し、学び続けていける人。このプログラムを通して育てていきたいのはそういう人です。

2. カリキュラムの特徴

アメリカ地域研究プログラムの科目は〈導入・理論〉〈歴史・民族・ジェンダー〉〈政治・経済〉〈文化〉の4つのカテゴリーに分類されています。幅広いカテゴリーからのアプローチを確保しつつ、自分の興味・関心に応じて学べるように、メジャー・マイナーともに、そのそれぞれから必ず1科目4単位を履修することを要求する一方で、〈導入・理論〉以外の3カテゴリーからメジャーは32単位、マイナーは20単位になるように、特定のカテゴリーを選択して深く学ぶことも、複数のカテゴリーを総合的に学ぶこともできるようにしています。

〈導入・理論〉では「アメリカ研究概論」を、〈歴史・民族・ジェンダー〉では「アメリカの歴史」の履修を強く勧めます。それはこの2科目をこの専攻プログラム全体の土台と位置づけているからです。〈歴史・民族・ジェンダー〉というくくりはアメリカ史を理解する上での民族とジェンダーの重要性を意識したものです。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入 ・ 理 論	アメリカ研究概論	4	2	200		8 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	英米文学入門	4	2	200			
	文化人類学	4	1	100			
	宗教人類学	4	2	200			
	比較文化方法論Ⅰ	4	2	200			
	比較文化方法論Ⅱ	4	2	200			
	比較社会学	4	2	200			
	比較政治学	4	2	300			
	社会学概論	4	1	100			
	地理学概論	4	1	100			
	世界史概論	4	1	100			
	政治学概論	4	1	100			
	経済学概論	4	1	100			
	宗教学概論	4	2	200			
地誌学概論	2	1	100				
歴史・ 民族・ ジェンダー	アメリカの歴史	4	2	200		4 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	アメリカ社会史	4	2	200			
	アメリカ思想史	4	2	200			
	アメリカ民族論	4	2	200			
	アメリカ女性論	4	2	200			
	民族研究	4	2	200			
	日米交流史	4	2	300			
	人種と民族	4	2	300			
	キリスト教と女性問題	2	2	300			
政治・ 経済	現代アメリカ論	4	2	200		4 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	アメリカの経済	4	2	200			
	アメリカの政治	4	2	200			
	アメリカの外交	4	2	200			
	日米関係論	4	2	200			
	カナダの政治と経済	4	2	200			
	アメリカ経済論	4	3	300			
文 化	アメリカの文化	4	2	200		4 単位 選択必修	4 単位 選択必修
	アメリカのジャーナリズム	2	2	200			
	イスラム文化論	4	2	200			
	キリスト教文化論	4	2	200			
	カナダの社会と文化	4	2	200			
	19世紀のアメリカ文学	4	2	200			
	20世紀のアメリカ文学	4	2	200			
	アメリカ文化(メディアと民族)	4	2	300	重複履修可		
	カルチュラル・スタディーズ	4	2	300			
	ポップ・カルチャー	4	2	300			
映画と英語圏文化(米文化)	4	2	300	重複履修可			
計						40単位	計 24単位

アジア地域研究

1. 教育目的

社会科学の諸研究手法を手がかりに、アジアの社会事象を自分自身で構造化して捉えることが出来るようになることを目指します。アジア地域研究の専攻プログラムでは、多様なアジアの社会事象を、歴史学、政治学、経済学、社会学、文化人類学等の様々な研究手法を用いて多面的に捉える能力を養います。偏見や一面的なものの見方でなく、複眼的な思考が出来る学生の育成を重視し、最終的にはアジア諸国と積極的に国際交流ができる人材に育てることを目標とします。東南アジア、東北アジアの人々の価値観や歴史観、宗教に対する姿勢を学ぶ中で、日本人のものの考え方が実はかなり特殊なものであることを理解することが大切です。

2. カリキュラムの特徴

1年生では、リベラルアーツセミナーを通じて、学問の基礎となる読解・文章表現・プレゼンテーションの仕方の基礎を学び、同時に将来の専攻地域を見据えて、英語や地域言語を学びます。2年生以降は、「世界史概論」、「政治学概論」、「宗教学概論」、「アジア研究概論」や社会科学の基礎的な方法論を用いた専攻科目（「アジアの歴史Ⅰ」、「発展途上国論」、「アジアの経済」、「文化人類学」等）をまず学びます。その後、自分の専攻する歴史科目（「アジアの歴史Ⅱ」、「日韓交流史」等）、地域科目（「東北アジア研究」、「東南アジア研究」、「南アジア研究」、「西アジア研究」等）や、広域アジア科目（「アジア英連邦論」、「オセアニアの政治と経済」等）、アジア文化研究（「儒教文化論」、「イスラム文化論」等）へ分かれて研究を深めます。学びの系統は、〈アジア歴史研究〉、〈東北アジア研究〉、〈東南アジア研究〉、〈広域アジア研究〉、〈アジア文化研究〉の5つです。なお、「発展途上国論」は歴史科目と地域科目〈東北アジア研究〉の双方に、「アジアの政治」は〈東南アジア研究〉と〈広域アジア研究〉の双方にまたがる科目です。また、〈広域アジア研究〉は、南アジアやオセアニア等の他、東アジア共同体などもテーマとすることが出来ます。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
専攻基礎	世界史概論	4	1	100		40単位 選択必修	24単位 選択必修
	政治学概論	4	1	100			
	宗教学概論	4	2	200			
	アジア研究概論	4	2	200			
アジア歴史研究	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200			
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200			
	儒教文化論	4	2	200			
	ユーラシア文化交流史	4	2	200			
	日韓交流史	4	2	200			
	発展途上国論	4	1	200			
東北アジア研究	東北アジア研究	4	2	200			
	東アジアの現代社会	4	2	200			
	東アジア研究	4	2	200			
東南アジア研究	東南アジア研究	4	2	200			
	東南アジアの現代社会	4	2	200			
	文化人類学	4	1	100			
	イスラム文化論	4	2	200			
	アジアの政治	4	2	200			
	アジアの経済	4	2	200			
	アジアの社会	4	2	200			
広域アジア研究	アジア英連邦論	4	2	200			
	南アジア研究	4	2	200			
	西アジア研究	4	2	200			
	オセアニアの政治と経済	4	2	200			
アジア文化研究	現代中国文化論	4	2	200			
	アジアの思想と宗教	4	2	200			
	韓国文化論	4	2	200			
	宗教人類学	4	2	200			
	仏教文化論	4	2	200			
トピックス	アジア女性論	4	2	200			
	アジア研究特論(南アジアの国際関係)	4	2	200	重複履修可		
	国際政治論	4	1	100			
	国際機構論	4	2	300			
	持続可能な開発	4	2	200			
	子どもと開発	4	2	300			
	ジェンダーと開発	4	2	300			
	比較文化方法論Ⅰ	4	2	200			
	比較文化方法論Ⅱ	4	2	200			
	比較文化特論(性の人類学)	4	2	200			
	比較文化特論(西洋文明と思想)	4	2	200			
	比較文化特論(キャリアとしての国際交流)	4	2	200			
	比較文化フィールドワーク	4	2	300	文化人類学		
計 40単位						計 24単位	

日本地域研究（J）専攻プログラム

1. 教育目的

日本地域研究専攻プログラムは、日本をよく知ることを目指すものです。桜美林大学の教育目的である「国際人の育成」のためには、生きた外国語を学ぶことも必要です。また、急速に変化する世界の諸地域の政治や経済、文化についての知見も必要でしょう。しかし、日本のあり方、歴史や文化、政治や経済、社会の動向などを、国際的な視野からきちんと把握できる成熟した人間となることも、同時に重要ではないでしょうか。その「学び」の中で、各自の関心に応じて個別の問題を探求することも可能です。

このようにして日本のあり方を広い視野から知り、日本の抱えている問題点を考察することは、批判的思考能力を身につけることでもあります。こうした「学び」を重ねることは、日本社会であれ日本以外の社会であれ、各自の将来設計に関係を持つし、自分の将来を主体的に切りひらいていく際の力になるでしょう。

2. カリキュラムの特徴

日本地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、多様な分野にわたるもので、大きく分けて〈歴史〉〈文化〉〈政治経済〉のカテゴリーの科目を用意しています。この3つのカテゴリーのいずれか1つを中心にする学部や学科は数多くありますが、桜美林大学LA学群の「日本地域研究」は、それらを組み合わせているのです。

ですから、学生各自の関心に応じて、日本を中心とする国際交流を勉強するとか、日本の政治を勉強するとか、日本文化を中心に勉強するとかが可能で、そういう勉強を重ねて「日本地域研究」の専攻ということになります。比較的概説的な科目を用意するとともに、上記3つのカテゴリーに沿った個別的なテーマに関する勉強ができるよう配慮しています。幅広い一般的な教養を得ることとともに、あるテーマに関しては、各人の問題意識に即した専門的知識を持つことが大事だと考えられるからです。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

多 子 イ	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導 入 ・ 歴 史	日本史概論	4	2	200		40単位 選択必修	24単位 選択必修
	地誌学概論	2	1	100			
	倫理学概論	4	2	200			
	社会学概論	4	1	100			
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200			
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200			
	世界史における日本	4	2	200			
	東アジア研究	4	2	200			
	日本教育史	2	2	200			
文 化	日本研究概論	4	2	200			
	日本思想史	4	2	200			
	日本文化論	4	2	300			
	日本の宗教	4	2	200			
	日本文学史A	4	1	100			
	日本文学史B	4	1	100			
	日本文学講読A	2	1	200			
	日本文学講読B	2	1	200			
	日本文学講読C	2	1	200			
	日本文学講読D	2	1	200			
	日本文学講読E	2	1	200			
	平安文学の世界	4	2	300			
	中世文学の世界	4	2	300			
	江戸文学の世界	4	2	300			
	近代文学の世界	4	2	300			
	現代文学の世界	4	2	300			
	沖縄研究	4	2	200			
	日中比較文化	4	2	200			
	日米関係論	4	2	200			
	日露文化交流史	4	2	300			
儒教文化論	4	2	200				
仏教文化論	4	2	200				
日韓交流史	4	2	200				
日米交流史	4	2	300				
アジアの思想と宗教	4	2	200				
政 治 経 済	日本の政治	4	2	200			
	日本経済論	4	2	200			
	日本の経済	4	2	200			
	近代日本の外交	4	2	300			
	日本研究特論(日米文化社会比較)	4	2	200			
	日本のジャーナリズム	2	2	200			
	日本国憲法	2	1	100			
	日本経済史	4	2	200			
計						40単位	計 24単位

歴史学専攻プログラム

1. 教育目的

「歴史とは過去について学ぶこと」ですが、「過去について学んでいる私たち自身は、現在を生きている」とも付け加えておきましょう。歴史を学ぶことは、実は、「現在」を考えることでもあるのです。私たちの周りで起きていることの原因や意味を、過去にさかのぼって探り、現在の私たちが「当たり前」と思っていることが、過去においてもそうだったのかを知ろうとする姿勢。歴史学専攻プログラムでは、その名前の通り、歴史について考える場を提供するとともに、過去や現在の社会状況に対する、そのような好奇心を育みたいと思っています。過去の人々が残した歴史史料に向かうと、自分の思い込みや価値観が崩されることもあれば、逆に、同じ史料を自分の視点から解釈することも出来ます。そのような史料との対話のなかから、一つの歴史イメージが作られ、それをめぐる議論が生じる。その議論こそが、現在の自分を見つめ直すという、歴史学の重要な作業なのです。

2. カリキュラムの特徴

歴史学専攻プログラムの科目は、〈導入と理論〉、〈地域社会と歴史〉、〈グローバル社会と歴史〉という3つのカテゴリーに分類されており、基本的には、学年が進むとともに、これらのカテゴリーから科目を履修できるようになっています。まず、1年次は、他の専攻プログラムと同様に、リベラルアーツ・セミナー、語学、情報などの授業を受講するとともに、数多く用意されている専攻入門や学問基礎の講義を受けます。2年次からは、〈地域社会と歴史〉の科目が履修できるようになり、上記3つの地域の歴史について学びます。それと同時に、〈グローバル社会と歴史〉から、より具体的なトピック（文化、思想、国際関係など）に焦点を当てた科目や、複数の地域にまたがった歴史を学ぶ多彩な科目を履修します。さらに、専門的な歴史のトピックを追究したい人は、3年次からの演習を履修した後に、4年次には卒業論文として、自分の研究をまとめることができます。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入と理論	世界史概論	4	1	100		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本史概論	4	2	200			
	文化人類学	4	1	100			
	アメリカ研究概論	4	2	200			
	アジア研究概論	4	2	200			
	日本研究概論	4	2	200			
地域社会と歴史	日本の歴史Ⅰ	4	2	200		8単位 選択必修	4単位 選択必修
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200			
	アメリカの歴史	4	2	200			
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200			
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200			
	冷戦後の世界	4	2	300			
グローバル社会と歴史	政治学概論	4	1	100		24単位 選択必修	16単位 選択必修
	地誌学概論	2	1	200			
	哲学概論	4	2	200			
	中国思想史	4	1	200			
	社会思想史	4	3	300			
	中国文化史	4	2	200			
	日露文化交流史	4	2	300			
	日本文化論	4	2	300			
	アメリカの文化	4	2	200			
	アメリカ思想史	4	2	200			
	アメリカ社会史	4	2	200			
	アメリカ女性論	4	2	200			
	ユーラシア文化交流史	4	2	200			
	アジア女性論	4	2	200			
	韓国文化論	4	2	200			
	日本思想史	4	2	200			
	日韓交流史	4	2	200			
	日米交流史	4	2	300			
	世界史における日本	4	2	200			
	近代日本の外交	4	2	300			
国際関係史Ⅰ	4	2	200				
国際関係史Ⅱ	4	2	200				
日米関係論	4	2	200				
民族研究	4	2	200				
						計 40単位	計 24単位

国際関係専攻プログラム

1. 教育の目的

本学建学の精神である「教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」のために国際関係プログラムでは、何よりもまず世界を知ること学びます。国際関係とは一体何でしょう。国と国との関係でしょうか。いえそれだけではありません。人と人の国境を越えた交流も国際関係の重要な要素です。国際関係での国や人の動きは複雑です。平和な時もあれば戦争になる時もあります。何故でしょうか。国と国との関係に原因があるのでしょうか。それとも民族や宗教などに原因があるのでしょうか。こうした疑問に自らが答えるために、国際関係に関するさまざまな知識を国際政治、国際法を中心に国際経済やその他の国際関係に関わるさまざまなトピックを通じて学びます。その知識をもとに、貧困や飢餓、戦争のない、自由、平等で平和な世界を構築するために私たちに何ができるのか、その手掛かりを一人一人がつかみ、平和に向けて実践できるよう皆と一緒に学んでいきます。

2. カリキュラムの特徴

国際関係論は従来の学問の垣根を越えた学際的な学問分野です。プログラムの特徴も学際的なカリキュラム構成にあります。国際関係論の基礎となる国際政治を中心に、〈国際関係概論〉、〈国際法〉、〈国際政治〉、〈国際経済〉の4つのカテゴリーと国際関係のトピックに焦点をあてた科目群の多様なカリキュラム構成になっています。〈国際政治〉では「国際政治論」、「国家論」、「紛争論」、「政治過程論」、「比較政治学」、〈国際関係概論〉では「国際関係論」、「国際関係史Ⅰ・Ⅱ」、「国際関係思想」、〈国際法〉では「国際法」、「国際人権法」、「国際機構論」、〈国際経済〉では「国際経済論」、「多国籍企業論」、「国際貿易論」、「国際金融論」などを準備しています。さらに国際関係のトピックに焦点をあてた科目には、「アメリカの政治」や「アメリカの外交」、「ヨーロッパ統合論」、「近代日本の外交」、「日米関係論」、「冷戦後の世界」、「国際関係特論（人間の安全保障）」など、多彩な科目を揃えています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
国際関係概論	国際関係論	4	1	100		8単位 選択必修	16単位 選択必修
	国際関係史Ⅰ	4	2	200			
	国際関係史Ⅱ	4	2	200			
	国際関係思想	4	2	300			
国際法	法律学概論（国際法を含む）	4	1	100		8単位 選択必修	
	国際法Ⅰ	4	2	200			
	国際法Ⅱ	4	2	200			
	国際交流論Ⅱ	4	2	200			
	国際機構論	4	2	300			
	国際人権法	4	2	300			
国際政治	政治学概論	4	1	100		8単位 選択必修	
	国際政治論	4	1	100			
	国家論	4	2	200			
	紛争論	4	2	200			
	民族研究	4	2	200			
	比較政治学	4	2	300			
	政治過程論	4	2	300			
国際経済	国際経済論	4	2	200		(注1)	
	多国籍企業論	4	2	200		(注1)	
	国際貿易論	4	2	200		(注1)	
	国際金融論	4	2	200		(注1)	
トピックス	国際交流論Ⅰ	4	1	100			
	NGO論（国際協力入門）	4	1	100			
	アメリカの政治	4	2	200			
	日本の政治	4	2	200			
	現代日本の政治	4	2	200			
	国際関係特論（人間の安全保障）	4	2	200			
	アメリカの外交	4	2	200			
	近代日本の外交	4	2	300			
	冷戦後の世界	4	2	300			
	ヨーロッパ統合論	4	2	300			
	日米関係論	4	2	200			
	国際政治経済特論（ ヨーロッパの政治思想 ）	4	2	300	重複履修可		
						上記選択必修科目を含め、計 40単位	上記選択必修科目を含め、計 24単位

(注1) 国際経済専攻プログラムのメジャー又はマイナーを修了した場合、国際経済カテゴリーの4科目を本プログラムのマイナー修了要件単位数に含めることはできません。

国際協力専攻プログラム

1. 教育目的

人類が直面する地球規模課題（地球環境、平和、人権、貧困、子どもや女性など）の解決には、国や社会文化背景の異なる多くの人々の国境を越えた協力が必要です。国際協力専攻プログラムでは、これらの地球規模課題の現状やその原因について実地研修を含めて学び、また、問題解決にあたる国際機関、政府機関、NGO などの活動の現状と課題を理解することを目的とします。しかし、現状や原因、政策や活動を理解するだけでは不十分であり、行動と実践を伴ってはじめて国際協力が動き出します。その意味で、国際協力専攻では実践的な技能や行動力も重視します。国際協力を職業とすることを目指す人にも優れた学習と実践の機会を提供しますが、主たる目的は、地球規模課題についての幅広い知識と深い共感、そして行動力をもった市民の養成にあります。職業人として自立しながら、地球規模課題にも関心と関与を保ち続ける、そんな地球市民の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

1年生では、第3世界の貧困問題を中心に国際協力を概説する科目、移民や多文化などの問題を概説する科目、および夏休み、春休みにフィリピン、インド、バングラデシュでの国際協力研修など、開発途上国での実体験を含む学習を行います。語学は国際協力に必要な英語と、さらに1言語の習得を期待します。2年生以降は、国際法や国際人権、国連、現代倫理学などの国際協力の基礎的な学問、また、開発経済学、および国際政治や平和論などの政治学分野の学問を学びます。さらに、子ども、ジェンダー、環境の3つの国際協力分野でのより専門的な講義が用意されています。各自の興味にそって、教育、経済などの他の専攻とのダブルメジャーを推奨します。実習を重視する立場から、国際協力フィールドワーク、NGO等の国際協力機関でのインターンシップ、NGOやNPOで働くための実務実習、NGO/NPO起業のための社会起業実習も用意されています。3、4年生では、専攻演習と卒業論文の作成を強く勧めており、少人数ゼミをベースとして、自分が関心を持つテーマや国に絞って、深く研究するためのサポートが行われます。また、実践の場としての学生自主活動も奨励されています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
国際協力論基礎	国際協力論	4	2	200		20単位 選択必修	
	NGO論(国際協力入門)	4	1	100			
	国際関係特論(人間の安全保障)	4	2	200			
	国際交流論Ⅰ	4	1	100			
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300			
	平和論	4	2	300			
	倫理学の諸問題	4	3	300			
国際協力論分野別	持続可能な開発	4	2	200			
	子どもと開発	4	2	300			
	ジェンダーと開発	4	2	300			
	国際協力特論	4	2	300	重複履修可		
国際関係	法学概論(国際法を含む)	4	1	100		8単位 選択必修	国際協力論基礎、国際協力論分野別、演習の中から24単位選択必修
	政治学概論	4	1	100			
	世界史概論	4	1	100			
	社会学概論	4	1	100			
	発展途上国論	4	1	200			
	国際関係論	4	1	100			
	国際政治論	4	1	100			
	国際法Ⅰ	4	2	200			
	国際法Ⅱ	4	2	200			
	国際交流論Ⅱ	4	2	200			
	比較文化特論(キャリアとしての国際交流)	4	2	200			
	国際経済論	4	2	200			
	国際人権法	4	2	300			
	国際機構論	4	2	300			
	比較政治学	4	2	300			
	アジア女性論	4	2	200			
経済開発論	4	2	200				
アジアの経済	4	2	200				
演習	国際協力研修	2	1	100		4単位 選択必修	
	国際学インターンⅠ	2	2	200			
	国際学インターンⅡ	2	2	200			
	NGO/NPO実務実習Ⅰ	1~4	2	200			
	国際協力フィールドワーク	1~4	2	300			
	NGO/NPO実務実習Ⅱ	1~4	2	300			
上記選択必修科目を含め、計 40単位						計 24単位	

(注) 国際協力研修は基盤教育院のフィールドスタディーズ科目です(P.15参照)。

社会学専攻プログラム

1. 教育目的

社会学は経済学、政治学などと並ぶ社会科学の1つであり、社会と文化を研究対象とする学問です。私たちにとって、自分の社会・文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっています。そのため、日常生活の中では、社会・文化に関する「常識」的なものの見方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一步距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。

社会学専攻プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

2. カリキュラムの特徴

社会学専攻プログラムは、以下の①～③のカテゴリーから成るカリキュラムです。

①〈導入〉カテゴリーとして、「専攻入門（社会学）」が置かれています。「専攻入門（社会学）」は1年生の段階から履修できますので、1年生のうちに履修しておくとういでしょう。

②〈理論・方法〉カテゴリーには、「比較社会学」「社会学概論」「社会思想史」といった理論系科目と同時に、「社会調査法」「比較文化フィールドワーク」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく身につけていただければと思います。

③〈トピックス〉カテゴリーには、「文化社会学」「環境社会学」「現代社会研究」「地域産業論」などをはじめとして、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリー	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	専攻入門（社会学）	2	1	100		必修	必修
理論・方法	比較社会学	4	2	200		8単位 選択必修	8単位 選択必修
	社会学概論	4	1	100			
	社会思想史	4	3	300			
	社会調査法	4	2	200			
	比較文化フィールドワーク	4	2	300	文化人類学		
	社会統計学	2	2	200			
	確率論と統計学	4	3	300	線形代数学と微分積分学		
トピックス	文化社会学	4	2	200		26単位 選択必修	14単位 選択必修
	若者の文化	2	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること		
	アメリカの文化	4	2	200			
	国家論	4	2	200			
	アメリカ女性論	4	2	200			
	アジア女性論	4	2	200			
	アジアの社会	4	2	200			
	NGO論（国際協力入門）	4	1	100			
	持続可能な開発	4	2	200			
	文化人類学	4	1	100			
	社会心理学	4	2	200			
	地域産業論	4	3	300			
	環境社会学	4	2	300			
	カルチュラル・スタディーズ	4	2	300			
	現代社会研究	4	2	300			
	社会政策	4	2	200			
	民族研究	4	2	200			
教職課程概論科目（P.130参照）					（注1）	14単位まで	8単位まで
						計 40単位	計 24単位

（注1）教職課程履修者以外の者は、他の「トピックス」カテゴリ科目を優先的に修得することが望ましい。

心理学専攻プログラム

1. 教育目的

心理学専攻プログラムでは、心理学関連科目を幅広く、体系的に学ぶことができます。社会における価値観の多様化やIT化に代表されるような情報量の拡大は、人間理解をますます困難にしているだけでなく、新しいタイプのコミュニケーションの問題も生じさせています。また、いじめや不登校に代表される教育現場での心の問題、人間関係における心の問題、非行や犯罪・社会問題の背後にある心の問題、ストレス社会という言葉に代表されるように心身の健康の背後にある心の問題など、現代社会の病とも言うべき諸問題は身近なところに数多くみられます。こうした状況の中で、私たちはいかに心身の健康を維持・増進していくのか、社会が心理学に期待する事柄は実に無数にあるといえるでしょう。心理学専攻プログラムでの学びを通して、これらの諸問題への関心を深めるとともに、問題解決へ立ち向かえる人を育てたいと思います。

2. カリキュラムの特徴

まずは「専攻入門（心理学）」や「心理学」などの講義で心理学とはどのような学問であるかを体験します。次に、「心理測定法」や「心理学研究法」などの履修を通して心理学研究の方法について学びます。展開科目群では幅広い分野の科目を学習することができますが、心の問題や心の病について学ぶ臨床心理学関連の科目と心身の総合的な健康について学ぶ健康心理学関連の科目に注目して下さい。これらの分野には特に力が入れています。最後に実習・演習科目ですが、ここではより実践的な学習に取り組みます。さらに専門的な学習のために、専攻演習や卒業研究へ進む人も多いでしょう。本カリキュラムでは、認定心理士と認定健康心理士の資格取得に対応しています（P.212～214参照）。より深く学びたい人は、大学院に臨床心理士の資格が取得できる臨床心理学専修（第一種指定校）と専門健康心理士の資格が取得できる健康心理学専修のコースを設置していますので、進学を目指すという道もあります。

（改訂前の履修ガイドの）P.195・197参照

3. 修了要件

メジャー：合計42単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・方法論	心理学	4	1	100		8単位 選択必修	6単位 選択必修
	健康教育概論	2	2	100			
	心理測定法	2	1	100			
	心理学研究法	2	2	200			
	心理統計法	2	2	200	心理測定法		
展 開 科 目	生涯発達心理学	4	1	200		32単位 選択必修	16単位 選択必修
	学習心理学	4	2	200			
	教育心理学 (心理学)	4	2	200			
	家族心理学	4	2	200			
	生理心理学	2	2	200			
	人格心理学	4	2	200			
	臨床心理学	4	2	200			
	異常心理学	4	2	200			
	健康心理学	4	2	200			
	健康心理カウンセリング概論	2	3	200	健康心理学		
	健康心理アセスメント概論	2	3	200	健康心理学		
	社会心理学	4	2	200			
	産業・組織心理学	4	2	200			
	人間関係論	4	2	200			
	文化心理学	2	2	200			
	認知心理学	4	2	200			
	精神医学	4	2	200			
	精神保健学	4	2	200			
	人間性心理学	2	2	300			
	宗教心理学	2	2	300			
被害者支援心理学	2	2	300				
障害児・者心理学	2	2	300				
臨床心理学職域論	2	2	300				
学校カウンセリング論	2	3	300				
実習・演習	心理学基礎実験	2	2	200	心理学研究法、心理統計法	2単位 選択必修	2単位 選択必修
	社会心理学調査実習	2	2	200			
	心理学実験実習	2	3	300	心理学基礎実験		
	健康心理学基礎実習	2	3	300	健康心理カウンセリング概論、健康心理アセスメント概論		
						計 42単位	計 24単位

教育学（教職教育）専攻プログラム

1. 教育目的

本専攻では、人間の成長と発達を教育という普遍的でかつ歴史的な現象からとらえます。教育という働きが人間と人間社会にどのように関係して作用しているかを研究します。教育の本質、教育思想、教育の歴史、諸外国の教育構造の比較などを通して教育を学びます。このような学習と研究をすることで、将来、人間社会の発展に貢献する資質を身につけ、教育関連の職業のみならずよりよい社会の形成をリードしていくことを目指しています。また、この専攻プログラムでは教職課程の科目とも一部相乗りしています。教員免許の取得をして教職を強く希望する学生は、教職課程に登録して、取得しようとする免許（教科）の必修科目はもとより法令上及び本学が指定する必要な単位を修得することになります。

2. カリキュラムの特徴

教職課程のカリキュラムとも一部連動します。「教職総合演習」、教育実習に関する科目や各教科教育法を除いた専門科目を最低40単位履修します。教育の本質、教育制度、教育課程、教育方法、教育史、比較・国際教育、教育思想などの必修科目を履修していきます。1、2年次で、基盤教育院の提供する基礎科目を42単位履修します。本専攻プログラムでは、〈基礎・入門〉科目を経て、〈理論・トピックス〉の中の科目へと進むことが適当です。また、2008年度から新たに追加した専門科目もあります。

教職課程を履修して教職を目指す学生は、教職課程（P.176～）を参照してください。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・入門	キリスト教と教育	2	1	100		4単位 選択必修	選択必修
	家庭と教育	2	1	100			選択必修
	日本国憲法	2	1	100			選択必修
	教職入門	2	1	100			
理論・トピックス	宗教と教育	2	2	200		36単位 選択必修	
	学習心理学	4	2	200			
	教育原理（教職課程）	2	1	200			選択必修
	日本教育史	2	2	200			
	比較教育学	2	2	200			
	現代アジアの教育と文化	2	2	200			
	教育心理学（教職課程）	2	2	200	教職課程登録者のみ履修可		選択必修
	教育方法論	2	2	200			
	教育課程論	2	2	200			
	教育制度論	2	2	200			
	道徳教育論	2	2	200			選択必修
	特別活動論	2	2	200			
	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	2	2	200			
	進路指導論	2	2	200			
	教育思想	2	3	300			選択必修
	生涯発達心理学	4	1	200			選択必修
	家族心理学	4	2	200			選択必修
生涯学習概論	2	2	200		選択必修		
読書と豊かな人間性	2	3	300		選択必修		
情報メディアの活用	2	3	300		選択必修		
						計 40単位	計 24単位

選択必修
の中から
24単位

国際経済専攻プログラム

1. 教育目的

グローバル化した今日の国際経済においては、諸外国の経済や社会の動きは、互いに深い依存関係にあります。我々の日常生活や各国の景気や政策も、こうした国際経済の動きによって、さまざまなところで大きな影響を受けています。

国際経済専攻プログラムでは、こうした国際経済の動きに関して、貿易、国際資本移動、国際労働移動、国際通貨変動といった諸要因が動くメカニズムを理解するとともに、アジア、アメリカ、ヨーロッパその他各国、地域の経済に関する幅広い知識、教養を身につけることを目的としています。こうした学習を通じて、一般の製造、サービス業に加え、貿易や金融といった国際間の経済取引に関わるさまざまな仕事や、国・地方・国際公務員、あるいは近年、企業活動のグローバル化が進む中で重要性が増している、企業の国際展開に有用な人材を育成することを目指しています。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラム科目は「国際経済論」や「国際貿易論」、「経済開発論」、「国際金融論」、「外国為替論」、「国際投資論」や「多国籍企業論」といった国際経済の一般的理論に関わる科目と、「アメリカ経済論」、「中国経済論」、「ヨーロッパ経済論」、「アジアの経済」といった、世界の各国、地域の経済の実状に関する科目とに分かれます。また、特に海外ビジネスに関心のある方には、海外企業におけるインターンシップが用意されています。

また、他の専攻プログラムのなかからも、専攻分野と関連するさまざまな科目を、それぞれの関心に応じて学ぶことができます。例えば開発経済学に興味のある方は、「発展途上国論」「国際協力論」「NGO論」「ジェンダーと開発」といった科目を、また、アジア経済に興味のある方は、本専攻プログラムの「アジアの経済」のほか、「アジアの歴史」「アジアの政治」「東南アジア研究」「中国地域研究」その他さまざまな科目を履修することができます。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学 科	授 業 科 目	単位数	履修 年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎 科目	基礎ミクロ経済学	2	1	100		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100			
	政治経済学Ⅰ	4	1	100			
理 論 ・ 歴 史	経済史	4	1	100		20単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100			
	経済学史	4	2	200			
	マクロ経済学	4	2	200			
	ミクロ経済学	4	2	200			
	経済統計論	4	2	200			
	日本経済史	4	2	200			
	日本経済論	4	2	200			
	金融論	4	2	200			
	経済英書講読A	2	2	200			
	経済英書講読B	2	2	200			
	民法	4	1	100			
	労働法	4	2	200			
	経済地理学	4	1	100			
	計量経済学	4	3	300			
	経済変動論	4	3	300			
	現代資本主義論	4	3	300			
	経済学特殊講義A	2・4	2	200			
	経済学特殊講義B	2・4	2	200			
	フィールドワークA	2	3	300			
	フィールドワークB(海外企業研修)	4	2	200			
	政治経済学Ⅱ	4	2	200			
応用マクロ経済学	4	2	200				
応用ミクロ経済学	4	2	200				
社会経済学	4	2	200				
教職課程概論科目(P.130参照)					(注1)		
応 用 ・ そ の 他	ビジネス英語Ⅰ	2	2	200		20単位 選択必修	16単位 選択必修
	ビジネス英語Ⅱ	2	2	200			
	国際経済論	4	2	200			
	国際金融論	4	2	200			
	経済開発論	4	2	200			
	多国籍企業論	4	2	200			
	アメリカ経済論	4	3	300			
	ヨーロッパ経済論	4	3	300			
	中国経済論	4	3	300			
	ロシア東欧経済論	4	3	300			
	東アジア経済論	4	3	300			
	国際マクロ経済学	4	2	200			
	比較経済体制論	4	2	200			
	外国為替論	4	2	200			
	国際投資論	4	3	300			
	国際協力論	4	2	200			
	発展途上国論	4	1	200			
	国際貿易論	4	2	200			
	カナダの政治と経済	4	2	200			
	オセアニアの政治と経済	4	2	200			
アジアの経済	4	2	200				
						計 40単位	計 24単位

(注1) 教職課程履修者以外の者は、他の「理論・歴史」カテゴリー科目を優先的に修得することが望ましい。

ビジネスエコノミクス専攻プログラム

1. 教育目的

企業活動のグローバル化やインターネットを活用した新たなビジネスモデルの出現など、企業や産業をめぐる環境は複雑になり、企業組織や産業組織は従来とは異なる対応が求められています。

ビジネスエコノミクス専攻プログラムは、このように変化しつつある企業活動を経済学の観点から深く学ぶことを目的としています。個別産業を対象とする科目群や産業調査や経営分析などの科目を通じて、企業や産業についてその現状や問題点を学ぶことができます。

こうした「学び」を通じて、製造業やサービス業、金融・保険業、卸売・小売業、運輸・通信業などで幅広い産業や企業で活躍するための基礎的な知識や能力を習得する事ができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、基礎科目から専門科目を無理なく積み上げていけるように、各科目群が有機的に配置されています。1年生から2年生春学期にかけて学ぶ基盤科目には、経済学の基礎科目として、専攻入門などの入門科目が配置されています。その後、本格的に経済学を学びたい人は、1年生秋学期から2年生にかけて、経済学の理論、歴史に関わる基礎科目（経済系3プログラム共通）を履修し、2年生の秋学期頃から、「現代の産業システム」「現代の企業システム」「現代の労働システム」や「産業調査論」や「企業分析論」など、ビジネスエコノミクスに関する基礎的な科目の履修を始め、3年生で本格的に個別産業科目群や産業調査演習や企業分析演習などの専門科目を履修していきます。また実際に企業などで実務を経験した社会人講師が中心となる「産業論特殊講義」が2科目用意されており、産業や企業の現状を深く学ぶことができます。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎科目	基礎ミクロ経済学	2	1	100		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100			
	政治経済学Ⅰ	4	1	100			
理論・歴史	経済史	4	1	100		20単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100			
	経済学史	4	2	200			
	マクロ経済学	4	2	200			
	ミクロ経済学	4	2	200			
	経済統計論	4	2	200			
	日本経済史	4	2	200			
	日本経済論	4	2	200			
	金融論	4	2	200			
	経済英書講読A	2	2	200			
	経済英書講読B	2	2	200			
	民法	4	1	100			
	労働法	4	2	200			
	経済地理学	4	1	100			
	計量経済学	4	3	300			
	経済変動論	4	3	300			
	現代資本主義論	4	3	300			
	経済学特殊講義A	2・4	2	200			
	経済学特殊講義B	2・4	2	200			
	フィールドワークA	2	3	300			
	フィールドワークB(海外企業研修)	4	2	200			
	政治経済学Ⅱ	4	2	200			
応用マクロ経済学	4	2	200				
応用ミクロ経済学	4	2	200				
社会経済学	4	2	200				
教職課程概論科目(P.130参照)					(注1)		
応用・その他	現代の産業システム	4	2	200		20単位 選択必修	16単位 選択必修
	現代の企業システム	4	2	200			
	現代の金融システム	4	2	200			
	現代の労働システム	4	2	200			
	現代の情報システム	4	2	200			
	中小企業論	4	3	300			
	情報産業論	4	2	200			
	サービス経済論	4	2	200			
	産業史	4	2	200			
	産業組織論	4	3	300			
	工業経済論	4	3	300			
	農業経済論	4	3	300			
	流通経済論	4	3	300			
	地域産業論	4	3	300			
	企業分析論	4	2	200			
	企業分析演習	4	3	300			
	ネットワーク経済論	4	3	300			
	産業調査論	2	2	200			
	統計調査演習	2	2	200			
	産業調査演習	4	3	300			
産業論特殊講義A	2	3	300				
産業論特殊講義B	2	3	300				
						計 40単位	計 24単位

(注1) 教職課程履修者以外の者は、他の「理論・歴史」カテゴリ科目を優先的に修得することが望ましい。

総合政策専攻プログラム

1. 教育目的

現代社会は「市場」を中心に動いています。市場の競争がうみだす効率的な経済と技術革新のおかげで、私たちの生活は確かに便利になりました。しかしその一方で、いま私たちの社会は、市場の様々な副作用に直面しています。競争の結果、人々が「勝ち組」と「負け組」に分かれる「格差社会」が到来し、フリーターやニートなど、働くことに意義を見出せない若者も増えています。年金や福祉、医療など人々の暮らしを下支えする「セイフティ・ネット」が破綻し、中国やインドの経済発展もあって、環境・資源問題は地球的規模にまで拡大しています。

本専攻プログラムは、身近な問題からグローバルな問題まで、私たちが直面する様々な問題を分析し、その解決にはどのような「政策」が必要なのかを考えていきます。そのことを通じて、仕事や人生で直面する問題や課題に果敢に取り組む、具体的な解決策を提示できる人材を育成することが、本専攻プログラムの目的です。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムのカリキュラムは、大きく〈基礎〉〈理論・歴史〉〈応用・その他〉の3つのカテゴリーからなる積み上げ型の構成をとっています。現代社会の様々な問題を考える際には、そのおもとをなす「市場メカニズム」に関する知識が欠かせません。〈基礎〉〈理論・歴史〉科目では、経済学を通じて市場メカニズムの基礎を学びます。その上で〈応用〉科目では、現代の様々な経済・社会問題の現状とそれを解決する「政策」を学びます。例えば、景気対策を考える「経済政策」、税金の使い道を考える「財政学」、福祉や年金を考える「社会政策」、環境問題を考える「環境経済論」「環境計画論」などです。

また、本プログラムではこうした講義形式の授業とは別に、「対話・企画・現場」をキーワードに、政策の企画立案を行う各種の「デザイン演習」や、経済の現場を体験する「フィールドワーク」など、様々な学生参加型のカリキュラムも用意しています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

カテゴリ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎科目	基礎ミクロ経済学	2	1	100		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	基礎マクロ経済学	2	1	100			
	政治経済学Ⅰ	4	1	100			
理論・歴史	経済史	4	1	100		20単位 選択必修	4単位 選択必修
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100			
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100			
	経済学史	4	2	200			
	マクロ経済学	4	2	200			
	ミクロ経済学	4	2	200			
	経済統計論	4	2	200			
	日本経済史	4	2	200			
	日本経済論	4	2	200			
	金融論	4	2	200			
	経済英書講読A	2	2	200			
	経済英書講読B	2	2	200			
	民法	4	1	100			
	労働法	4	2	200			
	経済地理学	4	1	100			
	計量経済学	4	3	300			
	経済変動論	4	3	300			
	現代資本主義論	4	3	300			
	経済学特殊講義A	2・4	2	200			
	経済学特殊講義B	2・4	2	200			
	フィールドワークA	2	3	300			
	フィールドワークB(海外企業研修)	4	2	200			
	政治経済学Ⅱ	4	2	200			
応用マクロ経済学	4	2	200				
応用ミクロ経済学	4	2	200				
社会経済学	4	2	200				
教職課程概論科目 (P.130参照)					(注1)		
応用・その他	総合政策特殊講義	2	2	200		20単位 選択必修	16単位 選択必修
	環境ビジネス論	2	2	200			
	環境デザイン演習	2	2	200			
	地域デザイン演習	2	2	200			
	中央銀行と貨幣政策	4	3	300			
	財政学	4	2	200			
	社会政策	4	2	200			
	生活経済論	4	2	200			
	環境経済論	4	2	200			
	行政法	4	2	200			
	経済法	4	2	200			
	行政学	4	3	300			
	経済政策	4	3	300			
	社会保障論	4	3	300			
	労働経済論	4	3	300			
	地方財政論	4	3	300			
	厚生経済学	4	3	300			
	公共経済学	4	3	300			
	公益事業論	4	3	300			
	資源・エネルギー論	4	3	300			
環境計画論	4	3	300				
エコロジー・デザイン特殊講義	2	2	200				
						計 40単位	計 24単位

(注1) 教職課程履修者以外の者は、他の「理論・歴史」カテゴリ科目を優先的に修得することが望ましい。

基礎数理専攻プログラム

1. 教育目的

基礎数理専攻プログラムは自然科学の基礎を体系的に学ぶことを目的とするだけでなく、自然に対する理解を深め、21世紀の自然観を培うことも目的とします。本専攻は数学や物理学、化学、生物学、地学の各分野から構成されますが、分野横断的に学習することが推奨され、科学的な見方や考え方を培うことに重点を置いています。例えば、身の回りの「不思議」を発見することから、問題と仮説を設定し、モデル化を行い、検証する科学的な営みを体験的に学びます。

自然と共生する持続可能な社会の構築には、科学技術が重要な役割を果たし、様々な業種において数理科学的素養が要求されます。本専攻ではこれからの社会を担うにふさわしい、論理的な判断力と行動力を有する人材を育成します。卒業後、大学院進学、教員（数学と理科）、情報通信、経済・金融・保険などの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

2. カリキュラムの特徴

基礎数理専攻では導入科目（100レベル）で数学と理科の基礎を培います。そして、専門基礎科目（200・300レベル）には数学、物理学、化学、生物学、地学の各分野の学習基盤を培うための選択科目が用意されています。発展科目（400レベル）では、自然科学各分野の最新の話題などを学習することができます。

本専攻では、講義科目においても実験やコンピュータを利用した演習など、具体物や体験を通して、学習が進められます。また、博物館を利用した学習や丹沢や多摩丘陵をフィールドとした学習も行われます。

本専攻には、自然科学の体系的学びと自然に対する幅広い学びが共存します。つまり、各学問分野を基礎から体系的に学び、大学院における専門的な学びへ発展できるだけでなく、自然科学に対する幅広い教養を培うこともでき、サイエンス・コミュニケーターや天気キャスターなどを目指す学生にも対応できるカリキュラムとなっています。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

行判	授業科目	行判	授業科目	行判	授業科目	行判	授業科目	行判	授業科目
数 学	数学概論	物 理	物理学概論	化 学	化学概論	生 物	生物学概論	地 学	地学概論
	線形代数学		力学		有機化学		植物学		地質学
	微分積分学		電磁気学		無機化学		動物学		地球物理学
	応用数学		量子力学		分析化学		生態学		気象学
	数学演習		統計物理学		物理化学		生理学		天文学
	代数学		物理学実験Ⅰ		化学実験Ⅰ		生化学		地学実験Ⅰ
	幾何学		物理学実験Ⅱ		化学実験Ⅱ		生物学実験Ⅰ		地学実験Ⅱ
	確率論と統計学		物理学特論Ⅰ		化学特論Ⅰ		生物学実験Ⅱ		地学特論Ⅰ
	コンピュータとデータ解析		物理学特論Ⅱ		化学特論Ⅱ		生物学特論Ⅰ		地学特論Ⅱ
	離散数学						生物学特論Ⅱ		
解析学									

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
数学	数学概論	2	1	100		6単位 選択必修	6単位 選択必修
物理	物理学概論	2	1	100			
化学	化学概論	2	1	100			
生物	生物学概論	2	1	100			
地学	地学概論	2	1	100			
数学	線形代数学	4	2	200	数学概論(注1)	演習または実験Iの1科目含めて14単位 選択必修	18単位 選択必修
	微分積分学	4	2	200	数学概論(注1)		
	応用数学	4	2	200	数学概論(注1) <small>線形代数学または微分積分学の既修得者は履修不可</small>		
	数学演習	2	2	200	数学概論(注1)		
物理	力学	4	2	200	物理学概論(注1)		
	電磁気学	4	2	200	物理学概論(注1)		
	物理学実験I	2	2	200			
化学	有機化学	4	2	200	化学概論(注1)		
	無機化学	4	2	200	化学概論(注1)		
	化学実験I	2	2	200			
生物	植物学	4	2	200			
	動物学	4	2	200			
	生物学実験I	2	2	200			
地学	地質学	4	2	200			
	地学実験I	2	2	200			
数学	代数学	4	3	300	線形代数学と微分積分学	16単位 選択必修	
	幾何学	4	3	300	線形代数学と微分積分学		
	確率論と統計学	4	3	300	線形代数学と微分積分学(注2)		
	コンピュータとデータ解析	2	3	300	確率論と統計学		
物理	量子力学	4	3	300	<small>応用数学と力学と電磁気学。または線形代数学と微分積分学と力学と電磁気学でも可 応用数学と力学。または線形代数学と微分積分学と力学でも可</small>		
	統計物理学	4	3	300			
	物理学実験II	2	3	300	生物学実験I		
化学	分析化学	4	2	300	化学概論(注1)		
	物理化学	4	2	300	化学概論(注1)		
	化学実験II	2	3	300	化学実験I		
生物	生態学	4	2	300			
	生理学	4	3	300			
	生化学	4	3	300			
	生物学実験II	2	3	300	生物学実験I		
地学	地球物理学	4	2	300	物理学概論(注1)		
	気象学	4	2	300	物理学概論(注1)		
	天文学	4	3	300	物理学概論(注1)		
	地学実験II	2	3	300	地学実験I		
数学	離散数学	4	3	400	線形代数学(注2)	4単位 選択必修	
	解析学	4	3	400	線形代数学と微分積分学(注2)		
物理	物理学特論I	2	3	400	物理学概論(注1)		
	物理学特論II	2	3	400	物理学概論(注1)		
化学	化学特論I	2	3	400	化学概論(注1)		
	化学特論II	2	3	400	化学概論(注1)		
生物	生物学特論I	2	3	400			
	生物学特論II	2	3	400			
地学	地学特論I	2	3	400			
	地学特論II	2	3	400			
						計 40単位	計 24単位

(注1) 高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除することがあります。

(注2) 応用数学の既修得者は応相談となります。

情報科学専攻プログラム

1. 教育目的

ますます高度化する情報化の大きな波の中で、社会で活躍するためにはコンピュータの操作技法のみならず情報処理に関する知識の習得が不可欠になっています。本専攻プログラムは、「情報科学に関する広い知識と高度な専門性を修得し、情報化時代の社会で活躍できる人物の育成」を目的としています。

この専攻プログラムは、コンピュータ全般にかかわる様々な演習科目や講義科目で構成されています。演習科目では、コンピュータの基礎操作技術をマスターした後、マルチメディアやデータベースの扱い方、プログラミング技術等のコンピュータ操作技法を身につけます。これと同時に、情報の社会に与える影響、コンピュータの構造と仕組み、ネットワークの動作原理やデータベースの概念・操作法等、情報科学に関する知識の習得も講義科目を通して行います。

本プログラムで専門性を身につけた学生は、社会の様々な分野で活躍することが期待されます。特に情報関連企業の専門職（SE）や総合職（営業）、あるいは一般企業における情報システム部門の専門職等で活躍することができます。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムを構成する科目は、〈自然科学〉、〈コミュニケーション関連科目〉、〈基礎科目〉、〈演習科目〉、〈応用科目〉の5つのカテゴリで提供されています。さらに科目レベルが設定されていて、導入部分から高度な専門的分野に至るまで体系的に学ぶことができるように構成されています。

1年次では基盤科目の「コンピュータリテラシーⅠ／Ⅱ」を学びながら、「情報と社会」などの基礎科目を学びます。同時に自然科学、コミュニケーション分野についても関連する知識を習得します。2年次からは本格的に専攻科目が始まります。講義科目では「情報システム論」、「情報分析論」、「情報デザイン論」など、演習科目として「プログラミングⅠ／Ⅱ」、「マルチメディア表現Ⅰ」などを学びます。3年次からは「データベース応用論」、「情報ネットワーク演習」、「ソフトウェア概論」など高度な専門を学びます。

科目にコンピュータの演習が多く取り入れられていることが情報科学専攻プログラムの特徴です。EXCELの高度な利用方法、PhotoshopやIllustratorの操作、C++やJavaでのプログラミングなど多様な演習を行うことができます。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
自然科学	数学概論	2	1	100		2単位 選択必修	2単位 選択必修
	物理学概論	2	1	100			
	化学概論	2	1	100			
	生物学概論	2	1	100			
	地学概論	2	1	100			
コミュニケーション関連科目	現代コミュニケーション理論	4	1	100		2単位 選択必修	
	メディア -きのう 今日 明日-	2	1	100			
	メディアと人権	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること		
	テキスト研究理論	4	2	300			
	集団コミュニケーション	2	1	200			
基礎科目	情報と社会	2	1	100		10単位 選択必修	6単位 選択必修
	情報と倫理	2	1	100			
	情報公開	2	2	200			
	情報システム論	4	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	データベース入門	4	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	認知の科学	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報ネットワーク入門	2	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論		
演習科目	応用表計算プログラム	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ	14単位 選択必修	10単位 選択必修
	プログラミングⅠ	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	プログラミングⅡ	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ、プログラミングⅠ		
	プレゼンテーション演習	2	2	100			
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200			
	Web ページプログラミング	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	データベース応用論	4	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、データベース入門		
	マルチメディア表現Ⅱ	4	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、マルチメディア表現Ⅰ		
	情報ネットワーク演習	2	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論、情報ネットワーク入門		
応用科目	情報分析論	4	2	200	コンピュータリテラシーⅡ	12単位 選択必修	6単位 選択必修
	情報デザイン論	2	2	200	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報と職業	2	3	300	情報システム論		
	システム設計論	4	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論		
	ソフトウェア概論	4	3	300	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論		
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	3	300	コンピュータリテラシーⅡ		
	情報セキュリティ論	2	3	400	コンピュータリテラシーⅡ、情報公開		
	知識表現とプログラミング	2	3	400	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論、プログラミングⅠ		
計						40単位	計 24単位

環境学専攻プログラム

1. 教育目的

21世紀は「環境の世紀」といわれています。すべての人が環境問題を考え、解決を目指さない限り、生き抜けない時代を迎えています。環境学は「総合の学」と位置づけられ、文系、理系の両分野から幅広く学ぶ必要があります。

さらに、重要な点は「環境問題は机上の学問だけではだめ」ということです。ささやかなことでも「実践」が欠かせません。そうした観点から学生参加で学内に発電用風車を建てたり、モンゴルに小型風車を贈ったりして自然エネルギーの普及に取り組んできました。ゼミでもフィールド調査や、環境問題の現場（例えば足尾鉾山跡など）での聞き取りなども行っています。そうした活動の中から、「環境問題、未来の持続可能な社会」を見据えた、しなやかな思考の学生の育成を目指し、企業、官公庁などの環境部門担当者や環境関連会社の調査担当者として十分活躍できる人材を養成したいと考えています。

2. カリキュラムの特徴

この専攻では人文科学、社会科学、自然科学の科目を揃え、幅広い分野を学ぶことができます。全体で30を超える科目から、社会系科目、自然系科目を目的に合わせ選択することにより、環境問題へ社会科学からも自然科学からもアプローチができます。カリキュラムは科目を〈基礎〉、〈総合〉、〈政策〉、〈思想・哲学〉、〈応用〉のカテゴリーに分け、学習の目的に合わせ選択し易い構成にしています。履修年次により入門的科目から専門的科目へ順次学べるようになっています。専攻演習では少人数で、個々の環境問題について調査、発表、議論などを通して深く学ぶことができます。また、特論科目を設けその時々話題性のある環境問題について専門の講師を依頼し解説してもらいます。企業や官公庁での環境担当部門を志望する方は、「環境法学」、「環境社会学」、「環境政策論」、「社会環境調査法」などを、環境関連の企業を志望する方は、「社会環境調査法」、「自然環境調査法」などの応用科目を中心に学ぶとよいでしょう。

3. 修了要件

メジャー：合計40単位以上

マイナー：合計24単位以上

学号	授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎科目	環境と文明	4	1	200		4単位 選択必修	4単位 選択必修
	エネルギー・環境・生命	4	2	200			
	ヒトと自然環境	4	2	200			
総合科目	ケミカルと人間社会	4	2	200		12単位 選択必修	8単位 選択必修
	地球規模環境論	4	3	200			
	生態学	4	2	300			
	環境社会学	4	2	300			
	環境と産業	4	2	300			
	資源循環論	4	3	300			
政策科目	環境経済論	4	2	200		12単位 選択必修	8単位 選択必修
	環境ビジネス論	2	2	200			
	環境法学	4	3	300			
	環境計画論	4	3	300			
	環境政策論	4	3	300			
	都市環境論	4	3	300			
思想・哲学科目	環境教育論	2	2	300		4単位 選択必修	2単位 選択必修
	人間環境学Ⅰ	2	2	200			
	環境倫理学	2	2	200			
	環境・生命・人権の哲学	2	3	300			
応用科目	騒音と環境	2	2	200		8単位 選択必修	2単位 選択必修
	電磁波と環境	2	2	200			
	水と環境	2	2	200			
	地盤と環境	2	2	200			
	社会環境調査法	2	2	300			
	危険物と環境	2	3	200			
	自然環境調査法	2	3	300			
	食品安全論	2	3	300			
	環境NPO・NGO	2	3	300			
	社会環境と知的財産	2	3	300			
	資源・エネルギー論	4	3	300			
	環境科学特論Ⅰ	1	2	200			
	環境科学特論Ⅱ	2	2	200			
						計 40単位	計 24単位

メディア（ジャーナリズム）専攻プログラム

1. 教育目的

情報の多様化や大衆化によって、メディアそのものが変化しています。加えて、政府や企業の情報操作技術は高まるばかりだから、メディアの変質は一層拍車がかかっています。その一方で、私たちは社会に関する情報の大半を、新聞やテレビ、インターネットなどのメディアから得ているにもかかわらず、国民のメディア意識は相変わらず低い。とくに、大学生の新聞・報道誌離れは著しいものがあります。

そこで、メディアの歴史や仕組み、社会的役割や影響などを学び、メディアへの対応法、すなわちメディア・リテラシーを身につける学生の育成を考えます。あわせて、歴史や理論、現場報告、演習などを織り込むことによって、メディア（マスコミ）で活躍するための「考える力」「文章化・言語化する力」を取得できる学生の育成もめざします。ジャーナリストとしての志をもつ学生の育成です。

2. カリキュラムの特徴

1年生の春、秋学期で必修の「メディア－きのう 今日 明日－」「ジャーナリストへの道」（各2単位）を導入講座と位置づけ、この専攻プログラムを履修するにあたっての基礎的な知識を身につけます。同秋学期では、テレビ、新聞、出版、広告の各ジャンルについての歴史や現状の動向などを知る授業がセットされています。

2年生では、学生諸君が実際に読んだり書いたり創ったり、といった演習中心の「新聞社説を読む」などの講座が用意され、実際に社説を執筆している新聞社の現役論説委員や著名なマスコミ人などに話してもらう企画もあります。

3年生以降では、「メディアと人権」「子供とメディア」などと、さまざまなテーマを掘り下げて、いろいろな角度から考える授業と取り組むことになるなど、メディア（ジャーナリズム）の本質に迫れるようなオーダーを組んでいます。

3. 修了要件

メジャー：合計42単位以上

マイナー：合計24単位以上

区分	授業科目
導入	メディア－きのう 今日 明日－ ジャーナリストへの道
検証	テレビの世界
	新聞の世界
	出版の世界
	広告の世界
	メディアと人権
	環境とメディア
	女性とメディア
	子供とメディア

区分	授業科目
検証	スポーツにんげん学
	情報公開
	現代コミュニケーション理論
	情報と社会
	テキスト研究理論
	レトリックの歴史
	対人コミュニケーション
	集団コミュニケーション
	情報と職業

区分	授業科目
歴史	日本のジャーナリズム
	アメリカのジャーナリズム
演習	新聞社説を読む
	地方紙を読む
	英字紙を読む
	広告コピーを読む
	若者の文化
	文章表現の技術
談話分析	

タイプ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	メジャー	マイナー		
導入	メディア -きのう 今日 明日-	2	1	100		必修	2単位 選択必修		
	ジャーナリストへの道	2	1	100		必修			
検証	テレビの世界	2	1	100		6単位 選択必修	2単位 選択必修		
	新聞の世界	2	1	100					
	出版の世界	2	1	100					
	広告の世界	2	1	100					
	メディアと人権	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること	12単位 選択必修	8単位 選択必修		
	環境とメディア	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること				
	女性とメディア	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること				
	子供とメディア	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること				
スポーツにんげん学	4	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること					
歴史	日本のジャーナリズム	2	2	200		12単位 選択必修	10単位 選択必修		
	アメリカのジャーナリズム	2	2	200					
演習	新聞社説を読む	2	2	200					
	地方紙を読む	2	2	200					
	英字紙を読む	2	2	200					
	広告コピーを読む	2	2	200					
検証	情報公開	2	2	200					
演習	若者の文化	2	2	300	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること				
	文章表現の技術	2	2	300	文章表現法Ⅱ				
検証	現代コミュニケーション理論	4	1	100		法を削除	文章表現		
	情報と社会	2	1	100					
演習	談話分析	4	2	200		8単位 選択必修	2単位 選択必修		
検証	テキスト研究理論	4	2	300					
	レトリックの歴史	2	2	300					
	対人コミュニケーション	4	2	200	現代コミュニケーション理論				
	集団コミュニケーション	2	1	200					
情報と職業	2	3	300	情報システム論					
						計 42単位	計 24単位		

博物館学マイナープログラム

1. 教育目的

博物館は、人類が生んだ最高の文化装置の一つと言われ、社会の近代化と国民文化や教育の振興のために、重要な貢献をしてきました。

本専攻プログラムは、博物館学芸員資格の取得を目的としない、純粋に博物館研究を志す学生を対象としたものです。日本で博物館は、社会教育のための機関と法律で定められていることから、社会教育学的観点を重視しつつ、歴史的・文化的・社会的・心理的・経済的観点など、さまざまな視点から現代社会における博物館の機能や市民生活における博物館の役割を学び、追求することを目的とします。

「もの」をベースとした人類の知の集結場所としての博物館の研究を通して、社会とともに変化する博物館の地位や役割を知るとともに、博物館のものの見方や考え方を身に付け、個性ある文化性豊かな暮らしを送る生活者、社会人を養成することを目標とします。

2. カリキュラムの特徴

本プログラムは、実務的な博物館学芸員を目指すコースとは切り離し、博物館を学問的に追求することを目的として設定された、国内でも数少ないコースです。

本学では、全学学生を対象として、東京国立博物館キャンパスメンバーズ及び、国立科学博物館パートナーシップに加入し、これら博物館常設展示の無料利用を実現しました。このような博物館利用環境を活用して、1年次では「博物館学Ⅰ（概論）」などの講義を設定し、まず博物館や学芸員とは何かを学び、2年次以降に博物館の基本である資料（資料論）や、情報・経営（情報・経営論）などに関する専門的事項を学ぶ仕組みとなっています。

さらに、博物館の専門的・技術的領域として博物館学特論の中で博物館展示論をはじめ、国内ではまだ開設講座の少ない文化遺産論などを学ぶほか、メディア関連の科目も履修します。

3. 修了要件

マイナー：合計24単位以上

タイプ	授業科目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	マイナー
導入	博物館学Ⅰ（概論）	2	1	100		必修
理論	学芸員のための教育学概論	2	1	100		必修
	博物館学Ⅱ（経営・情報論）	2	2	200	博物館学Ⅰ	必修
	博物館学Ⅲ（資料論）	2	2	200	博物館学Ⅰ	必修
	生涯学習概論	2	2	200		必修
	視聴覚教育メディア論	2	2	200		必修
	教育原理（教職課程）	2	1	200		
	教育心理学（心理学）	4	2	200		
	教育方法論	2	2	200		
	日本教育史	2	2	200		
	博物館学特論（博物館展示論）	2	3	300		必修
博物館学特論（文化遺産論）	2	3	300		必修	
演習	博物館実習	3	3	300	博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学芸員のための教育学概論、生涯学習概論、視聴覚教育メディア論	
トピックス	学校図書館メディアの構成	2	3	300		
	情報メディアの活用	2	3	300		
						16単位 選択必修
						4単位 選択必修
						上記選択必修科目を含め、計 24単位

日本地域研究（E）マイナープログラム

1. 教育目的

RJ (Reconnaissance Japan) マイナープログラムとは、日本の文化、社会、歴史、経済など日本研究の様々なテーマについて英語で学ぶプログラムです。もともと短期留学中の外国人学生のために作られたプログラムですが、相応の英語力を持つ日本人学生にも受講を奨励してきました。英語を母国語とする学生に混じって授業を受けることは、異文化について学ぶ絶好の機会ともなります。将来国際的な舞台で活動するとき、外国人と英語で自然に交流できる人材を育てることがこのプログラムの目的です。

2. カリキュラムの特徴

このプログラムの魅力は外国人留学生とともに学べるという点にあります。日本人の学生にとって、クラスは英語を学ぶ場ではなく、英語を使って勉強する場となります。講義や宿題などが英語であるのはもちろんのこと、授業中の討論やグループプロジェクトなど全ての活動を外国人留学生と共同で行わなければなりません。これらのクラスワークをこなすためには相当の英語力が必要とされるので、このプログラムのコースを選択する際にはアドバイザーに相談しなくてはなりません。

3. 修了要件

マイナー：合計24単位以上

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	マイナー	
Intercultural Communication	4	2	200		24単位 選択必修	
Japanese Art	4	2	200			
Japanese Classical Dance	4	2	200			
Japanese Culture	4	2	200			
Japanese Literature	4	2	200			
Japanese Management	4	2	200			
Japanese Politics	4	2	200			
Japanese Society	4	2	200			
Modern Japanese History	4	2	200			
Political Geography of East Asia	4	2	200			
Premodern Japanese History	4	2	200			
STJS (Intro. to Jpn. Folklore) Selected Topics in Japanese Studies	4	2	200	重複履修可		
STJS (Modern Jpn. Literature)	4	2	200	三行削除		
STJS (Jpn. Seen in Real Time)	4	2	200			
STJS (Jpn. Womens Literature)	4	2	200			
Sino-Japanese Relations	4	2	200			
The Japanese Economy	4	2	200			
Multimedia and Global Education	4	2	200			
Japanese Cultural Exchanges	4	2	200			
Comparative Culture	4	2	200			
History of U.S.-Japan Exchanges	4	2	200			
Education and Society in Japan	4	2	200			
						計 24単位

注意

- ①この専攻プログラムは、英語圏からの短期留学生用の科目群と同じです。
- ②STJSは、~~Selected Topics in Japanese Studies~~の略称です。

日本地域研究（C）マイナープログラム

1. 教育目的

日本地域研究（C）マイナープログラムは、中～上級の中国語能力を持ち、将来中国語圏への留学や就職、また中国人とともに国際社会で活躍したい学生を対象としています。このプログラムの目的は、中国語による日本学の講義を受けることによって、日本を中国の視点で理解し、中国語で説明する力を養うことです。これにより留学の準備、または留学を終えた学生の学力維持のために最適なプログラムとなっています。

2. カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、「日本産業」「日本政治」「日本経済」「日本地域研究特論（日本映画）」「日本地域研究特論（日本教育論）」「日本文学作品講読（古典）」「日本文学作品講読（現代）」「日本古典文学史」「日中関係」「日中跨文化交際」「日中環境問題概論」「日本企業管理」「日本社会」「日本文化」など、日本に関する人文・社会科学の科目を網羅し、これを中国語で講義するところに特徴があります。履修生は主に中国語圏の約20校の提携校から来た交換留学生や中国人正規留学生、そして日本人学生です。留学生とともに受講することにより、中国人の日本理解を学ぶことができ、また中国留学効果を期待することができます。なお、このプログラムは、授業中の主言語は中国語ですが、日本語を補助言語として使用するので、中国語中級者でも参加できる柔軟性のある授業方式と内容を持っています。

3. 修了要件

マイナー：合計24単位以上

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか	マイナー
日本政治	4	2	200		24単位 選択必修
日中関係	4	2	200		
日本社会	4	2	200		
日本文化	4	2	200		
日本古典文学史	4	2	200		
日本文学作品講読（古典）	4	2	200		
日本文学作品講読（現代）	4	2	200		
日中跨文化交際	4	2	200		
日本経済	4	2	200		
日本産業	4	2	200		
日本企業管理	4	2	200		
日本地域研究特論（日本教育論）	4	2	300		
日本地域研究特論（日本映画）	4	2	300		
日中環境問題概論	4	2	300		
					計 24単位

注意

①この専攻プログラムは、中国語圏からの短期留学生用の科目群と同じです。

4. 専攻科目と諸注意

※科目表の①履修年次 ②他学群学生の履修 ③先修条件ほか ④専攻プログラムについて
 ①履修年次欄に1とあるのは1年生以上が履修可能、2とあるのは2年生以上が履修可能です。
 ②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生 他学群の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	英語学講読(現代英語の語法)	4	2	200	△	重複履修可
	英語文献講読 I a	2	1	100	×	
	英語文献講読 I b	2	1	100	×	
	英語文献講読 II a	2	2	200	×	英語文献講読 I a又は I b
	英語文献講読 II b	2	2	200	×	英語文献講読 I a又は I b
	映画と英語圏文化(英文化)	4	2	300	△	
	映画と英語圏文化(米文化)	4	2	300	△	重複履修可
	ポップ・カルチャー	4	2	300	△	
	コモンウェルスの文学	4	2	300	△	
	アメリカ文化(メディアと民族)	4	2	300	△	重複履修可
	イギリス文化(現代イギリスの社会と文化)	4	2	300	△	重複履修可
	コモンウェルスの文化(オーストラリア)	4	2	300	△	重複履修可
	カルチュラル・スタディーズ	4	2	300	△	
	英米文学と宗教	4	2	300	△	
	人種と民族	4	2	300	△	
	英語学入門	4	2	200	△	
	英米文学入門	4	2	200	△	
	英語の歴史	4	2	200	△	
	19世紀のイギリス文学	4	2	200	△	
	20世紀のイギリス文学	4	2	200	△	
	19世紀のアメリカ文学	4	2	200	△	
	20世紀のアメリカ文学	4	2	200	△	
	英米文化講読(日米間コミュニケーション)	4	2	200	△	重複履修可
	テーマで読む文学	4	2	300	△	
	英米演劇文学	4	2	300	△	
	英米児童文学	4	2	300	△	
	英米文学講読(英米小説)	4	2	200	△	重複履修可
	英米文学講読(英米演劇)	4	2	200	△	
	批評理論入門	4	2	200	△	
	英語語彙論	4	2	300	△	

一行削除

一行削除

- ③先修条件とは、たとえばある科目を履修するために指定された科目をあらかじめすべて修得しておかなければならないことをいいます。
- ④専攻プログラム欄に○がある場合、科目がその専攻プログラムのメジャーまたはマイナーの修了要件として指定されていることを表します。

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 教 育	日 本 語 学	言 語 学	コ ミ ュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ デ ィ ア (ジ ャ ー ナ リ ズ ム)	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)			
英語学講読(現代英語の語法)	○																																			
英語文献講読 I a	○						○																													
英語文献講読 I b	○						○																													
英語文献講読 II a	○						○																													
英語文献講読 II b	○						○																													
映画と英語圏文化(英文化)	○						○																													
映画と英語圏文化(米文化)	○						○								○																					
ポップ・カルチャー							○		○						○																					
コモンウェルスの文学							○																													
アメリカ文化(メディアと民族)	○						○								○																					
イギリス文化(現代イギリスの社会と文化)	○						○		○																											
コモンウェルスの文化(オーストラリア)	○						○																													
カルチュラル・スタディーズ	○						○								○																					
英米文学と宗教							○				○																									
人種と民族							○							○	○																					
英語学入門	○						○																													
英米文学入門							○								○																					
英語の歴史	○						○																													
19世紀のイギリス文学							○																													
20世紀のイギリス文学							○		○																											
19世紀のアメリカ文学							○								○																					
20世紀のアメリカ文学							○		○						○																					
英米文化講読(日米間コミュニケーション)	○						○																													
テーマで読む文学							○																													
英米演劇文学							○																													
英米児童文学							○																													
英米文学講読(英米小説)							○																													
英米文学講読(英米演劇)							○																													
批評理論入門							○		○																											
英語語彙論	○																																			

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文学科	英語の音声	4	2	200	△		
	英語統語論	4	2	300	△		
	英語意味論	4	2	300	△		
	早期英語教育	4	2	200	△		
	英語教材開発	4	2	300	△		
	英作文指導法	4	2	200	△		
	英語教育学講読（概説）	4	2	100	△		
	資格英語Ⅰ -(TOEIC)-	2	2	200	△	重複履修可	
	資格英語Ⅱ	2	2	200	△	重複履修可	
	時事英語講読	4	2	300	△		
	第二言語習得法	4	2	300	△		
	CALL	4	2	200	△		
	英文法指導法	4	2	200	△		
	言語テストと評価	4	2	300	△		
	TEFL	4	2	300	△		
	翻訳（英→日）	4	2	300	△		
	翻訳（日→英）	4	2	300	△		
	通訳Ⅰ	4	2	300	△		
	通訳Ⅱ	4	2	300	△		
	特殊講義A	4	2	300	△		
	特殊講義B	4	2	300	△		
	英語コミュニケーションA	4	2	300	△		
	英語コミュニケーションB	4	2	300	△		
	英語コミュニケーションC	4	2	300	△		
	英語コミュニケーションD	4	2	300	△		
	中国語学概論	2	1	100	○		
	中国語音声学	4	1	200	○		
	中国語文法	4	1	200	○		
	中国語教育研究	4	2	300	○		
	中国文字学研究	4	2	300	○		
	日中対照言語学	2	2	300	○		
	日中対照言語研究	4	2	300	○		
	中国文学概論	4	1	100	○		
中国古典文学史	4	1	200	○			
中国近現代文学史	4	2	200	○			

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (<u>教 職 教 育</u>)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)			
英語の音声	○				○																														
英語統語論	○																																		
英語意味論	○																																		
早期英語教育	○																																		
英語教材開発	○																																		
英作文指導法	○																																		
英語教育学講読(概説)	○																																		
資格英語 I (TOEIC)	○																																		
資格英語 II	○																																		
時事英語講読	○																																		
第二言語習得法	○																																		
C A L L	○																																		
英文法指導法	○																																		
言語テストと評価	○																																		
T E F L	○																																		
翻訳 (英→日)	○						○																												
翻訳 (日→英)	○																																		
通訳 I	○																																		
通訳 II	○																																		
特殊講義 A																																			
特殊講義 B																																			
英語コミュニケーション A	○																																		
英語コミュニケーション B	○																																		
英語コミュニケーション C	○																																		
英語コミュニケーション D	○																																		
中国語学概論		○																																	
中国語音声学		○			○																														
中国語文法		○																																	
中国語教育研究		○																																	
中国文字学研究		○						○																											
日中対照言語学				○																															
日中対照言語研究		○																																	
中国文学概論		○						○																											
中国古典文学史		○	○					○																											
中国近現代文学史		○						○	○																										

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
人文学系科目	中国思想史	4	1	200	○	
	中国古典文学研究	4	2	300	○	
	中国近現代文学研究	4	2	300	○	
	中国文言文講読	2	2	100	○	
	中国古代思想研究	4	2	300	○	
	中国近現代思想研究	4	2	300	○	
	中国の芸術	4	2	300	○	
	中国語発音トレーニング	1	1	100	○	
	中国語リスニングⅠ	1	1	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	中国語リスニングⅡ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	中国語リスニングⅢ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	中国語会話Ⅰ	2	1	100	○	
	中国語会話Ⅱ	2	1	100	○	
	中国語会話Ⅲ	2	1	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	中国語会話Ⅳ	2	1	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	中国語会話Ⅴ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	中国語会話Ⅵ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	中国語講読Ⅰ	2	2	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	中国語講読Ⅱ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	ビジネス中国語Ⅰ	2	1	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	ビジネス中国語Ⅱ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	ビジネス中国語Ⅲ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	時事中国語	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	日中翻訳技法	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	日中通訳技法	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	検定・資格中国語A	2	2	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	検定・資格中国語B	2	2	200	○	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語会話Ⅰ、中国語会話Ⅱ、中国語発音トレーニングから4単位
	中国語作文Ⅰ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	中国語作文Ⅱ	2	2	300	○	中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語リスニングⅠ、中国語会話Ⅱ、中国語会話Ⅲ、中国語会話Ⅳ、ビジネス中国語Ⅰ、検定・資格中国語Ⅲ、検定・資格中国語Ⅳから4単位
	言語表現A	2	1	200	○	
言語表現B	2	1	200	○		
言語習得法	2	1	100	△		
日本語学概論	2	1	100	○		
日本文学史A	4	1	100	○		
日本文学史B	4	1	100	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)			
中国思想史		○						○			○	○	○					○																		
中国古典文学研究			○					○																												
中国近現代文学研究								○																												
中国文言文講読			○					○																												
中国古代思想研究								○				○																								
中国近現代思想研究								○	○			○																								
中国の芸術		○						○																												
中国語発音トレーニング		○																																		
中国語リスニングⅠ		○																																		
中国語リスニングⅡ		○																																		
中国語リスニングⅢ		○																																		
中国語会話Ⅰ		○						○																												
中国語会話Ⅱ		○						○																												
中国語会話Ⅲ		○						○																												
中国語会話Ⅳ		○						○																												
中国語会話Ⅴ		○																																		
中国語会話Ⅵ		○																																		
中国語講読Ⅰ		○						○																												
中国語講読Ⅱ		○						○																												
ビジネス中国語Ⅰ		○																																		
ビジネス中国語Ⅱ		○																																		
ビジネス中国語Ⅲ		○																																		
時事中国語		○																																		
日中翻訳技法		○																																		
日中通訳技法		○																																		
検定・資格中国語A		○																																		
検定・資格中国語B		○																																		
中国語作文Ⅰ		○																																		
中国語作文Ⅱ		○																																		
言語表現A			○	○																																
言語表現B			○	○																																
言語習得法			○	○	○																															
日本語学概論			○	○																																
日本文学史A			○															○																		
日本文学史B			○															○																		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
人文学科	日本文学講読A	2	1	200	○	
	日本文学講読B	2	1	200	○	
	日本文学講読C	2	1	200	○	
	日本文学講読D	2	1	200	○	
	日本文学講読E	2	1	200	○	
	書写	2	1	100	○	
	朗読	2	1	100	○	
	国語・漢字検定Ⅰ	2	1	100	○	
	国語・漢字検定Ⅱ	2	1	100	○	
	日本語の音声	2	1	200	△	
	日本語の表現	4	1	100	○	
	日本語の文字・表記	2	1	100	○	
	日本語の語彙・意味	4	1	100	△	
	日本語の文法	4	1	200	○	
	日本語教授法	4	2	200	○	
	社会言語学	4	2	200	○	
	応用言語学	4	2	300	△	
	対照言語学	4	2	300	○	
	コーパス言語学	4	2	300	△	
	テキスト言語学	4	2	300	△	
	平安文学の世界	4	2	300	○	
	中世文学の世界	4	2	300	○	
	江戸文学の世界	4	2	300	○	
	近代文学の世界	4	2	300	○	
	現代文学の世界	4	2	300	○	
	20世紀のロシア文学	4	2	200	○	
	フランス文学	4	2	200	○	
	比較文学	4	2	300	○	
	ことばの比較	2	1	100	○	
	言語データ分析	2	2	300	○	
	日本語教育実習	4	3	300	×	日本語教授法
	日本語教育文法	2	2	200	○	
	日本語教材開発	2	2	300	○	
	日本語の評価法	2	2	400	○	
マルチメディア日本語教育	2	2	300	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 教 育	日 本 語 学	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策 学	基 礎 数 理 学	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)				
日本文学講読A			○						○								○																				
日本文学講読B			○	○					○								○																				
日本文学講読C			○						○								○																				
日本文学講読D			○						○								○																				
日本文学講読E			○						○								○																				
書写			○	○																																	
朗読			○	○																																	
国語・漢字検定Ⅰ			○	○																																	
国語・漢字検定Ⅱ			○	○																																	
日本語の音声			○	○	○																																
日本語の表現			○	○	○																																
日本語の文字・表記			○	○																																	
日本語の語彙・意味			○	○	○																																
日本語の文法			○	○																																	
日本語教授法				○																																	
社会言語学	○		○	○	○																																
応用言語学	○		○	○	○																																
対照言語学					○																																
コーパス言語学	○																																				
テキスト言語学	○			○																																	
平安文学の世界			○														○																				
中世文学の世界			○														○																				
江戸文学の世界			○														○																				
近代文学の世界			○						○								○																				
現代文学の世界			○	○					○								○																				
20世紀のロシア文学									○																												
フランス文学									○																												
比較文学									○																												
ことばの比較			○	○																																	
言語データ分析			○	○																																	
日本語教育実習				○																																	
日本語教育文法				○																																	
日本語教材開発				○																																	
日本語の評価法				○																																	
マルチメディア日本語教育				○																																	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	年少者教育・バイリンガル教育	2	3	300	○	
	日本語史	2	4	400	○	
	多言語交流演習	2	1	100	○	
	カリキュラムデザイン	2	2	400	○	
	日本語教育学A	2	1	100	○	
	日本語教育学B	2	1	100	○	
	書道研究Ⅰ	2	2	200	○	
	書道研究Ⅱ	2	2	200	○	
	精神医学	4	2	200	○	
	言語と心理	4	2	300	△	
	心理学	4	1	100	○	
	精神保健学	4	2	200	○	
	心理学研究法	2	2	200	○	
	心理測定法	2	1	100	○	
	心理学基礎実験	2	2	200	△	心理学研究法、心理統計法 リベラルアーツ学群生/健康福祉学群生のみ履修可
	社会心理学調査実習	2	2	200	△	リベラルアーツ学群生/健康福祉学 群生のみ履修可
	学習心理学	4	2	200	○	
	認知心理学	4	2	200	○	
	教育心理学（心理学）	4	2	200	○	
	教育心理学（教職課程）	2	2	200	⊖×	教職課程登録者のみ履修可
	生涯発達心理学	4	1	200	○	
	家族心理学	4	2	200	○	
	生理心理学	2	2	200	○	
	人格心理学	4	2	200	○	
	臨床心理学	4	2	200	○	
	異常心理学	4	2	200	○	
	健康心理カウンセリング概論	2	3	200	○	健康心理学
	健康心理アセスメント概論	2	3	200	○	健康心理学
	健康心理学基礎実習	2	3	300	△	健康心理カウンセリング概論、健康心理アセスメント概論 リベラルアーツ学群生/健康福祉学群生のみ履修可
	健康教育概論	2	2	100	○	
学校カウンセリング論	2	3	300	○		
人間性心理学	2	2	300	○		
社会心理学	4	2	200	○		
産業・組織心理学	4	2	200	○		
人間関係論	4	2	200	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育 学	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)					
年少者教育・バイリンガル教育			○	○																																	
日本語史			○	○																																	
多言語交流演習				○																																	
カリキュラムデザイン				○																																	
日本語教育学A				○																																	
日本語教育学B				○																																	
書道研究Ⅰ			○																																		
書道研究Ⅱ			○																																		
精神医学													○									○															
言語と心理	○		○	○	○																																
心理学						○						○										○															
精神保健学																						○															
心理学研究法																						○															
心理測定法																						○															
心理学基礎実験																						○															
社会心理学調査実習																						○															
学習心理学																						○	○														
認知心理学																						○															
教育心理学(心理学)																						○													○		
教育心理学(教職課程)																							○														
生涯発達心理学																						○	○														
家族心理学																						○	○														
生理心理学																						○															
人格心理学																						○															
臨床心理学																						○															
異常心理学																						○															
健康心理カウンセリング概論																						○															
健康心理アセスメント概論																						○															
健康心理学基礎実習																						○															
健康教育概論																						○															
学校カウンセリング論																						○															
人間性心理学																						○															
社会心理学						○																○	○														
産業・組織心理学																						○															
人間関係論												○										○															

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文科学系科目	文化心理学	2	2	200	○		
	宗教心理学	2	2	300	○		
	心理統計法	2	2	200	○		心理測定法
	健康心理学入門	2	1	100	○		
	健康心理学	4	2	200	○		
	被害者支援心理学	2	2	300	○		
	障害児・者心理学	2	2	300	○		
	臨床心理学職域論	2	2	300	○		
	心理学実験実習	2	3	300	△		心理学基礎実験 リベラルアーツ学群生/健康福祉学群生のみ履修可
	人間関係論入門	2	1	100	○		
	心理学概論	4	1	100	○		
	倫理学概論	4	2	200	○		
	宗教学概論	4	2	200	○		
	哲学概論	4	2	200	○		
	哲学の諸問題	4	2	200	○		
	倫理学の諸問題	4	3	300	○		
	宗教学の諸問題	4	2	200	○		
	倫理学研究特論	2	2	200	△		
	宗教学研究特論	2	2	200	○		
	哲学研究特論	2	2	300	○		
	論理学	4	3	200	○		
	家庭と教育	2	1	100	○		
	教育思想	2	3	300	○		
	キリスト教と教育	2	1	100	○		
	宗教と教育	2	2	200	○		
	キリスト教と女性問題	2	2	300	○		
	キリスト教学研究特論	2	2	200	×		基盤教育「キリスト教理解」の中から4単位以上
	社会思想史	4	3	300	○		
	日本教育史	2	2	200	○		
	比較教育学	2	2	200	○		
	現代アジアの教育と文化	2	2	200	○		
	地誌学概論	2	1	100	○		
日本国憲法	2	1	100	⊖	×		
教職入門	2	1	100	⊖	×		
教育原理（教職課程）	2	1	200	⊖	×		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)					
文化心理学																					○																
宗教心理学										○	○	○										○															
心理統計法																						○															
健康心理学入門																																					
健康心理学																						○															
被害者支援心理学																						○															
障害児・者心理学																						○															
臨床心理学職域論																						○															
心理学実験実習																						○															
人間関係論入門						○				○																											
心理学概論												○									○		○	○	○												
倫理学概論										○	○	○				○					○		○	○	○												
宗教学概論										○	○	○	○	○	○	○					○		○	○	○												
哲学概論										○	○	○					○				○		○	○	○												
哲学の諸問題											○	○	○																								
倫理学の諸問題											○	○	○							○																	
宗教学の諸問題											○	○	○																								
倫理学研究特論											○	○	○																								
宗教学研究特論											○	○	○																								
哲学研究特論											○	○	○																								
論理学					○							○	○																								
家庭と教育																							○														
教育思想												○											○														
キリスト教と教育										○	○												○														
宗教と教育											○												○														
キリスト教と女性問題										○	○			○																							
キリスト教学研究特論										○																											
社会思想史										○	○	○	○				○				○																
日本教育史																○							○													○	
比較教育学																							○														
現代アジアの教育と文化																							○														
地誌学概論														○	○	○				○			○	○	○												
日本国憲法																○							○														
教職入門																							○														
教育原理（教職課程）																							○													○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修群	先修条件ほか
人文科学系科目群	教育制度論	2	2	200	×	
	教育関係法規Ⅰ	2	2	300	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育関係法規Ⅱ	2	2	300	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育課程論	2	2	200	×	
	道德教育論	2	2	200	×	
	特別活動論	2	2	200	×	
	教育方法論	2	2	200	×	
	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	2	2	200	×	
	進路指導論	2	2	200	×	
	教職総合演習	2	3	300	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育実習事前・事後指導A	1	3	200	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育実習事前・事後指導B	1	3	300	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育実習A	2	4	400	×	教職課程登録者のみ履修可
	教育実習B	2	4	400	×	教職課程登録者のみ履修可
	中等英語科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等英語科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等英語科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等英語科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等英語科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等英語科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等英語科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
	中等国語科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等国語科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等国語科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等国語科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等国語科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等国語科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等国語科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
	中等中国語科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等中国語科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等中国語科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等中国語科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等中国語科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等中国語科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等中国語科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等社会科・公民科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等数学科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等数学科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等数学科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等数学科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等数学科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等数学科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等数学科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
中等理科教育法Ⅰ	2	2	200	×	教職課程登録者のみ履修可	

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)			
教育制度論																						○													
教育関係法規Ⅰ																																			
教育関係法規Ⅱ																																			
教育課程論																							○												
道徳教育論																							○												
特別活動論																							○												
教育方法論																							○										○		
生徒指導論(生徒理解と教育相談)																							○												
進路指導論																							○												
教職総合演習																																			
教育実習事前・事後指導A																																			
教育実習事前・事後指導B																																			
教育実習A																																			
教育実習B																																			
中等英語科教育法Ⅰ																																			
中等英語科教育法Ⅱ																																			
中等英語科教育法Ⅲ																																			
中等英語科教育法Ⅳ																																			
中等国語科教育法Ⅰ																																			
中等国語科教育法Ⅱ																																			
中等国語科教育法Ⅲ																																			
中等国語科教育法Ⅳ																																			
中等中国語科教育法Ⅰ																																			
中等中国語科教育法Ⅱ																																			
中等中国語科教育法Ⅲ																																			
中等中国語科教育法Ⅳ																																			
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ																																			
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ																																			
中等社会科・公民科教育法Ⅰ																																			
中等社会科・公民科教育法Ⅱ																																			
中等数学科教育法Ⅰ																																			
中等数学科教育法Ⅱ																																			
中等数学科教育法Ⅲ																																			
中等数学科教育法Ⅳ																																			
中等理科教育法Ⅰ																																			

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修群	先修条件ほか
人文科学系科目群	中等理科教育法Ⅱ	2	3	200	×	中等理科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等理科教育法Ⅲ	2	3	300	×	中等理科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等理科教育法Ⅳ	2	4	300	×	中等理科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
	中等商業科教育法Ⅰ	2	2	200	○	
	中等商業科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等商業科教育法Ⅰ
	中等商業科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等商業科教育法Ⅱ
	中等商業科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等商業科教育法Ⅲ
	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	2	200	○	
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等保健体育科教育法Ⅰ
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等保健体育科教育法Ⅱ
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等保健体育科教育法Ⅲ
	中等情報科教育法Ⅰ	2	2	200	○	教職課程登録者のみ履修可
	中等情報科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等情報科教育法Ⅰ 教職課程登録者のみ履修可
	中等情報科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等情報科教育法Ⅱ 教職課程登録者のみ履修可
	中等情報科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等情報科教育法Ⅲ 教職課程登録者のみ履修可
	中等福祉科教育法Ⅰ	2	2	200	○	
	中等福祉科教育法Ⅱ	2	2	200	○	中等福祉科教育法Ⅰ
	中等福祉科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等福祉科教育法Ⅱ
	中等福祉科教育法Ⅳ	2	3	300	○	中等福祉科教育法Ⅲ
	中等音楽科教育法Ⅰ	2	2	200	○	
	中等音楽科教育法Ⅱ	2	3	200	○	中等音楽科教育法Ⅰ
	中等音楽科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等音楽科教育法Ⅱ
	中等音楽科教育法Ⅳ	2	4	300	○	中等音楽科教育法Ⅲ
	中等美術科教育法Ⅰ	2	2	200	○	
	中等美術科教育法Ⅱ	2	3	200	○	中等美術科教育法Ⅰ
	中等美術科教育法Ⅲ	2	3	300	○	中等美術科教育法Ⅱ
	中等美術科教育法Ⅳ	2	4	300	○	中等美術科教育法Ⅲ
	学校経営と学校図書館	2	3	300	×	教職課程登録者のみ履修可
	学校図書館メディアの構成	2	3	300	×	
	学習指導と学校図書館	2	3	300	×	教職課程登録者のみ履修可
読書と豊かな人間性	2	3	300	×		
情報メディアの活用	2	3	300	×		
博物館学Ⅰ（概論）	2	1	100	○		
博物館学Ⅱ（経営・情報論）	2	2	200	○	博物館学Ⅰ	
博物館学Ⅲ（資料論）	2	2	200	○	博物館学Ⅰ	

「中等商業科教育法Ⅰ」から「中等保健体育科教育法Ⅳ」（グレーの科目）を削除

「中等福祉科教育法Ⅰ」から「中等美術科教育法Ⅳ」（グレーの科目）を削除

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ ディ ア リ サ ー チ ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)				
中等理科教育法Ⅱ																																				
中等理科教育法Ⅲ																																				
中等理科教育法Ⅳ																																				
中等商業科教育法Ⅰ																																				
中等商業科教育法Ⅱ																																				
中等商業科教育法Ⅲ																																				
中等商業科教育法Ⅳ																																				
中等保健体育科教育法Ⅰ																																				
中等保健体育科教育法Ⅱ																																				
中等保健体育科教育法Ⅲ																																				
中等保健体育科教育法Ⅳ																																				
中等情報科教育法Ⅰ																																				
中等情報科教育法Ⅱ																																				
中等情報科教育法Ⅲ																																				
中等情報科教育法Ⅳ																																				
中等福祉科教育法Ⅰ																																				
中等福祉科教育法Ⅱ																																				
中等福祉科教育法Ⅲ																																				
中等福祉科教育法Ⅳ																																				
中等音楽科教育法Ⅰ																																				
中等音楽科教育法Ⅱ																																				
中等音楽科教育法Ⅲ																																				
中等音楽科教育法Ⅳ																																				
中等美術科教育法Ⅰ																																				
中等美術科教育法Ⅱ																																				
中等美術科教育法Ⅲ																																				
中等美術科教育法Ⅳ																																				
学校経営と学校図書館																																				
学校図書館メディアの構成																																				○
学習指導と学校図書館																																				
読書と豊かな人間性																							○													
情報メディアの活用																							○													
博物館学Ⅰ（概論）																																				○
博物館学Ⅱ（経営・情報論）																																				○
博物館学Ⅲ（資料論）																																				○

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
人文科学系科目群	博物館学特論（博物館展示論）	2	3	300	○		
	博物館学特論（文化遺産論）	2	3	300	○		
	博物館実習	3	3	300	○		博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学芸員のための教育学概論、生涯学習概論、視聴覚教育メディア論
	視聴覚教育メディア論	2	2	200	○		
	生涯学習概論	2	2	200	○		
	学芸員のための教育学概論	2	1	100	○		
社会科学系科目群	経済史	4	1	100	○		
	経済数学入門Ⅰ	2	1	100	○		
	経済数学入門Ⅱ	2	1	100	○		
	自然地理学概論	4	1	100	○		
	経済学史	4	2	200	○		
	基礎ミクロ経済学	2	1	100	○		
	基礎マクロ経済学	2	1	100	○		
	マクロ経済学	4	2	200	○		
	ミクロ経済学	4	2	200	○		
	応用ミクロ経済学	4	2	200	○		
	応用マクロ経済学	4	2	200	○		
	経済統計論	4	2	200	○		
	日本経済史	4	2	200	○		
	日本経済論	4	2	200	○		
	金融論	4	2	200	○		
	経済英書講読A	2	2	200	○		
	経済英書講読B	2	2	200	○		
	民法	4	1	100	○		
	労働法	4	2	200	○		
	経済地理学	4	1	100	○		
	計量経済学	4	3	300	○		
	経済変動論	4	3	300	○		
	現代資本主義論	4	3	300	○		
	経済学特殊講義A	2・4	2	200	○		
	経済学特殊講義B	2・4	2	200	○		
	フィールドワークA	2	3	300	○		
フィールドワークB(海外企業研修)	4	2	200	○			
現代の産業システム	4	2	200	○			
現代の企業システム	4	2	200	○			

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	現代の情報システム	4	2	200	○		
	現代の金融システム	4	2	200	○		
	現代の労働システム	4	2	200	○		
	総合政策特殊講義	2	2	200	○		
	環境デザイン演習	2	2	200	○		
	地域デザイン演習	2	2	200	○		
	学外研修事前学習	2	2	200	○		
	学外研修事後学習	2	2	200	○		
	インターンシップⅠ	2	2	200	○		
	インターンシップⅡ	2	2	200	○		
	インターンシップⅢ	2	2	200	○		
	インターンシップⅣ	2	2	200	○		
	ビジネス英語Ⅰ	2	2	200	○		
	ビジネス英語Ⅱ	2	2	200	○		
	国際経済論	4	2	200	○		
	国際金融論	4	2	200	○		
	経済開発論	4	2	200	○		
	多国籍企業論	4	2	200	○		
	国際法Ⅰ	4	2	200	○		
	国際法Ⅱ	4	2	200	○		
	アメリカ経済論	4	3	300	○		
	ヨーロッパ経済論	4	3	300	○		
	中国経済論	4	3	300	○		
	ロシア東欧経済論	4	3	300	○		
	東アジア経済論	4	3	300	○		
	国際マクロ経済学	4	2	200	○		
	比較経済体制論	4	2	200	○		
	国際協力論	4	2	200	○		
	国際協力特論	4	2	300	○		重複履修可
	国際協力フィールドワーク	1~4	2	300	○		
	国際学インターンⅠ	2	2	200	△		
	国際学インターンⅡ	2	2	200	△		
外国為替論	4	2	200	○			
国際投資論	4	3	300	○			
中小企業論	4	3	300	○			

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	情報産業論	4	2	200	○	
	サービス経済論	4	2	200	○	
	産業史	4	2	200	○	
	産業組織論	4	3	300	○	
	工業経済論	4	3	300	○	
	農業経済論	4	3	300	○	
	流通経済論	4	3	300	○	
	地域産業論	4	3	300	○	
	企業分析論	4	2	200	○	
	企業分析演習	4	3	300	○	
	中央銀行と貨幣政策	4	3	300	○	
	ネットワーク経済論	4	3	300	○	
	産業調査論	2	2	200	○	
	統計調査演習	2	2	200	○	
	産業調査演習	4	3	300	○	
	産業論特殊講義A	2	3	300	○	
	産業論特殊講義B	2	3	300	○	
	財政学	4	2	200	○	
	社会政策	4	2	200	○	
	生活経済論	4	2	200	○	
	環境経済論	4	2	200	○	
	行政法	4	2	200	○	
	経済法	4	2	200	○	
	行政学	4	3	300	○	
	経済政策	4	3	300	○	
	社会保障論	4	3	300	○	
	労働経済論	4	3	300	○	
	地方財政論	4	3	300	○	
	厚生経済学	4	3	300	○	
	公共経済学	4	3	300	○	
	公益事業論	4	3	300	○	
	資源・エネルギー論	4	3	300	○	
環境ビジネス論	2	2	200	○		
環境計画論	4	3	300	○		
政治経済学 I	4	1	100	○		

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	政治経済学Ⅱ	4	2	200	○	
	エコロジー・デザイン特殊講義	2	2	200	○	
	キャリアデザイン特殊講義A	2	3	300	○	
	キャリアデザイン特殊講義B	2	3	300	○	
	キャリアデザイン特殊講義C	2	3	300	○	
	キャリアデザイン演習A	2	3	300	○	
	キャリアデザイン演習B	2	3	300	○	
	キャリアデザイン演習C	2	3	300	○	
	文化地理学	4	1	100	○	
	国際関係論	4	1	100	○	
	国際関係特論（人間の安全保障）	4	2	200	○	
	国際政治論	4	1	100	○	
	国際機構論	4	2	300	○	
	国際関係史Ⅰ	4	2	200	○	
	国際関係史Ⅱ	4	2	200	○	
	国際関係思想	4	2	300	○	
	平和論	4	2	300	○	
	比較政治学	4	2	300	○	
	政治過程論	4	2	300	○	
	日米関係論	4	2	200	○	
	民族研究	4	2	200	○	
	発展途上国論	4	1	200	○	
	国際貿易論	4	2	200	○	
	社会経済学	4	2	200	○	
	国家論	4	2	200	○	
	紛争論	4	2	200	○	
	冷戦後の世界	4	2	300	○	
	持続可能な開発	4	2	200	○	
	子どもと開発	4	2	300	○	
	ジェンダーと開発	4	2	300	○	
	ヨーロッパ統合論	4	2	300	○	
	NGO論（国際協力入門）	4	1	100	○	
	NGO/NPO実務実習Ⅰ	1～4	2	200	△	
	NGO/NPO実務実習Ⅱ	1～4	2	300	△	
国際政治経済特論（ ヨーロッパの政治思想 ）	4	2	300	○	重複履修可	

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日本語 教育	日本語 学	コミュニケーション 学	英米 文学	中国 文学	現代・世界 文学	キリスト 教	宗 教	哲 学	倫 理	文化人 類学	アメリ カ地域 研究	アジ ア地域 研究	日本地 域研究 (J)	歴 史	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教育 学(教 職教 育)	国 際 経 済	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン テ ナ ン ス	博 物 館 学	日本 地域 研究 (E)	日本 地域 研究 (C)		
政治経済学Ⅱ																							○	○	○									
エコロジー・デザイン特殊講義																									○									
キャリアデザイン特殊講義A																																		
キャリアデザイン特殊講義B																																		
キャリアデザイン特殊講義C																																		
キャリアデザイン演習A																																		
キャリアデザイン演習B																																		
キャリアデザイン演習C																																		
文化地理学									○																									
国際関係論																			○	○														
国際関係特論(人間の安全保障)													○						○	○														
国際政治論															○				○	○														
国際機構論															○				○	○														
国際関係史Ⅰ								○										○	○															
国際関係史Ⅱ								○										○	○															
国際関係思想										○	○								○															
平和論								○		○										○														
比較政治学														○					○	○														
政治過程論																			○															
日米関係論														○		○	○	○																
民族研究													○	○				○	○	○														
発展途上国論															○				○					○										
国際貿易論																			○					○										
社会経済学																								○	○	○								
国家論																			○	○														
紛争論								○											○															
冷戦後の世界																		○	○															
持続可能な開発															○				○	○														
子どもと開発															○				○															
ジェンダーと開発															○				○															
ヨーロッパ統合論								○											○															
NGO論(国際協力入門)																			○	○	○													
NGO/NPO 実務実習Ⅰ																				○														
NGO/NPO 実務実習Ⅱ																				○														
国際政治経済特論(ヨーロッパの政治思想)																			○															

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	比較文化方法論Ⅰ	4	2	200	○		
	比較文化方法論Ⅱ	4	2	200	○		
	イスラム文化論	4	2	200	○		
	キリスト教文化論	4	2	200	○		
	儒教文化論	4	2	200	○		
	仏教文化論	4	2	200	○		
	文化人類学	4	1	100	△		
	心理人類学	4	2	200	○		
	比較社会学	4	2	200	○		
	社会調査法	4	2	200	○		
	社会統計学	2	2	200	△		
	現代社会研究	4	2	300	○		
	国際交流論Ⅰ	4	1	100	○		
	国際交流論Ⅱ	4	2	200	○		
	ロシアの社会と文化	4	2	100	○		
	国際人権法	4	2	300	○		
	文化社会学	4	2	200	○		
	宗教人類学	4	2	200	○		
	言語人類学	4	2	200	○		
	日露文化交流史	4	2	300	○		
	比較文化特論(性の人類学)	4	2	200	○		
	比較文化特論(西洋文明と思想)	4	2	200	○		
	比較文化特論(キャリアとしての国際交流)	4	2	200	○		
	比較文化フィールドワーク	4	2	300	×		文化人類学
	アジアの歴史Ⅰ	4	2	200	○		
	アジアの歴史Ⅱ	4	2	200	○		
	ユーラシア文化交流史	4	2	200	○		
	東南アジア研究	4	2	200	○		
	アジア研究概論	4	2	200	○		
	南アジア研究	4	2	200	○		
	アジアの政治	4	2	200	○		
	アジアの経済	4	2	200	○		
	アジアの社会	4	2	200	○		
アジアの思想と宗教	4	2	200	○			
アジア英連邦論	4	2	200	○			

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	アジア女性論	4	2	200	○		
	オセアニアの政治と経済	4	2	200	○		
	韓国文化論	4	2	200	○		
	現代中国文化論	4	2	200	○		
	東南アジアの現代社会	4	2	200	○		
	東北アジア研究	4	2	200	○		
	東アジア研究	4	2	200	○		
	東アジアの現代社会	4	2	200	○		
	西アジア研究	4	2	200	○		
	アジア研究特論(南アジアの国際関係)	4	2	200	○		重複履修可
	アメリカ研究概論	4	2	200	○		
	アメリカの歴史	4	2	200	○		
	アメリカの政治	4	2	200	○		
	アメリカの外交	4	2	200	○		
	アメリカの経済	4	2	200	○		
	アメリカの文化	4	2	200	○		
	アメリカ思想史	4	2	200	○		
	アメリカ社会史	4	2	200	○		
	アメリカ民族論	4	2	200	○		
	現代アメリカ論	4	2	200	○		
	アメリカ女性論	4	2	200	○		
	カナダの政治と経済	4	2	200	○		
	カナダの社会と文化	4	2	200	○		
	日本研究概論	4	2	200	○		
	日本の歴史Ⅰ	4	2	200	○		
	日本の歴史Ⅱ	4	2	200	○		
	日本の政治	4	2	200	○		
	日本の経済	4	2	200	○		
	日本の宗教	4	2	200	○		
	日本文化論	4	2	300	○		
	日本思想史	4	2	200	○		
	日韓交流史	4	2	200	○		
日米交流史	4	2	300	○			
近代日本の外交	4	2	300	○			
現代日本の政治	4	2	200	○			

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	ア ジ ア 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ア シ ア リ サ ス ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)				
アジア女性論										○				○		○		○		○																	
オセアニアの政治と経済																○									○												
韓国文化論			○					○		○				○	○	○		○																			
現代中国文化論	○		○					○	○						○	○																					
東南アジアの現代社会															○	○																					
東北アジア研究															○	○																					
東アジア研究															○	○	○																				
東アジアの現代社会															○	○																					
西アジア研究										○					○	○																					
アジア研究特論(南アジアの国際関係)															○	○																					
アメリカ研究概論							○								○			○																			
アメリカの歴史							○		○						○	○		○																			
アメリカの政治									○						○				○																		
アメリカの外交															○				○																		
アメリカの経済															○																						
アメリカの文化							○		○						○	○		○			○																
アメリカ思想史							○			○	○	○	○	○	○	○		○																			
アメリカ社会史							○		○						○	○		○																			
アメリカ民族論															○	○																					
現代アメリカ論															○	○																					
アメリカ女性論									○						○	○		○			○																
カナダの政治と経済															○											○											
カナダの社会と文化							○								○	○																					
日本研究概論														○			○	○																			
日本の歴史Ⅰ									○						○		○	○																			
日本の歴史Ⅱ									○						○		○	○																			
日本の政治														○			○		○																		
日本の経済																	○																				
日本の宗教										○	○			○			○																				
日本文化論														○	○		○	○																			
日本思想史										○	○	○	○	○	○		○	○																			
日韓交流史															○		○	○																			
日米交流史															○	○		○	○																		
近代日本の外交																	○	○	○																		
現代日本の政治																			○																		

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
社会科学系科目群	世界史における日本	4	2	200	○		
	沖縄研究	4	2	200	○		
	日本研究特論(日米文化社会比較)	4	2	200	○		
	国際学とキャリア	1	2	200	×		
	中国地域研究	4	2	300	○		
	中国のマスコミ	4	2	300	○		
	日中比較文化	4	2	200	○		
	中国文化史	4	2	200	○		
	経済学概論	4	1	100	○		
	地理学概論	4	1	100	○		
	法律学概論(国際法を含む)	4	1	100	○		
	政治学概論	4	1	100	○		
	社会学概論	4	1	100	○		
	日本史概論	4	2	200	○		
世界史概論	4	1	100	○			
自然科学系科目群	自然科学実験	2	1	100	×		
	数学概論	2	1	100	○		
	線形代数学	4	2	200	○		数学概論
	微分積分学	4	2	200	○		数学概論
	解析学	4	3	400	○		線形代数学と微分積分学
	確率論と統計学	4	3	300	○		線形代数学と微分積分学
	離散数学	4	3	400	○		線形代数学
	代数学	4	3	300	○		線形代数学と微分積分学
	幾何学	4	3	300	○		線形代数学と微分積分学
	数学演習	2	2	200	○		数学概論
	応用数学	4	2	200	○		数学概論。線形代数学または微分積分学の既修得者は履修不可
	物理学概論	2	1	100	○		
	力学	4	2	200	○		物理学概論
	電磁気学	4	2	200	○		物理学概論
	統計物理学	4	3	300	○		応用数学と力学。または線形代数学と微分積分学と力学でも可
	量子力学	4	3	300	○		応用数学と力学と電磁気学。または線形代数学と微分積分学と力学と電磁気学でも可
	物理学特論Ⅰ	2	3	400	○		物理学概論
物理学特論Ⅱ	2	3	400	○		物理学概論	
物理学実験Ⅰ	2	2	200	×			
物理学実験Ⅱ	2	3	300	×		物理学実験Ⅰ	

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係	国 際 協 力	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (<u>教 職 教 育</u>)	国 際 経 済	ヒ ュ マ ン ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策	基 礎 数 理	情 報 科 学	環 境 学	メ イ ン シ ャ ー ナ ル ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)				
世界史における日本			○	○						○			○		○	○																				
沖縄研究													○		○																					
日本研究特論(日米文化社会比較)															○																					
国際学とキャリア																																				
中国地域研究	○							○																												
中国のマスコミ	○							○																												
日中比較文化	○							○								○																				
中国文化史	○							○								○																				
経済学概論															○					○				○	○	○										
地理学概論														○	○					○				○	○	○										
法律学概論(国際法を含む)																			○	○	○			○	○	○										
政治学概論															○	○		○	○	○				○	○	○										
社会学概論												○	○	○		○			○	○				○	○	○										
日本史概論																○	○			○				○	○	○										
世界史概論											○		○	○		○	○		○	○				○	○	○										
自然科学実験																																				
数学概論				○																							○	○								
線形代数学																											○									
微分積分学																											○									
解析学																											○									
確率論と統計学																				○							○									
離散数学																											○									
代数学																											○									
幾何学																											○									
数学演習																											○									
応用数学																											○									
物理学概論													○														○	○								
力学																											○									
電磁気学																											○									
統計物理学																											○									
量子力学																											○									
物理学特論 I																											○									
物理学特論 II																											○									
物理学実験 I																											○									
物理学実験 II																											○									

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
自然科学系科目群	化学概論	2	1	100	○	
	有機化学	4	2	200	○	化学概論
	物理化学	4	2	300	○	化学概論
	分析化学	4	2	300	○	化学概論
	無機化学	4	2	200	○	化学概論
	化学特論Ⅰ	2	3	400	○	化学概論
	化学特論Ⅱ	2	3	400	○	化学概論
	化学実験Ⅰ	2	2	200	×	
	化学実験Ⅱ	2	3	300	×	化学実験Ⅰ
	生物学概論	2	1	100	○	
	植物学	4	2	200	○	
	動物学	4	2	200	○	
	生態学	4	2	300	○	
	生理学	4	3	300	○	
	生化学	4	3	300	○	
	生物学特論Ⅰ	2	3	400	○	
	生物学特論Ⅱ	2	3	400	○	
	生物学実験Ⅰ	2	2	200	×	
	生物学実験Ⅱ	2	3	300	×	生物学実験Ⅰ
	目群	地学概論	2	1	100	○
地球物理学		4	2	300	○	物理学概論
気象学		4	2	300	○	物理学概論
天文学		4	3	300	○	物理学概論
地質学		4	2	200	○	
地学特論Ⅰ		2	3	400	○	
地学特論Ⅱ		2	3	400	○	
地学実験Ⅰ		2	2	200	×	
地学実験Ⅱ		2	3	300	×	地学実験Ⅰ
学際・統合科学系科目群		情報ネットワーク入門	2	3	300	○
	現代コミュニケーション理論	4	1	100	○	
	オーラルコミュニケーション(きく)	2	1	100	○	
	オーラルコミュニケーション(話す)	2	1	100	○	
	メディア -きょう 今日 明日-	2	1	100	○	
	ジャーナリストへの道	2	1	100	○	
	テレビの世界	2	1	100	○	

専攻プログラム 授業科目	英	中	日本語	言	コ	英	中	現	キ	宗	哲	倫	文	ア	日	歴	国	国	社	心	教	国	ヒ	総	基	情	環	メ	博	日	日		
	語	語	教	語	ム	米	国	代	リ	教	理	化	メ	本	史	際	際	会	理	育	際	ン	合	礎	報	境	イ	物	本	本			
化学概論																									○	○							
有機化学																									○								
物理化学																									○								
分析化学																									○								
無機化学																									○								
化学特論Ⅰ																									○								
化学特論Ⅱ																									○								
化学実験Ⅰ																									○								
化学実験Ⅱ																									○								
生物学概論												○													○	○							
植物学																									○								
動物学					○																				○								
生態学																									○			○					
生理学																									○								
生化学																									○								
生物学特論Ⅰ																									○								
生物学特論Ⅱ																									○								
生物学実験Ⅰ																									○								
生物学実験Ⅱ																									○								
地学概論																									○	○							
地球物理学												○													○								
気象学																									○								
天文学																									○								
地質学																									○								
地学特論Ⅰ																									○								
地学特論Ⅱ																									○								
地学実験Ⅰ																									○								
地学実験Ⅱ																									○								
情報ネットワーク入門					○																					○							
現代コミュニケーション理論					○	○																				○			○				
オーラルコミュニケーション(書く)			○	○	○																												
オーラルコミュニケーション(話す)			○	○	○																												
メディア -きのう 今日 明日-					○																						○			○			
ジャーナリストへの道												○																				○	
テレビの世界																																○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	新聞の世界	2	1	100	○	
	出版の世界	2	1	100	○	
	広告の世界	2	1	100	○	
	情報と社会	2	1	100	○	
	談話分析	4	2	200	○	
	テキスト研究理論	4	2	300	○	
	レトリックの歴史	2	2	300	○	
	言語と文化	4	2	200	○	
	対人コミュニケーション	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論
	異文化コミュニケーション	4	2	200	○	現代コミュニケーション理論
	集団コミュニケーション	2	1	200	○	
	メディアと人権	4	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	環境とメディア	4	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	女性とメディア	4	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	子供とメディア	4	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	スポーツにんげん学	4	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	日本のジャーナリズム	2	2	200	○	
	アメリカのジャーナリズム	2	2	200	○	
	新聞社説を読む	2	2	200	○	
	地方紙を読む	2	2	200	○	
	英字紙を読む	2	2	200	○	
	広告コピーを読む	2	2	200	○	
	若者の文化	2	2	300	○	新聞社説を読む、地方紙を読む、英字紙を読む、広告コピーを読むの中から3科目以上を修得していること
	文章表現の技術	2	2	300	○	文章表現法Ⅱ
	認知の科学	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報と職業	2	3	300	○	情報システム論
	現代レトリック論	4	3	300	○	
	言語政策論	4	3	200	○	
	プラグマティックス	4	3	300	○	
	組織コミュニケーション	4	2	200	○	集団コミュニケーション
	国際コミュニケーション	4	3	300	○	現代コミュニケーション理論
	言語とジェンダー	4	3	300	○	異文化コミュニケーション
コミュニケーション学特論(非言語)	4	2	200	○		
コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	2	200	○		
メディアコミュニケーション	2	3	300	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ クス	総 合 政 策 学	基 礎 数 理 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディア リ ア ジ ム	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (C)	日 本 地 域 研 究 (E)						
新聞の世界													○																		○							
出版の世界													○																			○						
広告の世界																																	○					
情報と社会																													○				○					
談話分析			○	○	○	○																											○					
テキスト研究理論					○	○																							○				○					
レトリックの歴史					○																												○					
言語と文化			○	○									○																									
対人コミュニケーション			○	○		○																											○					
異文化コミュニケーション	○					○																																
集団コミュニケーション						○																							○				○					
メディアと人権										○																												
環境とメディア																																			○			
女性とメディア																																			○			
子供とメディア																																			○			
スポーツにんげん学																																			○			
日本のジャーナリズム																	○																		○			
アメリカのジャーナリズム															○																				○			
新聞社説を読む												○																								○		
地方紙を読む																																				○		
英字紙を読む																																				○		
広告コピーを読む																																				○		
若者の文化			○																		○															○		
文章表現の技術						○						○																									○	
認知の科学					○	○																															○	
情報と職業						○																															○	
現代レトリック論						○																																
言語政策論					○																																	
プラグマティックス			○	○	○	○																																
組織コミュニケーション						○																																
国際コミュニケーション						○																																
言語とジェンダー					○	○																																
コミュニケーション学特論(非言語)						○																																
コミュニケーション学特論(きことの科学)						○																																
メディアコミュニケーション						○																																

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	他学生の履修	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	異文化理解教育	4	3	300	○	
	情報と倫理	2	1	100	○	
	情報公開	2	2	200	○	
	情報システム論	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報分析論	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	データベース入門	4	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	応用表計算プログラム	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	プログラミングⅠ	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	プログラミングⅡ	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ、プログラミングⅠ
	プレゼンテーション演習	2	2	100	○	
	マルチメディア表現Ⅰ	4	2	200	○	
	マルチメディア表現Ⅱ	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ、マルチメディア表現Ⅰ
	Web ページプログラミング	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報デザイン論	2	2	200	○	コンピュータリテラシーⅡ
	データベース応用論	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ、データベース入門
	システム設計論	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論
	ソフトウェア概論	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ
	情報ネットワーク演習	2	3	300	○	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論、情報ネットワーク入門
	情報セキュリティ論	2	3	400	○	コンピュータリテラシーⅡ、情報公開
	知識表現とプログラミング	2	3	400	○	コンピュータリテラシーⅡ、情報システム論、プログラミングⅠ
	コンピュータとデータ解析	2	3	300	○	確率論と統計学
	エネルギー・環境・生命	4	2	200	○	
	環境と文明	4	1	200	○	
	ヒトと自然環境	4	2	200	○	
	ケミカルと人間社会	4	2	200	○	
	騒音と環境	2	2	200	○	
	電磁波と環境	2	2	200	○	
	水と環境	2	2	200	○	
	地盤と環境	2	2	200	○	
環境科学特論Ⅰ	1	2	200	○		
環境科学特論Ⅱ	2	2	200	○		
環境・生命・人権の哲学	2	3	300	○		
危険物と環境	2	3	200	○		
人間環境学Ⅰ	2	2	200	○		

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 国 語	日 本 語 日 本 文 学	日 本 語 教 育	言 語 学	コ ミュ ニ ケー ション 学	英 米 文 学	中 国 文 学	現 代 ・ 世 界 文 学	キ リ ス ト 教 学	宗 教 学	哲 学	倫 理 学	文 化 人 類 学	ア メ リ カ 地 域 研 究	日 本 地 域 研 究 (J)	歴 史 学	国 際 関 係 学	国 際 協 力 学	社 会 学	心 理 学	教 育 学 (教 職 教 育)	国 際 経 済 学	ビ ジ ネ ス エ コ ノ ミ ク ス	総 合 政 策 学	基 礎 数 理 学	情 報 科 学	環 境 学	メ ディ ア リ サ ル ス	博 物 館 学	日 本 地 域 研 究 (E)	日 本 地 域 研 究 (C)						
異文化理解教育			○		○																																	
情報と倫理													○														○											
情報公開																											○		○									
情報システム論																											○											
情報分析論																											○											
データベース入門					○																						○											
応用表計算プログラム																											○											
プログラミングⅠ																											○											
プログラミングⅡ																											○											
プレゼンテーション演習						○																					○											
マルチメディア表現Ⅰ						○																					○											
マルチメディア表現Ⅱ						○																					○											
Web ページプログラミング						○																					○											
情報デザイン論																											○											
データベース応用論																											○											
システム設計論																											○											
ソフトウェア概論																											○											
ヒューマンコンピュータインターフェイス																											○											
情報ネットワーク演習																											○											
情報セキュリティ論																											○											
知識表現とプログラミング																											○											
コンピュータとデータ解析																										○												
エネルギー・環境・生命													○																						○			
環境と文明									○				○																							○		
ヒトと自然環境										○																											○	
ケミカルと人間社会																																					○	
騒音と環境																																					○	
電磁波と環境																																					○	
水と環境																																					○	
地盤と環境																																					○	
環境科学特論Ⅰ																																					○	
環境科学特論Ⅱ																																					○	
環境・生命・人権の哲学										○	○	○	○							○																	○	
危険物と環境																																					○	
人間環境学Ⅰ																																					○	

(次のページに続く)

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	人間環境学Ⅱ	2	3	300	○		
	環境倫理学	2	2	200	○		
	社会環境調査法	2	2	300	○		
	環境社会学	4	2	300	○		
	環境教育論	2	2	300	○		
	環境と産業	4	2	300	○		
	環境法学	4	3	300	○		
	資源循環論	4	3	300	○		
	自然環境調査法	2	3	300	○		
	地球規模環境論	4	3	200	○		
	食品安全論	2	3	300	○		
	環境政策論	4	3	300	○		
	都市環境論	4	3	300	○		
	社会環境と知的財産	2	3	300	○		
	環境 NPO・NGO	2	3	300	○		
	Intercultural Communication	4	2	200	○		
	Japanese Art	4	2	200	○		
	Japanese Classical Dance	4	2	200	○		
	Japanese Culture	4	2	200	○		
	Japanese Literature	4	2	200	○		
	Japanese Management	4	2	200	○		
	Japanese Politics	4	2	200	○		
	Japanese Society	4	2	200	○		
	Modern Japanese History	4	2	200	○		
	Political Geography of East Asia	4	2	200	○		
	Premodern Japanese History	4	2	200	○		
	STIS (Intro to Jpn. Folklore)	4	2	200	○		重複履修可
	Selected Topics in Japanese Studies						
	STJS (Modern Jpn. Literature)	4	2	200	○		
	STJS (Jpn. Seen in Real Time)	4	2	200	○		
	STJS (Jpn. Womens Literature)	4	2	200	○		
	Sino-Japanese Relations	4	2	200	○		
The Japanese Economy	4	2	200	○			
Multimedia and Global Education	4	2	200	○			
Japanese Cultural Exchanges	4	2	200	○			
Comparative Culture	4	2	200	○			

三行削除

専攻プログラム 授業科目	英 語	中 語	日本語 教育	日本語 学	コミュニ ケーション 学	英米 文学	中国 文学	現代・世界 文学	キリス ト教学	宗 教学	哲 学	倫 理学	文化人 類学	アメリ カ地域 研究	日本地 域研究 (J)	歴史 学	国際 関係	国際 協力	社 会学	心 理学	教育学 (教職 教育)	国際 経済	ビジ ネス エコノ ミクス	総合 政策	基礎 数理	情報 科学	環 境学	メ イ ン ス ト リ ア ム	博 物 館 学	日本 地域 研究 (E)	日本 地域 研究 (C)	
人間環境学Ⅱ																																
環境倫理学												○	○															○				
社会環境調査法																												○				
環境社会学																				○								○				
環境教育論																												○				
環境と産業																												○				
環境法学																												○				
資源循環論																												○				
自然環境調査法																												○				
地球規模環境論																												○				
食品安全論																												○				
環境政策論																												○				
都市環境論																												○				
社会環境と知的財産																												○				
環境 NPO・NGO																												○				
Intercultural Communication																																○
Japanese Art																																○
Japanese Classical Dance																																○
Japanese Culture																																○
Japanese Literature																																○
Japanese Management																																○
Japanese Politics																																○
Japanese Society																																○
Modern Japanese History																																○
Political Geography of East Asia																																○
Premodern Japanese History																																○
Selected Topics in Japanese																																○
STJS (Modern Jpn. Literature)																																⊖
STJS (Jpn. Scen in Real Time)																																⊖
STJS (Jpn. Womens Literature)																																⊖
Sino-Japanese Relations																																○
The Japanese Economy																																○
Multimedia and Global Education																																○
Japanese Cultural Exchanges																																○
Comparative Culture																																○

三行削除

科目区分	授業科目	単位数	履修年次	レベル	学生の履修	他学群	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	History of U.S.-Japan Exchanges	4	2	200	○		
	Education and Society in Japan	4	2	200	○		
	日本政治	4	2	200	○		
	日中関係	4	2	200	○		
	日本社会	4	2	200	○		
	日本文化	4	2	200	○		
	日本古典文学史	4	2	200	○		
	日本文学作品講読（古典）	4	2	200	○		
	日本文学作品講読（現代）	4	2	200	○		
	日中跨文化交際	4	2	200	○		
	日本経済	4	2	200	○		
	日本産業	4	2	200	○		
	日本企業管理	4	2	200	○		
	日中環境問題概論	4	2	300	○		
	日本地域研究特論（日本教育論）	4	2	300	○		
日本地域研究特論（日本映画）	4	2	300	○			
統合科学系科目群 人文・社会・自然・学際	専攻演習Ⅰ	2	3	300	△		
	専攻演習Ⅱ	2	3	300	△		
	卒業論文	4	3	400	×		
	卒業研究	4	3	400	×		

諸注意

①専攻演習と卒業論文・卒業研究

- (イ) 「専攻演習」は4セメスター目に事前登録を行います。希望者が集中した場合は、選抜が行われることがあります。
- (ロ) 「卒業論文」または「卒業研究」の指導は原則として「専攻演習」担当教員が引き続き指導することになります。「卒業論文」または「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」および「専攻演習Ⅱ」を修得して下さい。

教職課程概論科目

社会学専攻プログラム

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか
心理学概論	4	1	100	
倫理学概論	4	2	200	
宗教学概論	4	2	200	
哲学概論	4	2	200	
地誌学概論	2	1	100	
経済学概論	4	1	100	
地理学概論	4	1	100	
法律学概論（国際法を含む）	4	1	100	
政治学概論	4	1	100	
日本史概論	4	2	200	
世界史概論	4	1	100	

（注1）教職課程履修者以外の者は、他の「トピックス」カテゴリー科目を優先的に修得することが望ましい。

（注2）「トピックス」カテゴリー科目としてメジャー14単位まで、マイナー8単位まで認定可能。

国際経済、ビジネスエコノミクス、総合政策専攻プログラム【共通】

授 業 科 目	単位数	履修年次	レベル	先修条件ほか
心理学概論	4	1	100	
倫理学概論	4	2	200	
宗教学概論	4	2	200	
哲学概論	4	2	200	
地誌学概論	2	1	100	
経済学概論	4	1	100	
地理学概論	4	1	100	
法律学概論（国際法を含む）	4	1	100	
政治学概論	4	1	100	
日本史概論	4	2	200	
世界史概論	4	1	100	
社会学概論	4	1	100	
自然地理学概論	4	1	100	

（注1）教職課程履修者以外の者は、他の「理論・歴史」カテゴリー科目を優先的に修得することが望ましい。

VI 諸 資 格

1. 教職課程

(1) 教育職員免許状の取得について

教員になろうとする者は、国・公・私立学校を問わず、それぞれの学校の相当の教育職員免許状（以下、免許状という）を取得していることが必要です。

免許状は「教育職員免許法」に基づき文部科学省の認定を受けた課程で所定の単位を修得することにより、取得することができます。本学において取得できる免許状は、中学校及び高等学校に関する免許状です。本学を卒業し、免許状の授与を受けるために必要な単位を修得し、当該免許状の授与権者である都道府県の教育委員会に申請することで、免許状の授与を受けることができます。

したがって、教員になることを志望する学生は、免許状を取得するために本学教職課程における所定の単位を修得しなければなりません。

また、公立学校の教員になろうとする場合には、さらに都道府県の教育委員会が行う教員採用候補者選考試験に合格しなければ採用されません。私立学校についても私学団体の適性検査受検が必要な場合が多くあります。

なお、中学校・高等学校一括方式の教員採用が増加しているので中学校教諭1種免許状及び高等学校1種免許状の両方を取得することが望まれます。

(2) 本学の教職課程と取得できる免許状の種類と教科

大学を卒業して学士の学位を得たことを基礎資格として取得できる免許状は、中学校教諭1種免許状（以下、中1種免という）・高等学校教諭1種免許状（以下、高1種免という）で、以下に示す教科の免許状が取得できます。

学 科	免許状の種類	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
総 合 文 化 学 群		音 楽（注1） 美 術（注2）	音 楽（注1） 美 術（注2）
ビジネスマネジメント学群			商 業
健 康 福 祉 学 群		保 健 体 育	保 健 体 育 社（注3）
リベラルアーツ学群		国 語 社 会 数 学 理 科(注4) 外 国 語（英語） 外 国 語（中国語）	国 語 地 理 歴 史 公 民 学 数 学 理 科(注4) 情 報 外 国 語（英語） 外 国 語（中国語）

(注1) 総合文化学群音楽専修の学生のみ履修できます。

(注2) 総合文化学群造形デザイン専修の学生のみ履修できます。

(注3) 健康福祉学群社会福祉専修の学生のみ履修できます。

(注4) リベラルアーツ学群の学生のみ履修できます。

(3) 教職課程履修上の注意事項

- ① 教職課程の履修に際しては強い意志と早い段階から綿密な学習計画が必要となるため、教職の意義などについて深く学び自己の適性について考えることが必要です。履修希望者は2年次春学期の教職課程オリエンテーションに出席し、課程登録を行います。また期間中に課程費を納入してください。
- ② 毎年4月のオリエンテーション期間中に教職課程オリエンテーションを行います。学年ごとに事務手続き等の説明を行うので、毎年必ず出席してください。欠席の場合は課程を辞退したものとみなされます。
- ③ 教職課程掲示板・e-Campus 掲示板で、教職課程履修者に必要な連絡事項を掲示します。毎年、これを見落とす学生が多いので注意してください。自己責任となるので、頻繁に掲示板を確認する習慣をつけてください。特に介護等体験や教育実習が近くなると連絡事項が多くなります。連絡を受けたら、すばやく対応してください。
- ④ 教職課程履修者で、2年生から4年生の間で海外留学を予定している学生は留学することが確定した段階で必ず、教務課に申し出て、事務手続きの確認をしてください。他課で手続きを行っても教務課に連絡がないと、留学中の教職に関する履修や実習等に関するアドバイスができません。安心して留学を行うために、必ず教務課に留学中または留学前後の教職に関する事務手続きの確認をしてください。
- ⑤ 教職課程を途中で辞退する場合は、必ず教務課に申し出てください。(教員免許状取得のために教務課は様々な手続きを行っているので進行中の手続きを確実に停止させる必要があるため。)
- ⑥ 実習校等との事務手続き、教員免許状申請手続き等々は事前に説明会を開催し、詳細な説明を行うので、必ず出席してください。日程等については掲示板・e-Campus 掲示板を確認してください。
- ⑦ 教育・指導上のことは教育実習担当教員に、事務手続きについては教務課に十分な時間の余裕を持って問い合わせてください。特に、事務手続きが1つでも未完・不備の場合は、実習や免許状申請ができなくなる場合もあります。

(4) 教職課程の構成

法令に定められた教職課程の科目区分は【教職に関する科目】、【教科に関する科目】【教科又は教職に関する科目】及び【教育職員免許法5条別表第1備考第4号に規定する文部科学省令(同法施行規則第66条の6)で定める科目】で、それぞれの最低修得単位数は第1表に示すとおりです。

また、本学が認定をうけた課程の各教科の最低修得単位数は第2表のとおりです。

第1表

所定の科目区分／免許状の学校種	中学校一種免許状 ※	高等学校一種免許状
教職に関する科目	31単位	23単位
教科に関する科目	20単位	20単位
教科又は教職に関する科目	8単位	16単位
66条の6に定める科目	8単位	8単位
合 計	67単位	67単位

※ 中1種免を取得の場合は7日間の介護等体験が必要になります。

第2表 桜美林大学教職課程の学校種、免許状教科及び科目の最低修得単位数一覧

(数字は単位数)

教科に関する科目が開設されている学群	最低修得単位数	教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目 (中1種8 高1種16)	規則第66条の6に定める科目	合計
ビジネスマネジメント学群	高1種 商業	29	20	10	8	67
健康福祉学群	高1種 福祉	29	36	0	8	73
	中1種 保健体育	34	22	3	8	67
	高1種 保健体育	29	22	8	8	67
総合文化学群	中1種 音楽	34	24	1	8	67
	高1種 音楽	29	24	6	8	67
	中1種 美術	34	26	0	8	68
	高1種 美術	29	24	6	8	67
リベラルアーツ学群	中1種 国語	34	24	1	8	67
	高1種 国語	29	22	8	8	67
	中1種 社会	36	26	0	8	70
	高1種 地歴	27	22	10	8	67
	高1種 公民	27	20	12	8	67
	中1種 数学	34	20	5	8	67
	高1種 数学	29	20	10	8	67
	中1種 理科	34	20	5	8	67
	高1種 理科	29	20	10	8	67
	高1種 情報	29	24	6	8	67
	中1種 外国語(英語)	34	40※	0	8	82※
	高1種 外国語(英語)	29	40※	0	8	77※
	中1種 外国語(中国語)	34	23	2	8	67
高1種 外国語(中国語)	29	23	7	8	67	

※その他「英語エクステンションA・B」から合計8単位修得が必要です。詳しくはP.191を参照してください。

～他学群聴講による免許状取得のための留意点～

自学群の専攻科目と合わせて履修するため、取得する免許状教科の専門知識が不足します。また、それぞれの必修科目が時間割上、重なる場合があるため、入念な履修計画が必要です。教務課に必ず相談してください。卒業と同時に他学群聴講による免許状申請の資格要件をも保証するものではありません。各教科の免許状の所要資格(単位の修得)を自己確認できる表「単位修得確認表」で確認してください。

(5) 教職課程の履修方法

【教職に関する科目】

教育職員免許法施行規則第6条に基づき本学における免許状取得に必要な「教職に関する科目」とその最低修得単位数は、第3表に示す通りで、必要な単位数を修得してください。

第3表 「教職に関する科目」開講科目一覧

第1欄	教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	本学開講授業科目	単位	履修年次	備考
第2欄	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	2	教職入門	②	1	
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理（教職課程）	②	1	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学（教職課程）	②	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論 教育関係法規Ⅰ（注1） 教育関係法規Ⅱ（注1）	② 2 2	2 2 2	
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中 14 16 高 10 12	教育課程論	②	2	
		・各教科の指導法		教科教育法Ⅰ（注1） 教科教育法Ⅱ（注1） 教科教育法Ⅲ（注1） 教科教育法Ⅳ（注1）	② ② ② 2	2 2・3 3 3・4	教科によって異なるため第4表を参照のこと
		・道徳の指導法		道徳教育論	△②	2	中1種必修
		・特別活動の指導法		特別活動論	②	2	
		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	②	2	
	生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	4	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	②	2	
		・進路指導の理論及び方法		進路指導論	②	2	
第5欄	総合演習		2	教職総合演習（注1）	②	3	
第6欄	教育実習		中5 高3	教育実習事前・事後指導A（注1）	△①	3	中1種必修
				教育実習事前・事後指導B（注1）	①	3	
				教育実習A（注1）	△②	4	中1種必修
				教育実習B（注1）	②	4	

単位欄の○付数字・・・「教職に関する科目」の必修科目 △付数字は中1種のみ必修科目
教職に関する科目の修得単位数は、卒業要件単位に含まれます。

（注1）教職課程登録者のみ履修可能です。

第4表 教科教育法の履修

○…「教科教育法の科目」の必修科目

中・高1種「保健体育」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
保健体育科教育法Ⅰ	②	
保健体育科教育法Ⅱ	②	保健体育科教育法Ⅰ
保健体育科教育法Ⅲ	②	保健体育科教育法Ⅱ
保健体育科教育法Ⅳ	2	保健体育科教育法Ⅲ
高1種「福祉」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
福祉科教育法Ⅰ	②	
福祉科教育法Ⅱ	②	福祉科教育法Ⅰ
福祉科教育法Ⅲ	②	福祉科教育法Ⅱ
福祉科教育法Ⅳ	2	福祉科教育法Ⅲ
高1種「商業」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
商業科教育法Ⅰ	②	
商業科教育法Ⅱ	②	商業科教育法Ⅰ
商業科教育法Ⅲ	②	商業科教育法Ⅱ
商業科教育法Ⅳ	2	商業科教育法Ⅲ
中・高1種「音楽」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
音楽科教育法Ⅰ	②	
音楽科教育法Ⅱ	②	音楽科教育法Ⅰ
音楽科教育法Ⅲ	②	音楽科教育法Ⅱ
音楽科教育法Ⅳ	2	音楽科教育法Ⅲ
中・高1種「美術」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
美術科教育法Ⅰ	②	
美術科教育法Ⅱ	②	美術科教育法Ⅰ
美術科教育法Ⅲ	②	美術科教育法Ⅱ
美術科教育法Ⅳ	2	美術科教育法Ⅲ
中・高1種「国語」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等国語科教育法Ⅰ	②	
中等国語科教育法Ⅱ	②	中等国語科教育法Ⅰ
中等国語科教育法Ⅲ	②	中等国語科教育法Ⅱ
中等国語科教育法Ⅳ	2	中等国語科教育法Ⅲ
高1種「情報」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等情報科教育法Ⅰ	②	
中等情報科教育法Ⅱ	②	中等情報科教育法Ⅰ
中等情報科教育法Ⅲ	②	中等情報科教育法Ⅱ
中等情報科教育法Ⅳ	2	中等情報科教育法Ⅲ

中1種「社会」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	②	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	②	中等社会科・公民科教育法Ⅰ
高1種「地理歴史」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	②	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ
高1種「公民」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等社会科・公民科教育法Ⅰ	②	
中等社会科・公民科教育法Ⅱ	②	中等社会科・公民科教育法Ⅰ
中・高1種「数学」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等数学科教育法Ⅰ	②	
中等数学科教育法Ⅱ	②	中等数学科教育法Ⅰ
中等数学科教育法Ⅲ	②	中等数学科教育法Ⅱ
中等数学科教育法Ⅳ	2	中等数学科教育法Ⅲ
中・高1種「理科」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等理科教育法Ⅰ	②	
中等理科教育法Ⅱ	②	中等理科教育法Ⅰ
中等理科教育法Ⅲ	②	中等理科教育法Ⅱ
中等理科教育法Ⅳ	2	中等理科教育法Ⅲ
中・高1種「外国語(英語)」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等英語科教育法Ⅰ	②	
中等英語科教育法Ⅱ	②	中等英語科教育法Ⅰ
中等英語科教育法Ⅲ	②	中等英語科教育法Ⅱ
中等英語科教育法Ⅳ	2	中等英語科教育法Ⅲ
中・高1種「外国語(中国語)」の免許状を取得するための教科教育法		
授業科目	単位数	先修条件
中等中国語科教育法Ⅰ	②	
中等中国語科教育法Ⅱ	②	中等中国語科教育法Ⅰ
中等中国語科教育法Ⅲ	②	中等中国語科教育法Ⅱ
中等中国語科教育法Ⅳ	2	中等中国語科教育法Ⅲ

◎ 「教育実習事前・事後指導A」の履修と介護等体験について

「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定に伴い、1998年度の入学者より中学校教諭の免許状を取得する場合に、社会福祉施設等における介護等体験が義務づけられました。

本学における介護等体験の流れ

- (1) 「教育実習事前・事後指導A」（通年授業1単位）を3年次春学期に履修します。通常の授業の形式と異なるため、注意してください。スケジュールは掲示板でお知らせします。
- (2) 介護等体験の受け入れ先・体験日数
原則として、社会福祉施設等5日間、特別支援学校2日間、計7日間実施します。
- (3) 介護等体験の申し込み手続きと介護等体験
3年次4月の介護等体験事務説明会時に申し込みを行います。所定の申込用紙を期限までに提出してください。社会福祉施設の場合は、該当の都道府県の社会福祉協議会に対して、又、特別支援学校の場合は、東京都教育委員会に対して、双方とも大学が一括して申し込み手続きを行います。個人での申し込みはできません。
体験先施設と体験日は5月～6月に決定通知が到着次第、掲示でお知らせします。体験先の資料等を教務課で受け取ってください。なお、施設・体験日は原則として変更することはできません。体験先により必要書類（細菌検査等）が異なり、事前に準備が必要です。また、体験当日の遅刻や無断欠席の場合は体験が中止となることもあります。
- (4) 介護等体験証明書
介護等体験の修了後、施設長および学校長より「介護等体験証明書」に証明印を頂き、教務課に提出してください。中学校教諭1種の免許状申請の際に必要な書類です。

◎ 「教育実習事前・事後指導B」「教育実習A」「教育実習B」の履修と教育実習について

- (1) 教育実習は教職に関する科目のひとつとして履修するものであり、学外の実習校において、実地に授業その他の教育活動に参加して行われるものです。しかし、それは本学が責任を持ち、受け入れ側実習校との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を遵守しなければなりません。
- (2) 教育実習校の内諾
教育実習前年度の12月までに、教育実習予定校（原則として出身校）から教育実習の内諾を得てください。学校によっては早めに受付を締切ってしまう所もあるので、各自責任を持って実習予定校と連絡を取ること。内諾が得られなければ、教育実習はできません。また、実習校によっては教育委員会の手続きが必要となる場合もあります。
- (3) 「教育実習事前・事後指導B」の履修
教育実習を予定する前年度の秋学期に教育実習事前・事後指導B（通年1単位）を履修します。学生はクラス別に分かれて指導を受けます。各クラスの指導は、教職課程の専任教員が分担します。クラスについては別途お知らせします。
- (4) 教育実習派遣審査
「教育実習事前・事後指導B」の履修者は3月に行われる教育実習派遣審査の対象となります。審査基準を充たしていない場合は、教育実習を行うことはできません。派遣決定者は3月末に掲示にて発表します。審査基準については、教育実習前年度の春学期中に学内掲示板

および e-Campus の掲示板で公表します。十分に計画性をもって履修を行ってください。

(5) 教育実習の辞退

予定された教育実習が不可能となった場合や問題が生じた場合は、すみやかに教務課に連絡をして、その後の指示を受けてください。

(6) 「教育実習 A」「教育実習 B」の履修方法について

- ・ 中 1 種免取得希望者（高 1 種免同時取得希望者の場合も含む。）
「教育実習 A」「教育実習 B」（計 4 単位）を履修してください。
- ・ 高 1 種免のみ取得希望者
「教育実習 B」（2 単位）を履修してください。

【教科に関する科目】

「教科に関する科目」とは、取得しようとする免許状の教科の内容に関連した科目をいい、以下の表は教育職員免許法施行規則3条及び4条に定められた「教科に関する科目」の修得方法の規定に基づき、本学認定課程における最低修得単位数を示してあります。

本学において、各教科の「教科に関する科目」の具体的な履修の方法及び最低修得単位数は免許教科に関する科目が開設されている該当学群によって異なるので、それぞれの履修方法を理解した上で、履修科目を決定してください。

教科－1 「商業」の教科に関する科目（ビジネスマネジメント学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
商業の関係科目	企業法入門	4	○
	経営史入門	2	
	中小企業入門	4	
	経営管理論	4	
	コンピュータ利用の経営数学	4	
	マーケティング論	4	
	現代流通論	4	
	組織の中の人間関係	4	
	財務管理論	4	
	ファイナンス入門	4	
	リテール経営論	4	
	ビジネス倫理	2	
	財務会計論	4	
	中小企業経営論	4	
	人材開発とモチベーション	4	
	国際金融論	4	
	グローバル経営論	4	
	国際会計	4	
	グローバル・コーポレート・ファイナンス	4	
	異文化経営論	4	
	グローバル企業戦略論	4	
	アジア企業経営論	4	
民法入門	4		
会社法	4		
簿記Ⅰ	2		
簿記Ⅱ	2		
職業指導	職業指導Ⅰ	2	○
	職業指導Ⅱ	2	○

※高1種免許状は、「商業の関係科目」「職業指導」科目区分で、必修科目を含め20単位以上を修得。

教科一 2 「福祉」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程 ※社会福祉専修の学生のみ履修可）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
社会福祉学 (職業指導を含む。)	社会福祉原論	4	○
	地域福祉論	4	
	社会福祉とマネージメント	4	
高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉	老人福祉論	4	○
	児童福祉論	4	○
	障害者福祉論	4	○
社会福祉援助技術	社会福祉援助技術論Ⅰ	4	○
	社会福祉援助技術論Ⅱ	4	
介護理論及び介護技術	介護概論	4	○
社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)	社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	○
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	○
	社会福祉援助技術現場実習	4	○
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	2	○
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	2	○

※高1種免許状は、「社会福祉学（職業指導を含む。）」「高齢者福祉、児童福祉及び障害者福祉」「社会福祉援助技術」「介護理論及び介護技術」「社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設における介護実習を含む。）」科目区分で、必修科目を含め36単位以上を修得。

教科一 3 「保健体育」の教科に関する科目（健康福祉学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
体育実技	スポーツ（ウィークリースポーツ） スポーツ（シーズンスポーツ）	各1 各1	○（注） ○1種目1単位必修(注)
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学」及び運動学（運動方法学を含む。）	健康科学論	4	○ ○ ○ リベラルアーツ学群専攻科目
	健康とスポーツ	2	
	スポーツ心理学	4	
	スポーツ社会学	2	
	運動学	2	
	スポーツコーチ学	4	
	障害者レクリエーション	2	
	健康心理学	4	
生理学 (運動生理学を含む。)	生理学	2	○ リベラルアーツ学群専攻科目
	生理心理学	2	
	栄養学	2	
	スポーツ栄養学	4	
	足の健康科学	4	
	解剖学	2	
	発育発達学	2	
	スポーツ生理学	2	
	健康と食生活	2	
	健康栄養学実験	2	
	体力測定評価実習	1	
	衛生学及び公衆衛生学	衛生学	
公衆衛生学		2	○
学校保健 (小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学	2	○ リベラルアーツ学群専攻科目 リベラルアーツ学群専攻科目
	精神保健学	4	
	精神医学	4	
	健康心理カウンセリング概論	2	
	学校カウンセリング論	2	
	救急処置法	2	
	ストレスマネジメント	2	
	ヘルスカウンセリング	4	

※中1種免許状、高1種免許状は、「体育実技」「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学及び運動学（運動方法等を含む。）」「生理学（運動生理学を含む。）」「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）」科目区分で、必修科目を含め、22単位以上を修得。

(注) スポーツ（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）は以下のように履修すること。

男子：各種「S種目」3種目以上と、各種「指導法」3種目以上

女子：「創作ダンス」に加え、「S種目」2種目以上と各種「指導法」3種目以上。

スポーツ経営学

2

教科一 4 「音楽」の教科に関する科目（総合文化学群の課程 ※音楽専修の学生のみ履修可）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ ソルフェージュⅡ	1 1	○ ○
声楽 (合唱および日本の伝統的な歌唱を含む。)	声楽AⅠ～Ⅷ(注1) 声楽BⅠ～Ⅷ(注1) 合唱Ⅰ(注1) 合唱Ⅱ(注1)	各2 各1 各1 各1	} 2単位以上必修 } 2単位以上必修
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	器楽概論 器楽実技AⅠ～Ⅷ(注1) 器楽実技BⅠ～Ⅷ(注1) ピアノAⅠ～Ⅷ(注1) ピアノBⅠ～Ⅷ(注1) 管楽合奏Ⅰ～Ⅷ(注1) 弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ(注1) 管弦楽合奏Ⅰ～Ⅷ(注1)	2 各2 各1 各2 各1 各1 各1 各2	○ } 4単位以上必修
指揮法	指揮法	2	○
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。） 及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽入門 音楽学 音楽制作演習 西洋音楽史 東洋音楽史 民族音楽研究 ヨーロッパの大衆音楽 宗教音楽史 和声学 対位法	2 4 2 4 2 2 4 4 4 4	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

※中1種免許状、高1種免許状は「ソルフェージュ」「声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)」
「器楽(合奏並びに和楽器を含む。)」「指揮法」「音楽理論、作曲法(編曲法を含む。)&及び音楽史
(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)」科目区分で、必修、選択必修科目を含め24単位以上を修得。

(注1) それぞれ履修ごとに1単位、重複履修可とする。

教科一 5 「美術」の教科に関する科目（総合文化学群の課程

※造形デザイン専修の学生のみ履修可）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法	
絵画 (映像メディア表現を含む。)	美術演習 A	2	} 2 単位以上必修	
	美術演習 B	2		
	造形実技入門 I B	2		
	}	造形実技入門 II B	2	} 4 単位以上必修
		コンピュータ造形 A	4	
		コンピュータ造形 B	4	
		フォトアート演習	2	
彫刻	美術演習 D	2	○	
デザイン (映像メディア表現を含む。)	デザイン論	4	} 2 単位以上必修	
	造形実技入門 I A	2		
	造形実技入門 II A	2		
	造形実技入門 I C	2		
	造形実技入門 II C	2		
	デザイン演習 A	4		
	デザイン演習 B	4		
	デザイン演習 C	4		
	デザイン演習 D	4		
	デザイン演習 E	4		
	デザイン演習 G	4		
	工芸	工芸概論		2
美術演習 C		2		
テキスタイル演習 A		2		
テキスタイル演習 B		2		
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	造形芸術入門	2	○	
	美学	4		
	現代美術論	4		
	色彩構成演習	1		
	西洋美術史 A	4		
	西洋美術史 B	4		
	日本美術史	4	○	
	東洋美術史	4	○	

※中 1 種免許状は、「絵画（映像メディア表現を含む。）」「彫刻」「デザイン（映像メディア表現を含む。）」「美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）」「工芸」科目区分で、必修、選択必修科目を含め 26 単位以上を修得。

※高 1 種免許状は、「絵画（映像メディア表現を含む。）」「彫刻」「デザイン（映像メディア表現を含む。）」「美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）」科目区分で、必修、選択必修科目を含め 24 単位以上を修得。

教科一6 「国語」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論	2	○ } 1科目以上選択必修 } 1科目以上選択必修
	日本語の文字・表記	2	
	日本語の表現	4	
	日本語の語彙・意味	4	
	日本語の音声	2	
	日本語の文法	4	
	日本語史	2	
	言語表現A	2	
	言語表現B	2	
	国文学 (国文学史を含む。)	日本文学史A	
日本文学史B		4	
日本文学講読A		2	
日本文学講読B		2	
日本文学講読C		2	
日本文学講読D		2	
日本文学講読E		2	
平安文学の世界		4	
中世文学の世界		4	
江戸文学の世界		4	
近代文学の世界		4	
現代文学の世界		4	
漢文学	中国文言文講読	2	○ } 1科目以上選択必修
	中国古典文学研究	4	
	中国古代思想研究	4	
	中国文字学研究	4	
書道 (書写を中心とする。)	書写	2	○ } 中1種のみ
	書道研究Ⅰ	2	
	書道研究Ⅱ	2	

※中1種免許状は、「国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）」「国文学（国文学史を含む。）」「漢文学」「書道（書写を中心とする。）」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、24単位以上を修得。

※高1種免許状は、「国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）」「国文学（国文学史を含む。）」「漢文学」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、22単位以上を修得。

教科一 7 「社会・地理歴史・公民」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分			本学における授業科目	単 位	履修方法		
高1種 地理歴史	高1種 公民	中1種 社会			高1種 地理歴史	高1種 公民	中1種 社会
日本史			日本史概論	4	○ * }		○
			日本の歴史Ⅰ	4			
			日本の歴史Ⅱ	4			
世界史における日本	4						
外国史		日本史 及び 外国史	世界史概論	4	○ * }		○
			国際関係史Ⅰ	4			
			国際関係史Ⅱ	4			
			アメリカの歴史	4			
			アメリカ社会史	4			
			アジアの歴史Ⅰ	4			
			アジアの歴史Ⅱ	4			
経済史	4						
日本経済史	4						
社会思想史	4						
人文地理 学及び自然地理学			地理学概論	4	○ * }		○
			文化地理学	4			
			自然地理学概論	4			
			文化人類学	4			
			発展途上国論	4			
			地球規模環境論	4			
地誌		地 理 学 (地 誌 を 含む。)	地誌学概論	2	○ * }		○
			アジア研究概論	4			
			東アジア研究	4			
			東南アジア研究	4			
			南アジア研究	4			
			アジア英連邦論	4			
			アメリカ研究概論	4			
			オセアニアの政治と経済	4			
			日本研究概論	4			
			政治学概論	4			
法学概論(国際法を含む)	4						
国際法Ⅰ	4						
国際法Ⅱ	4						
国際政治論	4						
政治過程論	4						
比較政治学	4						
国際機構論	4						
平和論	4						
アメリカの政治	4						
日本の政治	4						
アジアの政治	4						
民法	4						

免許法の科目区分			単 位	履修方法						
高1種 地理歴史	高1種 公民	中1種 社会		高1種 地理歴史	高1種 公民	中1種 社会				
	「社会学、 経済学 (国際経済を 含む。)」	「社会学、 経済学」	経済学概論	}	○	} 1科目 選択 必修				
			社会学概論							
			比較社会学							
			国際経済論							
			国際金融論							
			国際貿易論							
			多国籍企業論							
			アメリカの経済							
			日本の経済							
			アジアの経済							
			アジアの社会							
			社会政策							
			ミクロ経済学							
			マクロ経済学							
			経済開発論							
			経済統計論							
			財政学							
	金融論									
	経済政策									
	「哲学、 倫理学、 宗教学、 心理学」		心理人類学	}	}	} 1科目 選択 必修				
			心理学概論							
		「哲学、 倫理学、 宗教学」					哲学概論	}	}	} 1科目 選択 必修
							倫理学概論			
							宗教学概論			
							日本の宗教			
							アジアの思想と宗教			
							キリスト教文化論			
							仏教文化論			
							儒教文化論			
							イスラム文化論			
	日本文化論									

「*」の科目から2科目以上選択必修

※中1種免許状(社会)は、「日本史及び外国史」「地理学(地誌を含む。」「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、26単位以上を修得。

※高1種免許状(地理歴史)は、「日本史」「外国史」「人文地理学及び自然地理学」「地誌」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、22単位以上を修得。

※高1種免許状(公民)は、「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。」「社会学、経済学(国際経済を含む。」「哲学、倫理学、宗教学、心理学」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得。

教科一 8 「数学」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
代数学	線形代数学	4	○
	代数学	4	
	数学概論	2	
幾何学	幾何学	4	○
	離散数学	4	
解析学	微分積分学	4	} 1科目選択必修
	数学演習	2	
	解析学	4	
「確率論、統計学」	確率論と統計学	4	○
コンピュータ	コンピュータとデータ解析	2	○

※中1種免許状、高1種免許状は、「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論、統計学」「コンピュータ」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得。

教科一 9 「理科」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程 リベラルアーツ学群の学生のみ履修可）

○…教科に関する科目としての必修科目

高 1 種	中 1 種	本学における授業科目	単位	履修方法
物理学	物理学	物理学概論	2	○ * }
		力学	4	
		電磁気学	4	
		統計物理学	4	
		量子力学	4	
		物理学特論Ⅰ	2	
		物理学特論Ⅱ	2	
化学	化学	化学概論	2	○ * }
		有機化学	4	
		物理化学	4	
		分析化学	4	
		無機化学	4	
		化学特論Ⅰ	2	
		化学特論Ⅱ	2	
生物学	生物学	生物学概論	2	○ * }
		植物学	4	
		動物学	4	
		生態学	4	
		生理学	4	
		生化学	4	
		生物学特論Ⅰ	2	
生物学特論Ⅱ	2			
地学	地学	地学概論	2	○ * }
		地球物理学	4	
		気象学	4	
		天文学	4	
		地質学	4	
		地学特論Ⅰ	2	
		地学特論Ⅱ	2	

高 1 種	中 1 種	本学における授業科目	単位	履修方法
「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）」	物理学実験Ⅰ 物理学実験Ⅱ	2 2	○
	化学実験（コンピュータ活用を含む。）」	化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	2 2	○
	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）」	生物学実験Ⅰ 生物学実験Ⅱ	2 2	○
	地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	地学実験Ⅰ 地学実験Ⅱ	2 2	○

「*」の科目から1科目以上選択必修

※中1種免許状は、「物理学」「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）」「化学」「化学実験（コンピュータ活用を含む。）」「生物学」「生物学実験（コンピュータ活用を含む。）」「地学」「地学実験（コンピュータ活用を含む。）」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得。

※高1種免許状は、「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得。

教科一10 「情報」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
情報社会及び情報倫理	情報と社会	2	○
	情報と倫理	2	○
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	ソフトウェア概論	4	○
	コンピュータリテラシーⅡ	2	○
	情報デザイン論	2	
	プログラミングⅠ	2	
	プログラミングⅡ	2	
	Web ページプログラミング	2	
	知識表現とプログラミング	2	
情報システム（実習を含む。）	情報システム論	4	○
	応用表計算プログラミング [△]	2	○
	システム設計論	4	
	ヒューマンコンピュータインタフェース ^イ	4	
	情報分析論	4	
	データベース入門	4	
	データベース応用論	4	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報ネットワーク入門	2	○
	情報セキュリティ ^キ 論	2	
	情報ネットワーク演習	2	
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	マルチメディア表現Ⅰ	4	○
	マルチメディア表現Ⅱ	4	
情報と職業	情報と職業	2	○

※高1種免許状は、「情報社会及び情報倫理」「コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）」「情報システム（実習を含む。）」「情報通信ネットワーク（実習を含む。）」「マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）」「情報と職業」科目区分で、必修科目を含め、24単位以上を修得。

教科一11 「外国語（英語）」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
英語学	英語学入門	4	○
	英語の音声	4	○
	英語の歴史	4	
	英語語彙論	4	
	英語統語論	4	
	英語意味論	4	
	英語教材開発	4	
	英作文指導法	4	
	第二言語習得法	4	
	CALL	4	
	英文法指導法	4	
	言語テストと評価	4	
	T E F L	4	
	応用言語学	4	
英米文学	英米文学入門	4	○
	19世紀のイギリス文学	4	
	20世紀のイギリス文学	4	
	19世紀のアメリカ文学	4	
	20世紀のアメリカ文学	4	
	英米文学と宗教	4	
	英米演劇文学	4	
英語コミュニケーション	英語コミュニケーションA	4	} 1科目以上必修
	英語コミュニケーションB	4	
	英語コミュニケーションC	4	
	英語コミュニケーションD	4	
	翻訳（英→日）	4	
	翻訳（日→英）	4	
	通訳Ⅰ	4	
	通訳Ⅱ	4	
異文化理解	アメリカ文化	4	} 1科目以上必修
	イギリス文化	4	
	コモンウェルスの文化	4	
	カルチュラル・スタディーズ	4	
	映画と英語圏文化	4	
	ポップ・カルチャー	4	

※中1種免許状、高1種免許状は、上記表のとおり、必修、選択必修科目を含め20単位を修得したうえで、さらに下記のとおり28単位を修得すること。

1. 「英語エクステンションA、B」から合計8単位修得する。
（この8単位は、リベラルアーツ学群のGOプログラム参加による「外国語」8単位免除によって替えることは出来ない。）
2. 「英語学」科目区分から12単位、「英米文学」科目区分から4単位、「英語コミュニケーション」科目区分と「異文化理解」科目区分のいずれかから4単位、計20単位を修得する。

教科-12 「外国語（中国語）」の教科に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

○…教科に関する科目としての必修科目

免許法の科目区分	本学における授業科目	単位	履修方法
中国語学	中国語学概論	2	○
	中国語音声学	4	○
	中国語文法	4	○
	中国語教育研究	4	
	日中対照言語研究	4	
中国文学	中国文学概論	4	○
	中国古典文学史	4	
	中国近現代文学史	4	
中国語コミュニケーション	中国語発音トレーニング	1	} 1科目以上必修
	中国語リスニングⅠ	1	
	中国語リスニングⅡ	2	
	中国語会話Ⅰ	2	
	中国語会話Ⅱ	2	} 1科目以上必修
	中国語会話Ⅲ	2	
	中国語会話Ⅳ	2	
	中国語会話Ⅴ	2	
	中国語会話Ⅵ	2	} 1科目以上必修
	中国語講読Ⅰ	2	
	中国語講読Ⅱ	2	
	中国語作文Ⅰ	2	
	中国語作文Ⅱ	2	
	ビジネス中国語Ⅰ	2	
	ビジネス中国語Ⅱ	2	
	ビジネス中国語Ⅲ	2	
	時事中国語	2	
日中翻訳技法	2		
日中通訳技法	2		
異文化理解	中国思想史	4	} 1科目以上必修
	現代中国文化論	4	
	中国の芸術	4	
	日中比較文化	4	

※中1種免許状、高1種免許状は、「中国語学」「中国文学」「中国語コミュニケーション」「異文化理解」科目区分で、必修、選択必修科目を含め、20単位以上を修得。

【教科又は教職に関する科目】

教育職員免許法第5条別表第1により、第5表-1のとおり「教科又は教職に関する科目」として中1種免の所要単位として8単位以上、高1種免の所要単位として16単位以上を修得しなければなりません。

「教科又は教職に関する科目」の単位の修得方法は、「教科に関する科目」又は、「教職に関する科目」についての規定の最低修得単位を超えて修得した単位数をもってこれに充てることができる。

さらに、本学としては、「大学が加えるこれに準ずる科目」として、第5表-2にあげた科目が認定を受けており、この科目を修得することで「教科又は教職に関する科目」の単位の充てることができます。（教育職員免許法施行規則第6条の2）

第5表-1

教科又は教職に関する科目の 最低修得単位数	中1種免	8単位
	高1種免	16単位

第5表-2

授 業 科 目	単位数	備 考
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	学校図書館司書教諭講習の開講科目 ※P.198の2.を参照
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	2	
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	
読 書 と 豊 かな 人 間 性	2	
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	2	

【教育職員免許法施行規則66条の6で定める科目（一般教養科目）】

免許状を取得するためには、「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」、「情報機器の操作」各2単位修得する必要があるため、第6表に示す科目を、できる限り1年次に修得しておいてください。

第6表 施行規則66条の6に定める科目

免許状の規定		授 業 科 目	単 位	履 修 方 法
科 目	単位数			
日本国憲法	2	日本国憲法	②	
体 育	2	健康とスポーツ	2	} 2単位必修
		スポーツ（ウィークリースポーツ）	1	
		スポーツ（シーズンスポーツ）	1	
外国語コミュニケーション	2	英語コアⅠA	2	} 2単位必修
		英語コアⅠB	2	
		英語コアⅡA	2	
		英語コアⅡB	2	
情報機器の操作	2	コンピュータリテラシーⅠ	2	} 2単位必修
		コンピュータリテラシーⅡ	2	

○……教職課程上の必修科目

≪教職課程の履修と事務手続きの日程≫

学期	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
春 学 期		<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 課程登録 個人票の提出 課程履修費の納入 教育実習校の事前調査</p> <p>教科教育法Ⅰの履修開始 (音楽・美術・理科を除く)</p>	<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 個人票の提出 (履修継続の意 志確認) 単位確認表により履修状況の 確認 教育実習内諸関係書類の配布</p> <p>教育実習予定校へ内諾申請 (4月～12月)</p> <p>介護等体験事務説明会 「教育実習事前・事後指導A」の 履修 介護等体験開始 (6月～3月)</p> <p>教育実習派遣審査基準公表</p>	<p>4月</p> <p>教職課程オリエンテーション 個人票の提出 (履修継続の意 志確認) 単位確認表により履修状況の 確認</p> <p>教育実習直前事務説明会 「教育実習A」・「教育実習B」の 履修 教育実習開始 (5月～12月)</p>
秋 学 期	<p>9月</p> <p>教職課程オリエンテーション</p>	<p>9月</p> <p>教科教育法Ⅰの履修開始 (音楽・美術・理科)</p>	<p>9月</p> <p>「教育実習事前・事後指導B」の 履修</p> <p>10月</p> <p>東京都立学校教育実習の申請 手続き</p> <p>12月</p> <p>東京都立学校教育実習の決定</p> <p>1月</p> <p>「教育実習事前・事後指導A」(事 後指導) 授業</p> <p>3月</p> <p>教育実習派遣審査 教育実習派遣者の決定</p>	<p>9月</p> <p>履修説明会 (予定)</p> <p>10月</p> <p>教職免許状大学一括申請事務説 明会</p> <p>12月</p> <p>大学一括申請 宣誓書捺印 「学校図書館司書教諭講習修了 書交付」申請</p> <p>3月</p> <p>免許状授与</p>
教 職 課 程 履 修 の め や す	<p>◎基礎教育科目に加えて下記の 科目を履修する。 * 日本国憲法 健康とスポーツ スポーツ (ウィークリースポーツ) (シーズンスポーツ)</p>	<p>◎下記の「教職に関する科目」 から履修する。 * 教科教育法Ⅰ * 教科教育法Ⅱ * 教職入門 * 教育原理 * 教育心理学 * 教育制度論 * 教育課程論 道徳教育論 * 特別活動論 * 教育方法論 * 生徒指導論 * 進路指導論</p> <p>◎各教科の「教科に関する科目」 の必修、選択必修科目を中心 に履修する。</p> <p>◎「教職に関する科目」「教科 に関する科目」をバランスよ く履修する。</p>	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目を修得する。 * 教科教育法Ⅲ * 教科教育法Ⅳ * 教育実習事前・事後指導A * 教育実習事前・事後指導B * 教育心理学 * 教育制度論 * 教育課程論 道徳教育論 * 特別活動論 * 教育方法論 * 生徒指導論 * 進路指導論 * 教職総合演習</p> <p>◎各教科の「教科に関する科目」 の必修、選択必修科目を中心 に派遣審査の基準を充たすよ うに修得する。</p>	<p>◎「教職に関する科目」から下 記の科目を履修する。 * 教育実習A 教育実習B</p> <p>◎「教職に関する科目」「教科 に関する科目」の必要単位 数をすべて充たすように修得 する。</p>

*は教職課程の必修科目
下線の科目は当該年次の必修科目

《参考資料》授与される免許状の種類と法令上の必要最低単位数

教育職員免許法施行規則に定められている免許状取得に必要な各区分の最低単位数は次に示す通りです。

(教育職員免許法第5条関係 別表第1より)

第1欄	免許状の種類 所要資格		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
第2欄	基礎資格		修士の学位を有すること	学士の学位を有すること	短期大学士の学位を有すること	修士の学位を有すること	学士の学位を有すること
第3欄	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数	教科に関する科目	20	20	10	20	20
		教職に関する科目	31	31	21	23	23
		教科又は教職に関する科目	32	8	4	40	16

(教育職員免許法施行規則第6条)「教職に関する科目」の最低修得単位数

第1欄	免許状の種類 教職に関する科目		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
第2欄	教職の意義等に関する科目		2	2	2	2	2
第3欄	教育の基礎理論に関する科目		6	6	4	6	6
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目		12	12	4	6	6
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		4	4	4	4	4
第5欄	総合演習		2	2	2	2	2
第6欄	教育実習		5	5	5	3	3

(教育職員免許法施行規則第66条の6)

第1欄	免許状の種類 66条の6の科目		中学校教諭			高等学校教諭	
			専修免許状	1種免許状	2種免許状	専修免許状	1種免許状
	日本国憲法		2	2	2	2	2
	体育		2	2	2	2	2
	外国語コミュニケーション		2	2	2	2	2
	情報機器の操作		2	2	2	2	2

(6) **教育職員免許状の申請**

免許状は、教育職員免許法第5条第6項により、各都道府県教育委員会が授与します。

申請の方法は2通りあります。

個人申請 個人が居住する（住民票のある）都道府県教育委員会に免許状の授与申請をすることによって当該免許状を取得することができます。

一括申請 東京都教育委員会が、都内の課程認定を受けている大学に対して学生の便宜を図るために、大学が一括して東京都教育委員会に免許状授与の申請を行う制度。

(7) **各種証明書**

教職課程に関し教務課で申し込み、発行する証明書は以下の通りです。（有料）

- ・教育職員免許状取得見込証明書（1通100円）
- ・基礎資格及び単位修得証明書（1通200円）

※発行には日数を要するので、必要と思われる場合には早めに申し込んでください。

尚、電話での申し込みは一切受け付けません。

2. 学校図書館司書教諭

学校図書館司書教諭は、学校図書館の専門的職務にたずさわることを目的とし、「学校図書館法」によって定められたもので、文部科学省令で規定している講習を受けてはじめて与えられる資格です。

(1) 学校図書館司書教諭の資格取得

学校図書館司書教諭講習の受講生は教職課程を必ず履修登録していなければなりません。また、学校図書館司書教諭講習規定の定めによって、大学で文部科学省の法令で定められた講習に相当する単位（5科目10単位）を修得しなければなりません。

※教育職員免許状を取得していないと申請できません。

(2) 学校図書館司書教諭の資格を取得するための必修単位

所定の単位は、学校図書館司書教諭講習規程第3条第1項に示されていますが、関連する本学における開講科目は次表の通りです。

《学校図書館司書教諭講習の開講授業科目》

本学の授業科目名	単位	履修年次
学校経営と学校図書館	2	3
学校図書館メディアの構成	2	3
学習指導と学校図書館	2	3
読書と豊かな人間性	2	3
情報メディアの活用	2	3

(3) 学校図書館司書教諭の修了書交付申請について

本学の学校図書館司書教諭講習での所定の単位を修得した学生は、講習規定第6条の規定により、免許状を交付された後（卒業後）に所定の手続きに沿って学校図書館司書教諭講習修了証（以下、修了証という）の交付申請を行います。

この修了証の交付を申請する学生は、卒業年度12月に申請手続きをしてください（詳細については掲示します）。なお、申請者には卒業後約1年後に、修了証を本学より郵送します。

2007年度入学者用 桜美林大学履修ガイド（リベラルアーツ学群改訂版）

平成20年4月1日発行

桜美林大学

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758

電話 042 (797) 2661 (代表)

製作／株式会社ポートサイド印刷

この履修ガイドは再生紙を使っております。